

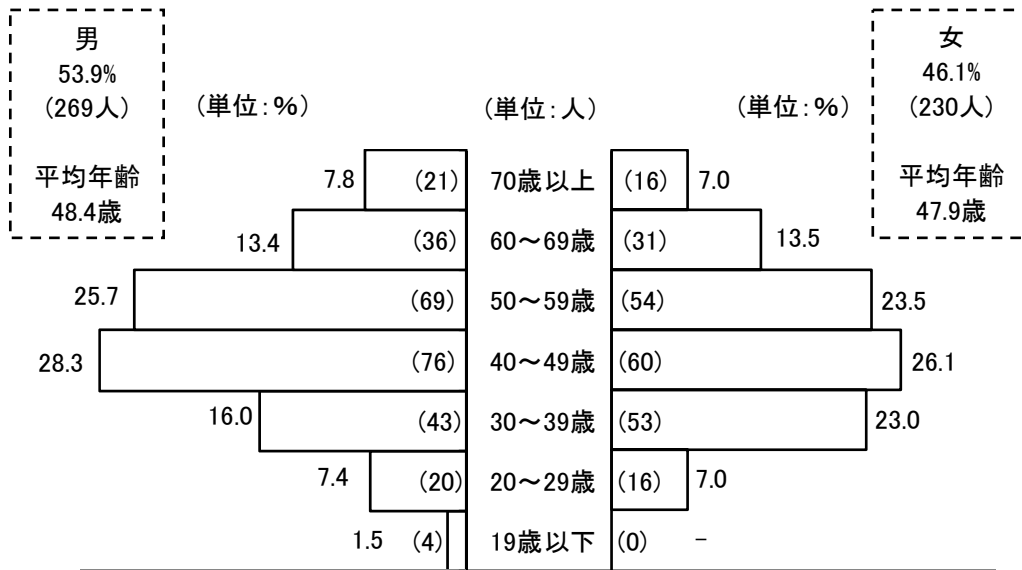
第4章 精神障害者の状況

1 基本的属性

(1) 性・年齢階級

回答者を性別にみると、「男性」は53.9%（269人）、「女性」は46.1%（230人）となっている。年齢階級別にみると、「40代」の割合は、「男性」では28.3%、「女性」では26.1%となっている。（図IV-1-1）

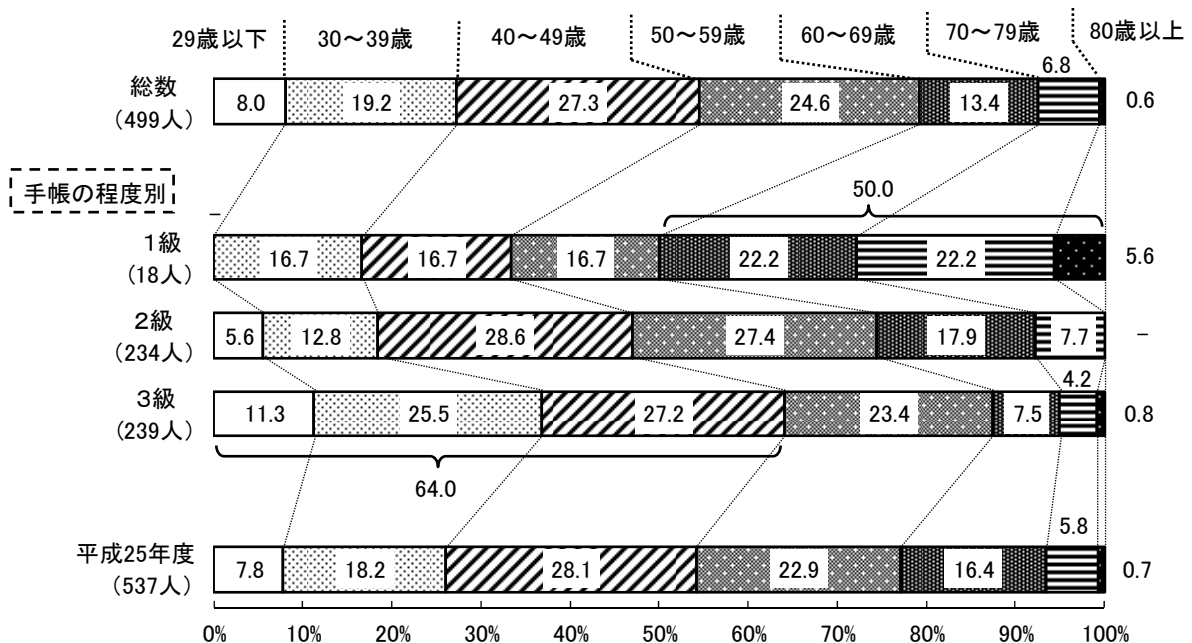
図IV-1-1 性・年齢階級



(2) 年齢階級—精神障害者保健福祉手帳の程度別

年齢階級を精神障害者保健福祉手帳の程度別にみると、1級では60歳以上の割合が50.0%、3級では49歳以下が64.0%となっている。（図IV-1-2）

図IV-1-2 年齢階級—精神障害者保健福祉手帳の程度別



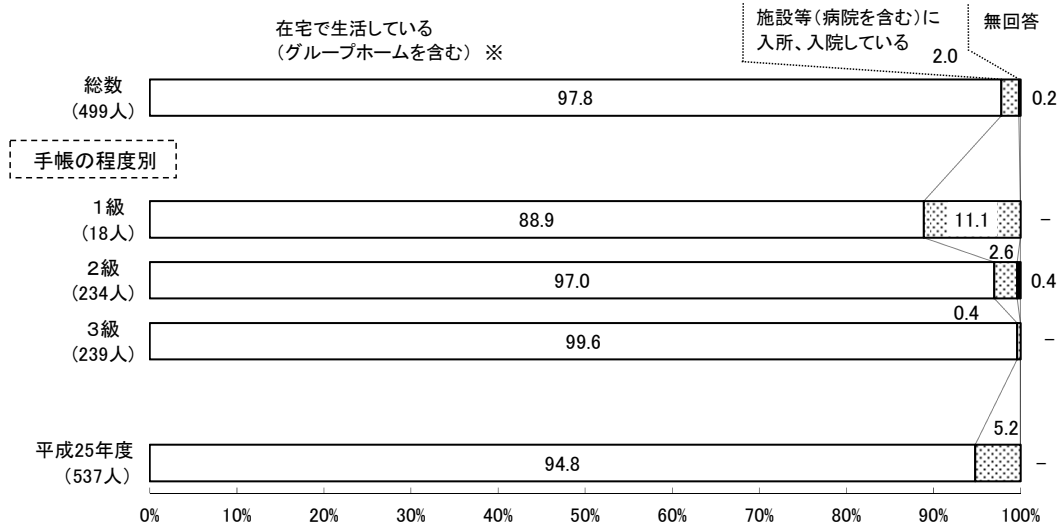
(3) 現在の生活の場—精神障害者保健福祉手帳の程度別

「在宅で生活している（グループホームを含む）」割合は 97.8%

現在の生活の場を聞いたところ、「在宅で生活している（グループホームを含む）」割合が 97.8%、「施設等（病院を含む）に入所、入院している」が 2.0%となっている。

精神障害者保健福祉手帳の程度別にみると、「施設等（病院を含む）に入所、入院している」割合は、1級が 11.1%となっている。（図IV-1-3）

図IV-1-3 現在の生活の場—精神障害者保健福祉手帳の程度別



注) ※は、平成 25 年度調査では「在宅で生活している（グループホーム、ケアホームを含む）」としていた。

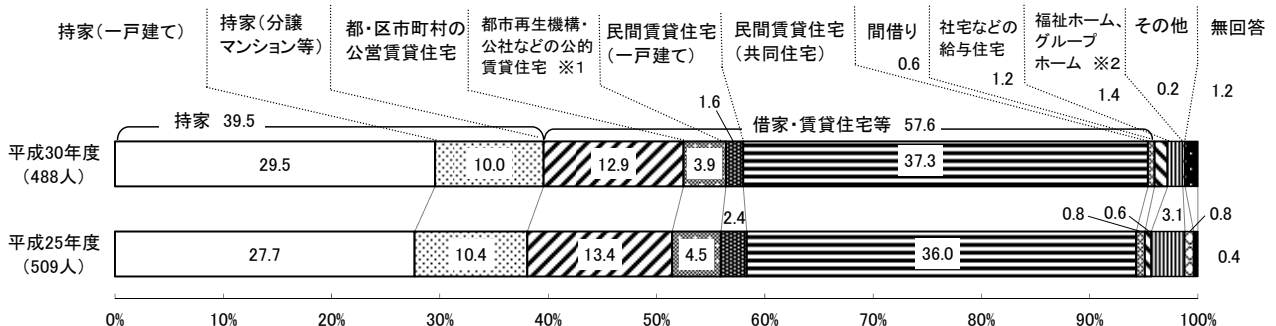
(4) 住居の種類

※在宅で生活している（グループホームを含む）488人が対象

住宅の種類は「持家」が 39.5%、「借家・賃貸住宅等」が 57.6%

住居の種類を聞いたところ、「借家・賃貸住宅等」の割合が 57.6%、「持家」が 39.5%となっている。（図IV-1-4）

図IV-1-4 住居の種類



注1) 住居の種類については、所有、賃貸の名義が障害者本人と限定していない。そのため、家族等の名義になっている場合も含まれており、必ずしも対象者本人が住居の所有者又は賃貸の名義人とは限らない。

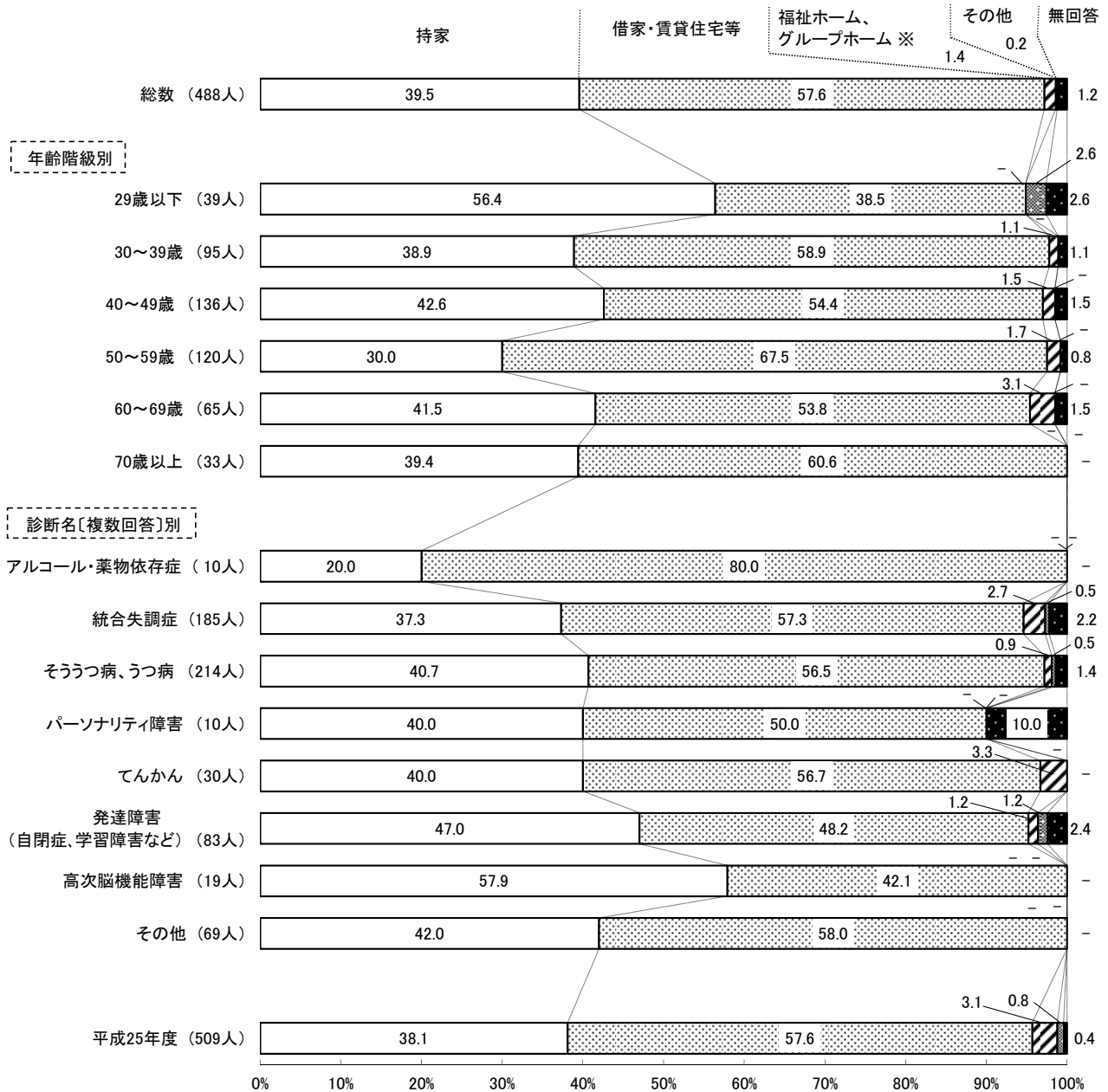
2) ※1は、平成 25 年度調査では「都市機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅」としていた。

3) ※2は、平成 25 年度調査では「福祉ホーム、グループホーム、ケアホーム」としていた。

(5) 住居の種類一年齢階級、診断名〔複数回答〕別

住居の種類を年齢階級別にみると、50代及び70歳以上では、「借家・賃貸住宅等」の割合が6割を超えている（67.5%、60.6%）。（図IV-1-5）

図IV-1-5 住居の種類一年齢階級、診断名〔複数回答〕別



注1) 「第4章 精神障害者の状況」の精神障害の診断名は「ICD-10 (国際疾病分類)」で主だったものを表記している。

「その他」の内訳としてはパニック障害などが含まれる。

なお、ICD-10 (国際疾病分類) とは、世界保健機構 (WHO) が作成した疾病及び関連保健問題の国際統計分類のことである。

2) ※は、平成25年度調査では「福祉ホーム、グループホーム、ケアホーム」としていた。

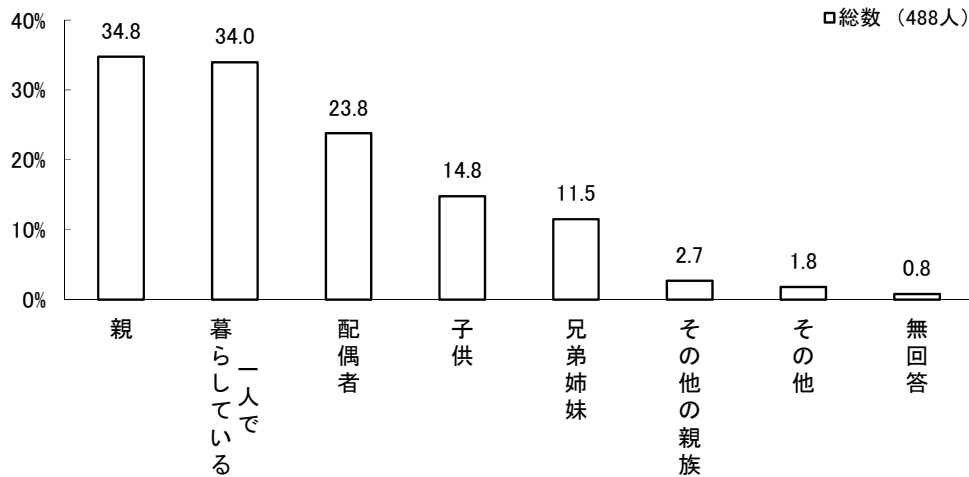
(6) 現在一緒に生活している人〔複数回答〕

※在宅で生活している（グループホームを含む）488人が対象

げんざい いっしょ せいかつ ひと おや わりあい
 現在一緒に生活している人は、「親」の割合が34.8%

現在一緒に生活している人を聞いたところ、「親」の割合が34.8%、「一人で暮らしている」が34.0%となっている。（図IV-1-6）

図IV-1-6 現在一緒に生活している人〔複数回答〕



(7) 現在一緒に生活している人〔複数回答〕一年齢階級別

※在宅で生活している（グループホームを含む）488人が対象

現在一緒に生活している人を年齢階級別にみると、「親」の割合は、29歳以下が82.1%で最も高くなっている。「一人で暮らしている」の割合は、65歳以上が48.6%となっている。

（表IV-1-1）

表IV-1-1 現在一緒に生活している人〔複数回答〕一年齢階級別

	総数	親	配偶者	子供	兄弟姉妹	親その他の	一人で暮らしている	その他	無回答
総数	100.0 (488)	34.8	23.8	14.8	11.5	2.7	34.0	1.8	0.8
29歳以下	100.0 (39)	82.1	2.6	-	48.7	12.8	15.4	-	-
30～39歳	100.0 (95)	45.3	26.3	17.9	8.4	1.1	20.0	5.3	2.1
40～49歳	100.0 (136)	42.6	20.6	15.4	11.0	1.5	31.6	1.5	0.7
50～59歳	100.0 (120)	24.2	22.5	14.2	5.0	3.3	45.0	0.8	-
60～69歳	100.0 (65)	9.2	32.3	16.9	12.3	-	44.6	1.5	1.5
70歳以上	100.0 (33)	6.1	42.4	18.2	-	3.0	45.5	-	-
(再掲)65歳以上	100.0 (70)	4.3	37.1	17.1	5.7	1.4	48.6	1.4	-

(8) 現在の主な介護者一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

※在宅で生活している（グループホームを含む）488人が対象

「^{かいごしや}介護者はいない」の割合が最も高く54.1%、主な介護者は「^{わりあい}母親」の割合が16.4%

現在の主な介護者は誰か聞いたところ、「介護者はいない」と回答した割合が54.1%で最も高く、主な介護者の中では「母親」と回答した割合が16.4%となっている。

主な介護者を年齢階級別にみると、「母親」の割合は、29歳以下が43.6%となっている。「配偶者」の割合は、60代が27.7%、70歳以上が33.3%となっている。

精神障害者保健福祉手帳の程度別にみると、「介護者はいない」の割合は、3級が63.9%となっている。（表IV-1-2）

表IV-1-2 現在の主な介護者一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

		総数	父親	母親	配偶者	子供	兄弟姉妹	その他の親族	介護者はいない	その他	無回答
総数		100.0 (488)	4.1	<u>16.4</u>	13.3	0.8	2.0	0.2	<u>54.1</u>	3.1	5.9
年齢階級別	29歳以下	100.0 (39)	5.1	<u>43.6</u>	2.6	-	-	-	41.0	-	7.7
	30～39歳	100.0 (95)	3.2	17.9	8.4	-	-	-	63.2	3.2	4.2
	40～49歳	100.0 (136)	6.6	24.3	9.6	0.7	-	0.7	48.5	2.2	7.4
	50～59歳	100.0 (120)	5.0	10.0	11.7	-	2.5	-	60.8	2.5	7.5
	60～69歳	100.0 (65)	-	1.5	<u>27.7</u>	1.5	9.2	-	52.3	6.2	1.5
	70歳以上	100.0 (33)	-	-	<u>33.3</u>	6.1	3.0	-	45.5	6.1	6.1
	(再掲)65歳以上	100.0 (70)	-	-	30.0	2.9	7.1	-	50.0	7.1	2.9
福祉手帳の程度別	1級	100.0 (16)	6.3	31.3	25.0	12.5	6.3	-	18.8	-	-
	2級	100.0 (227)	6.2	20.3	14.5	0.4	3.1	0.4	46.3	3.5	5.3
	3級	100.0 (238)	2.1	11.8	10.9	0.4	0.8	-	<u>63.9</u>	2.9	7.1

(9) 主な介護者の年齢一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

※介護者がいる 195 人が対象

おも かいごしや わんれい さいいじょう やく わり
主な介護者の年齢は 65歳以上が約 5割

主な介護者の年齢を聞いたところ、70代の割合が29.7%、60代が17.9%、50代が13.8%となっており、65歳以上の割合は約5割となっている。

年齢階級別にみると、主な介護者が「50代」の割合は、回答者の年齢が29歳以下で50.0%、主な介護者が「80歳以上」の割合は、回答者の年齢が50代で34.2%となっている。主な介護者が「70代」の割合は、回答者の年齢が40代及び70歳以上で5割を超えている(55.0%、56.3%)。(表IV-1-3)

表IV-1-3 主な介護者の年齢一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

		総数	主な介護者の年齢										
			1 9 歳 以 下	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 5 7 9 歳	8 0 歳 以 上	不 明	無 回 答	(再 掲) 6 5 歳 以 上
総数		100.0 (195)	-	1.5	3.6	8.2	<u>13.8</u>	<u>17.9</u>	<u>29.7</u>	9.7	7.2	8.2	<u>49.2</u>
(回答者の年齢)	29歳以下	100.0 (20)	-	-	5.0	5.0	<u>50.0</u>	20.0	-	-	15.0	5.0	-
	30~39歳	100.0 (31)	-	3.2	16.1	12.9	6.5	38.7	9.7	6.5	3.2	3.2	35.5
	40~49歳	100.0 (60)	-	1.7	1.7	15.0	1.7	3.3	<u>55.0</u>	3.3	10.0	8.3	61.7
	50~59歳	100.0 (38)	-	-	-	5.3	23.7	15.8	10.5	<u>34.2</u>	-	10.5	52.6
	60~69歳	100.0 (30)	-	3.3	-	-	13.3	30.0	30.0	3.3	6.7	13.3	53.3
	70歳以上	100.0 (16)	-	-	-	-	6.3	12.5	<u>56.3</u>	6.3	12.5	6.3	75.0
	(再掲) 65歳以上	100.0 (33)	-	-	-	-	3.0	21.2	51.5	3.0	12.1	9.1	72.7
精神障害者 の 保 健 福 祉 手 帳 の 程 度 別	1級	100.0 (13)	-	-	-	-	15.4	30.8	30.8	15.4	7.7	-	76.9
	2級	100.0 (110)	-	0.9	1.8	6.4	10.9	19.1	38.2	10.9	6.4	5.5	58.2
	3級	100.0 (69)	-	2.9	5.8	13.0	18.8	11.6	17.4	7.2	8.7	14.5	30.4

2 障害の状況

(1) 精神障害者保健福祉手帳の程度一年齢階級、診断名〔複数回答〕別

精神障害者保健福祉手帳の程度は「3級」が47.9%

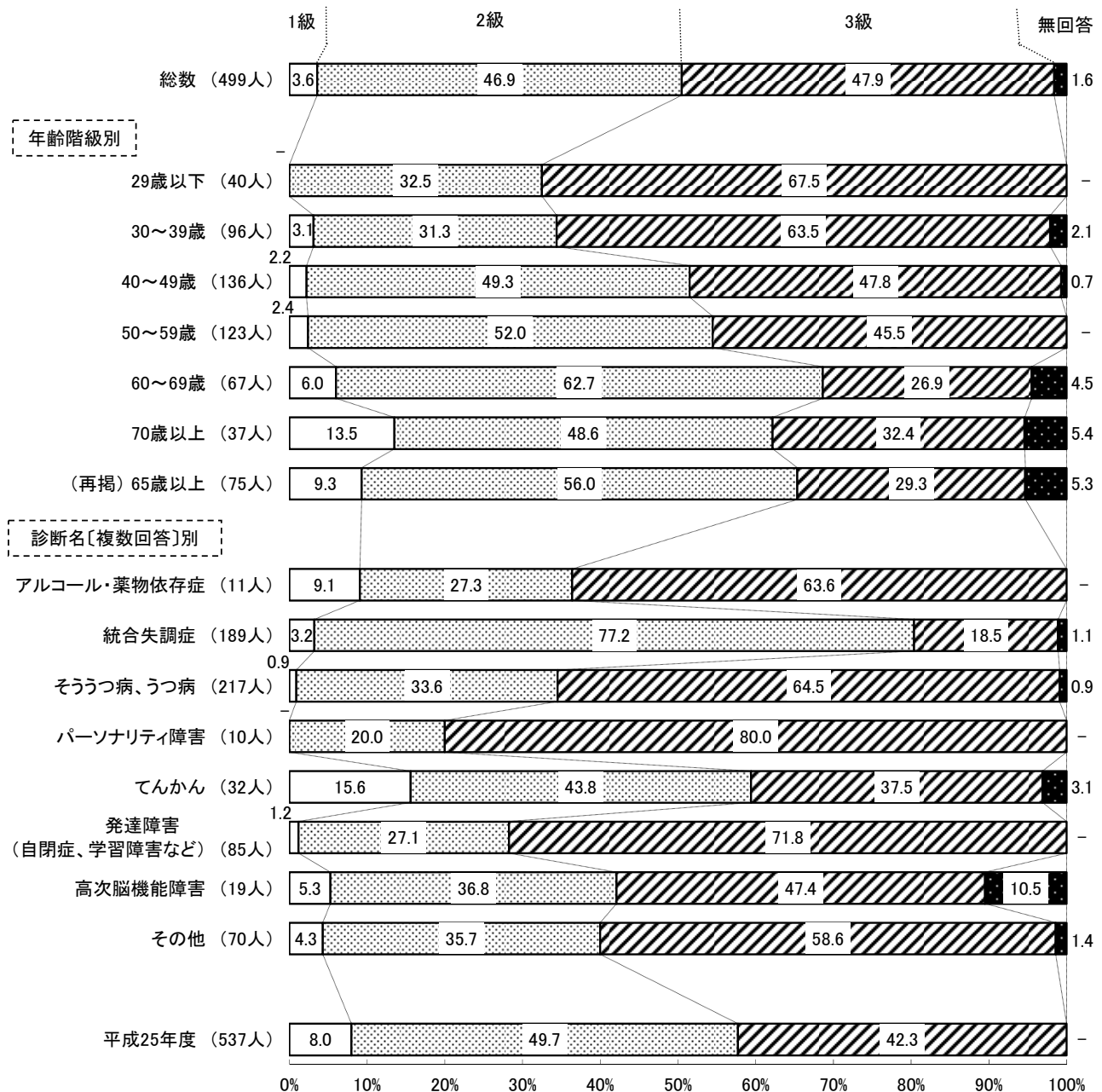
精神障害者保健福祉手帳の程度を聞いたところ、「3級」の割合が47.9%、「2級」が46.9%、「1級」が3.6%となっている。

年齢階級別にみると、「2級」の割合は、60代が62.7%となっている。「3級」の割合は、29歳以下及び30代が6割を超えている（67.5%、63.5%）。

診断名別にみると、「2級」の割合は、統合失調症が77.2%で最も高くなっている。

(図IV-2-1)

図IV-2-1 精神障害者保健福祉手帳の程度一年齢階級、診断名〔複数回答〕別



(2) 初診時の年齢（精神疾患にかかわる病気）一年齢階級、診断名〔複数回答〕別

精神疾患にかかわる病気（てんかんを含む）の初診時の年齢は「20～29歳」が33.9%

初診時の年齢を聞いたところ、「20～29歳」の割合が33.9%、「30～39歳」が22.0%となっている。（表IV-2-1）

表IV-2-1 初診時の年齢（精神疾患にかかわる病気）一年齢階級、診断名〔複数回答〕別

		総数	初診時の年齢（精神疾患にかかわる病気）								無回答
			0 ～ 9 歳	1 0 ～ 1 9 歳	2 0 ～ 2 9 歳	3 0 ～ 3 9 歳	4 0 ～ 4 9 歳	5 0 ～ 5 9 歳	6 0 歳 以上	覚えて いない ・	
総数		100.0 (499)	2.4	16.6	33.9	22.0	12.8	5.8	2.6	2.6	1.2
（調査基準日現在の年齢）	29歳以下	100.0 (40)	15.0	42.5	42.5	-	-	-	-	-	-
	30～39歳	100.0 (96)	2.1	27.1	53.1	16.7	-	-	-	-	1.0
	40～49歳	100.0 (136)	1.5	14.0	39.0	35.3	8.8	-	-	1.5	-
	50～59歳	100.0 (123)	-	7.3	22.8	26.8	30.1	7.3	-	3.3	2.4
	60～69歳	100.0 (67)	1.5	13.4	19.4	10.4	13.4	25.4	10.4	3.0	3.0
	70歳以上	100.0 (37)	2.7	8.1	18.9	16.2	16.2	8.1	16.2	13.5	-
	（再掲）65歳以上	100.0 (75)	1.3	9.3	20.0	14.7	10.7	17.3	16.0	8.0	2.7
診断名〔複数回答〕別	アルコール・薬物依存症	100.0 (11)	-	-	9.1	54.5	18.2	18.2	-	-	-
	統合失調症	100.0 (189)	1.6	24.9	37.0	24.3	4.8	2.6	1.6	1.6	1.6
	そううつ病、うつ病	100.0 (217)	0.9	11.1	29.5	25.8	19.4	7.4	3.2	2.3	0.5
	パーソナリティ障害	100.0 (10)	-	50.0	30.0	-	-	-	-	10.0	10.0
	てんかん	100.0 (32)	12.5	34.4	31.3	9.4	3.1	-	3.1	3.1	3.1
	発達障害（自閉症、学習障害など）	100.0 (85)	5.9	21.2	47.1	17.6	7.1	-	-	1.2	-
	高次脳機能障害	100.0 (19)	5.3	15.8	26.3	10.5	21.1	15.8	5.3	-	-
	その他	100.0 (70)	1.4	12.9	31.4	20.0	11.4	10.0	5.7	5.7	1.4
平成25年度		100.0 (537)	2.8	17.5	32.0	23.3	11.5	6.9	2.4	3.4	0.2

(3) 精神障害の診断名〔複数回答〕一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

平成25年度調査よりも「発達障害（自閉症、学習障害など）」の割合が10.3ポイント増加、「統合失調症」が6.0ポイント減少

精神障害の診断名を聞いたところ、「そううつ病、うつ病」の割合が43.5%、「統合失調症」が37.9%、「発達障害（自閉症、学習障害など）」が17.0%となっている。

年齢階級別にみると、「発達障害（自閉症、学習障害など）」の割合は、29歳以下が60.0%で最も高くなっている。「そううつ病、うつ病」の割合は、40代及び50代が5割を超えている（50.7%、51.2%）。

平成25年度調査と比べて、「発達障害（自閉症、学習障害など）」の割合が10.3ポイント増加、「統合失調症」が6.0ポイント減少している。（表IV-2-2）

表IV-2-2 精神障害の診断名〔複数回答〕一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

		総数	アルコール・薬物依存症	統合失調症	そううつ病、うつ病	パーソナリティ障害 ※	てんかん	発達障害（自閉症、学習障害など）	高次脳機能障害	その他	無回答
総数		100.0 (499)	2.2	37.9	43.5	2.0	6.4	17.0	3.8	14.0	1.0
年齢階級別	29歳以下	100.0 (40)	-	22.5	22.5	5.0	10.0	60.0	2.5	7.5	2.5
	30～39歳	100.0 (96)	1.0	24.0	45.8	4.2	5.2	34.4	4.2	21.9	2.1
	40～49歳	100.0 (136)	2.9	40.4	50.7	2.2	8.8	11.8	5.9	13.2	-
	50～59歳	100.0 (123)	1.6	43.1	51.2	-	3.3	8.9	1.6	9.8	-
	60～69歳	100.0 (67)	3.0	50.7	32.8	-	6.0	1.5	6.0	10.4	1.5
	70歳以上	100.0 (37)	5.4	40.5	27.0	2.7	8.1	-	-	24.3	2.7
	(再掲)65歳以上	100.0 (75)	2.7	48.0	26.7	1.3	8.0	-	2.7	17.3	2.7
手帳の程度別	1級	100.0 (18)	5.6	33.3	11.1	-	27.8	5.6	5.6	16.7	5.6
	2級	100.0 (234)	1.3	62.4	31.2	0.9	6.0	9.8	3.0	10.7	0.9
	3級	100.0 (239)	2.9	14.6	58.6	3.3	5.0	25.5	3.8	17.2	0.8
平成25年度		100.0 (537)	3.9	43.9	39.1	2.4	8.4	6.7	2.4	14.0	1.1

注) ※は、平成25年度調査では「人格障害」としていた。

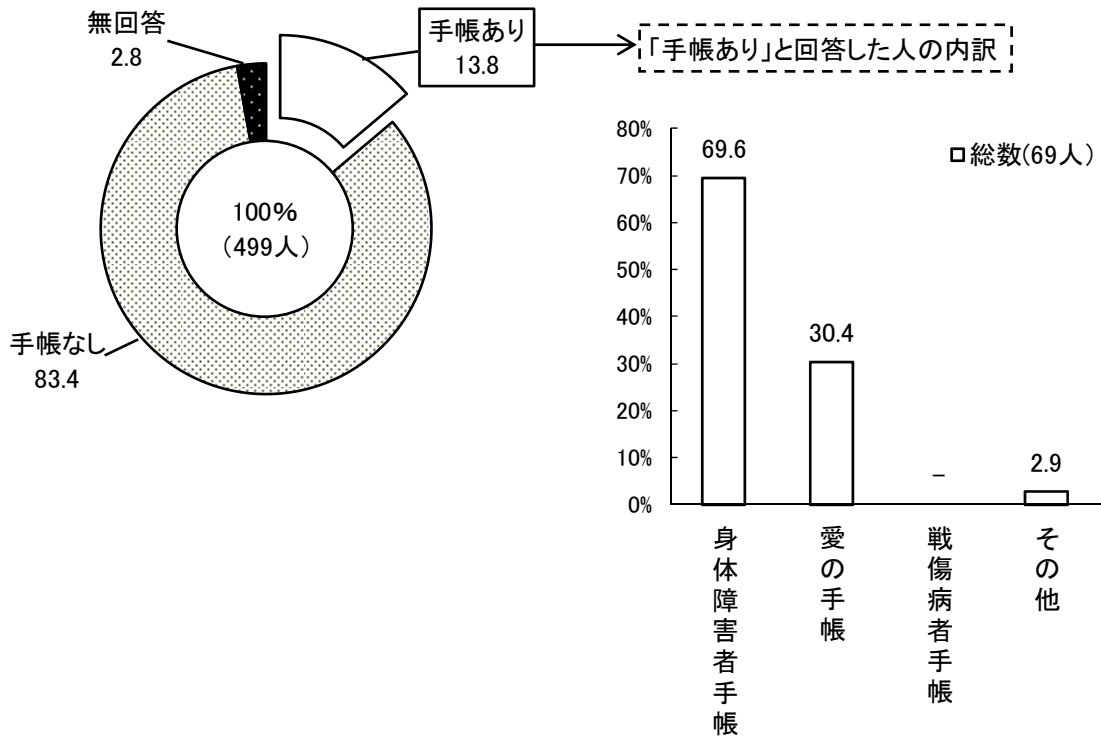
(4) 精神障害者保健福祉手帳以外の手帳所持の有無〔複数回答〕

せいしんしょうがいしゃほけんふくしてちょういがい てちょう も わりあい
 精神障害者保健福祉手帳以外の手帳を持っている割合は13.8%

精神障害者保健福祉手帳以外の手帳を持っているか聞いたところ、「手帳あり」の割合が13.8%、「手帳なし」が83.4%となっている。

手帳の種類では、「身体障害者手帳」の割合が69.6%で最も高くなっている。(図IV-2-2)

図IV-2-2 精神障害者保健福祉手帳以外の手帳所持の有無〔複数回答〕



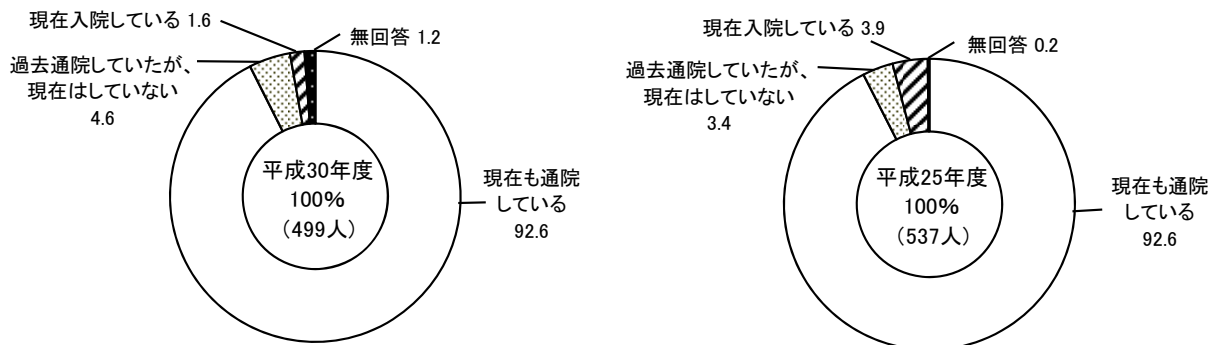
3 健康・医療

(1) 通院の有無（精神疾患にかかわる病気）

精神疾患にかかわる病気（てんかんを含む）で「現在も通院している」割合は92.6%

精神疾患にかかわる病気（てんかんを含む）で通院しているか聞いたところ、「現在も通院している」割合が92.6%、「現在入院している」が1.6%となっている。（図IV-3-1）

図IV-3-1 通院の有無（精神疾患にかかわる病気）



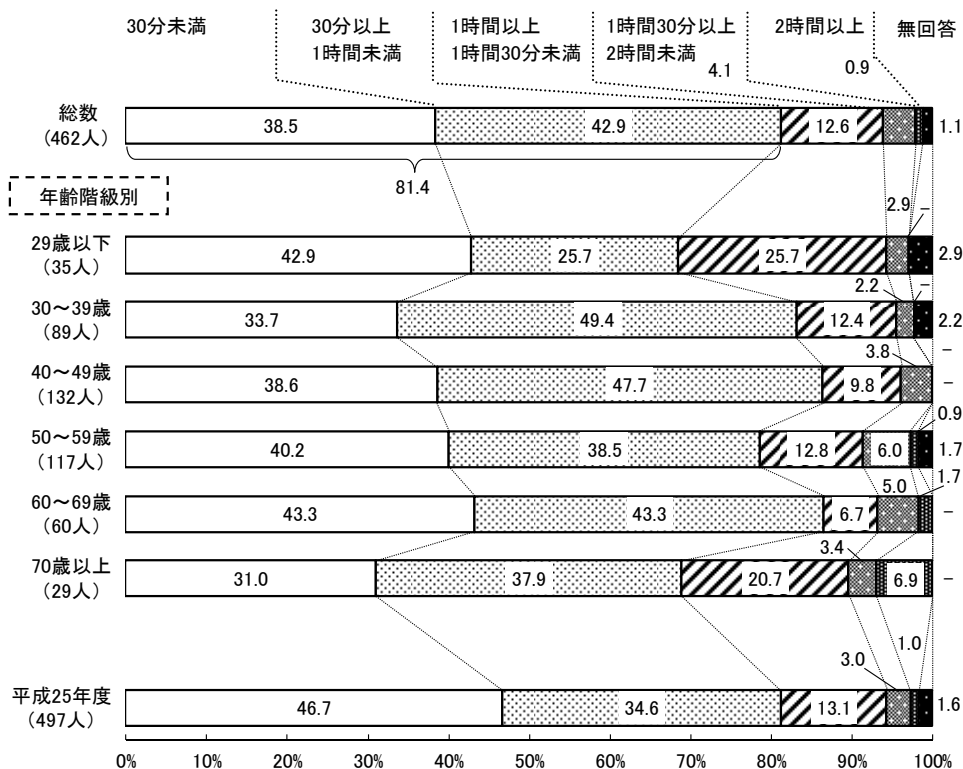
(2) 通院に要する時間—年齢階級別

※現在も通院している462人が対象

通院に要する片道の時間は1時間未満が81.4%

通院に要する片道の時間を聞いたところ、「30分以上1時間未満」の割合が42.9%、「30分未満」が38.5%となっており、これらを合わせた「1時間未満」の割合は81.4%となっている。平成25年度調査と比べて、「30分未満」の割合が8.2ポイント減少している。（図IV-3-2）

図IV-3-2 通院に要する時間—年齢階級別



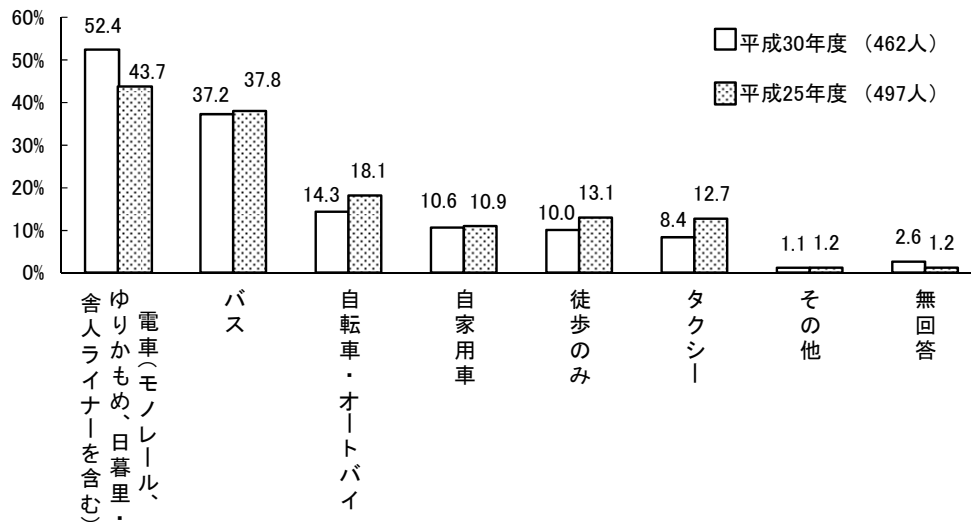
(3) 通院の際に利用する交通手段〔複数回答〕

※現在も通院している 462 人が対象

通院の際に利用する交通手段は「電車（モノレール、ゆりかもめ、日暮里・舎人ライナーを含む）」の割合が 52.4%で、平成25年度調査よりも 8.7ポイント増加

通院の際に利用する交通手段を聞いたところ、「電車（モノレール、ゆりかもめ、日暮里・舎人ライナーを含む）」の割合が 52.4%、「バス」が 37.2%となっている。平成 25 年度調査と比べて、「電車（モノレール、ゆりかもめ、日暮里・舎人ライナーを含む）」の割合が 8.7ポイント増加している。（図IV-3-3）

図IV-3-3 通院の際に利用する交通手段〔複数回答〕



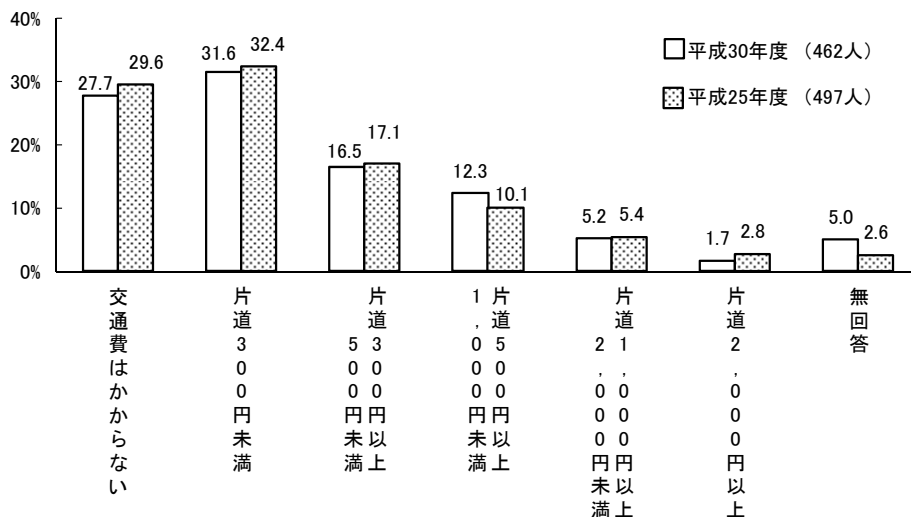
(4) 通院の際に要する交通費

※現在も通院している 462 人が対象

通院の際に要する交通費は「300円未満」の割合が 31.6%

通院の際に要する交通費を聞いたところ、「300円未満」の割合が 31.6%、「交通費はかからない」が 27.7%となっている。（図IV-3-4）

図IV-3-4 通院の際に要する交通費



(5) 入院経験の有無(精神疾患にかかわる病気)

一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度、診断名〔複数回答〕別

にゆういんけいけん せいしんしつかん びょうき かく げんざいにゆういん か こ
 入院経験(精神疾患にかかわる病気(てんかんを含む))は「現在入院していないが、過去
 にゆういん わりあい
 に入院したことがある」割合が53.5%

入院経験の有無(精神疾患にかかわる病気)を聞いたところ、「現在入院していないが、過去に入院したことがある」割合が53.5%、「入院したことはない」が42.7%となっている。

精神障害者保健福祉手帳の程度別にみると、「入院したことはない」割合は、3級が59.0%で最も高くなっている。診断名別にみると、「入院したことはない」割合は、発達障害(自閉症、学習障害など)が68.2%となっている。(表IV-3-1)

表IV-3-1 入院経験の有無(精神疾患にかかわる病気)

一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度、診断名〔複数回答〕別

		総数	し現 て在 い入 る院	こ去い現 とにな在 が入い入 あ院が院 るし、し た過て	は入 ない した こと	無 回 答
総数		100.0 (499)	1.6	53.5	42.7	2.2
年 齢 階 級 別	29歳以下	100.0 (40)	5.0	27.5	62.5	5.0
	30~39歳	100.0 (96)	-	40.6	58.3	1.0
	40~49歳	100.0 (136)	0.7	58.8	39.7	0.7
	50~59歳	100.0 (123)	0.8	58.5	38.2	2.4
	60~69歳	100.0 (67)	1.5	67.2	31.3	-
	70歳以上	100.0 (37)	8.1	54.1	27.0	10.8
	(再掲)65歳以上	100.0 (75)	4.0	61.3	29.3	5.3
手 帳 の 程 度 別	1級	100.0 (18)	11.1	61.1	22.2	5.6
	2級	100.0 (234)	2.1	70.1	26.9	0.9
	3級	100.0 (239)	0.4	37.7	59.0	2.9
診 断 名 (複 数 回 答) 別	アルコール・薬物依存症	100.0 (11)	-	90.9	9.1	-
	統合失調症	100.0 (189)	2.1	75.7	21.2	1.1
	そううつ病、うつ病	100.0 (217)	0.9	46.1	51.6	1.4
	パーソナリティ障害	100.0 (10)	-	70.0	30.0	-
	てんかん	100.0 (32)	3.1	65.6	28.1	3.1
	発達障害(自閉症、学習障害など)	100.0 (85)	1.2	27.1	68.2	3.5
	高次脳機能障害	100.0 (19)	-	52.6	42.1	5.3
	その他	100.0 (70)	1.4	44.3	51.4	2.9

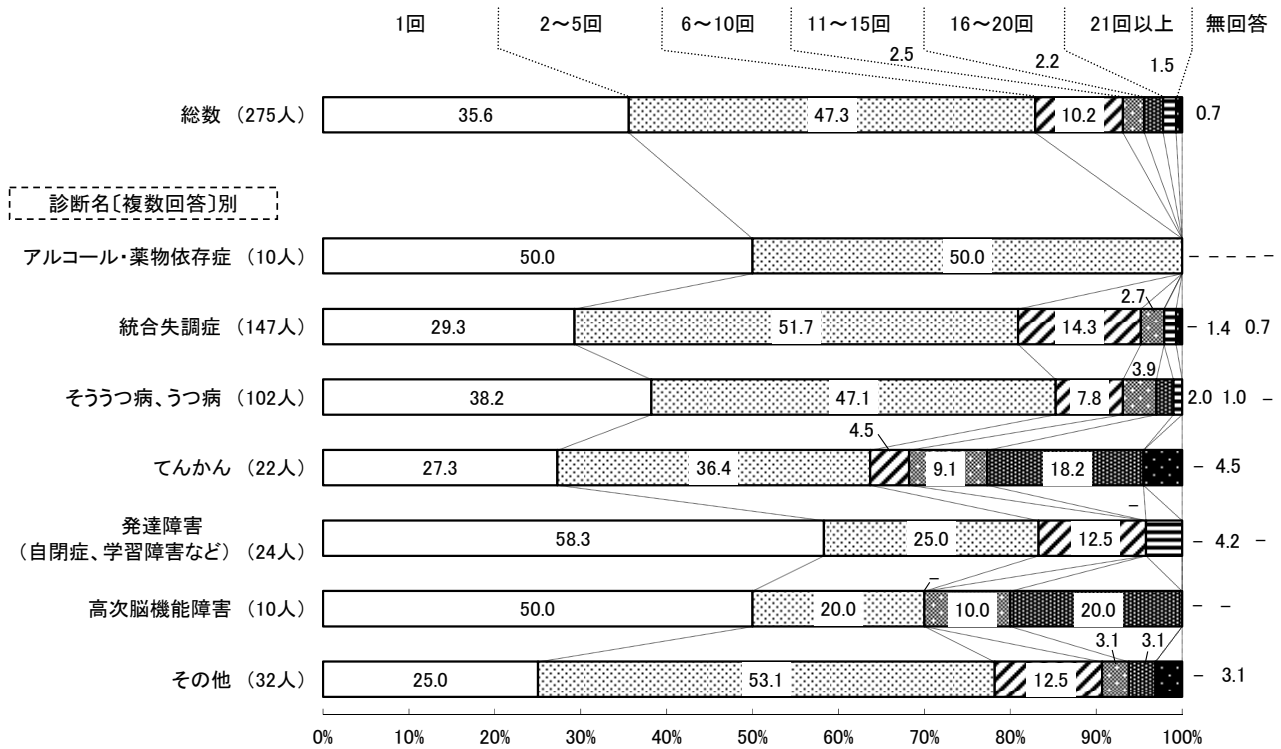
(6) 入院回数－診断名〔複数回答〕別

※「現在入院している」又は「現在入院していないが、過去に入院したことがある」275人が対象

精神疾患にかかわる病気（てんかんを含む）での入院回数は、「2～5回」の割合が47.3%

精神疾患にかかわる病気（てんかんを含む）での入院回数を聞いたところ、「2～5回」の割合が47.3%、「1回」が35.6%となっている。（図IV-3-5）

図IV-3-5 入院回数－診断名〔複数回答〕別



注) パーソナリティ障害は、母数が少数のため、省略した。

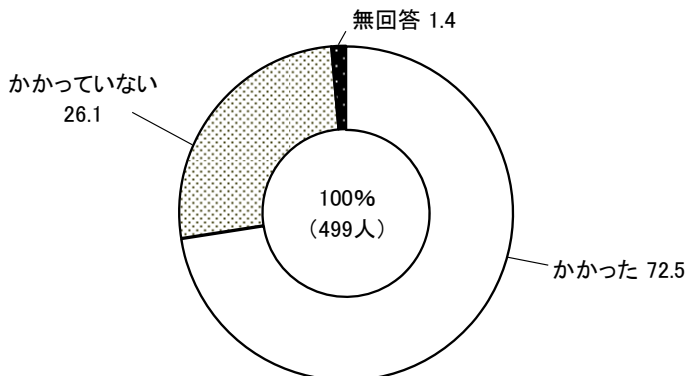
(7) 受診の有無（精神疾患以外の病気、ケガ等）

過去1年間に精神疾患以外の病気やケガなどで医者にかかったことがある割合は72.5%

過去1年間に精神疾患（てんかんを含む）以外の病気やケガなどで医者にかかったことがあるか聞いたところ、「かかった」割合が72.5%、「かかっていない」が26.1%となっている。

（図IV-3-6）

図IV-3-6 受診の有無（精神疾患以外の病気、ケガ等）



(8) 過去1年間の医療費助成等の利用の有無〔複数回答〕一年齢階級別

か こ ねんかん りょう いりょうひじよせいとう じりつしえんいりょう せいしんつういんいりょう わりあい
 過去1年間に利用した医療費助成等は「自立支援医療（精神通院医療）」の割合が76.0%

過去1年間に医療費助成等を利用したか聞いたところ、「利用した」割合が77.8%、「利用しなかった」が15.2%となっている。利用した内容では、「自立支援医療（精神通院医療）」の割合が76.0%で最も高くなっている。

年齢階級別にみると、「自立支援医療（精神通院医療）」の割合は、30代が86.5%となっている。（表IV-3-2）

表IV-3-2 過去1年間の医療費助成等の利用の有無〔複数回答〕一年齢階級別

	総数	利用した	利用した内容					利用しなかった	無回答
			医心療身費障害者	（自立更生支援医療）	（自立支援医療（精神通院医療））	助難成病等医療費	その他		
総数	100.0 (499)	77.8	0.4	0.4	76.0	0.8	1.2	15.2	7.0
29歳以下	100.0 (40)	67.5	-	-	67.5	-	-	25.0	7.5
30～39歳	100.0 (96)	88.5	2.1	-	86.5	-	-	8.3	3.1
40～49歳	100.0 (136)	79.4	-	-	79.4	0.7	0.7	14.0	6.6
50～59歳	100.0 (123)	82.9	-	0.8	81.3	1.6	1.6	8.1	8.9
60～69歳	100.0 (67)	65.7	-	-	64.2	1.5	-	23.9	10.4
70歳以上	100.0 (37)	59.5	-	2.7	48.6	-	8.1	35.1	5.4
(再掲)65歳以上	100.0 (75)	65.3	-	1.3	58.7	1.3	4.0	26.7	8.0
平成25年度	100.0 (537)	81.9	0.9	1.1	79.9	1.1	1.3	15.6	2.4

(9) 自立支援医療（精神通院医療）の1か月の自己負担額

一年齢階級、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

※自立支援医療（精神通院医療）を利用した379人が対象

じりつしえんいりょう せいしんつういんいりょう の自己負担額は、「0円」の割合が42.2%

1か月の自立支援医療（精神通院医療）の自己負担額を聞いたところ、「0円」の割合が42.2%、「1円～2,500円」が25.3%となっている。

現在一緒に生活している人別にみると、「0円」の割合は、一人で暮らしている人が67.5%となっている。（表IV-3-3）

表IV-3-3 自立支援医療（精神通院医療）の1か月の自己負担額

一年齢階級、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

		総数	0円	1円	52円	150円	100円	わからない	無回答
総数		100.0 (379)	42.2	25.3	19.3	4.7	1.8	6.1	0.5
年齢階級別	29歳以下	100.0 (27)	25.9	22.2	29.6	11.1	7.4	3.7	-
	30～39歳	100.0 (83)	33.7	30.1	19.3	8.4	1.2	7.2	-
	40～49歳	100.0 (108)	41.7	25.0	23.1	1.9	0.9	6.5	0.9
	50～59歳	100.0 (100)	51.0	20.0	17.0	3.0	1.0	7.0	1.0
	60～69歳	100.0 (43)	41.9	37.2	4.7	7.0	4.7	4.7	-
	70歳以上	100.0 (18)	61.1	11.1	27.8	-	-	-	-
	(再掲)65歳以上	100.0 (44)	56.8	25.0	13.6	-	2.3	2.3	-
〔複数回答〕別 現在一緒に生活している人	親	100.0 (136)	30.1	35.3	20.6	5.1	2.9	5.9	-
	配偶者	100.0 (86)	19.8	37.2	27.9	8.1	2.3	4.7	-
	子供	100.0 (56)	25.0	30.4	32.1	8.9	-	3.6	-
	兄弟姉妹	100.0 (47)	38.3	27.7	23.4	2.1	4.3	4.3	-
	その他の親族	100.0 (11)	45.5	27.3	18.2	-	-	9.1	-
	一人で暮らしている	100.0 (123)	67.5	11.4	9.8	0.8	0.8	8.1	1.6

注1)「現在一緒に生活している人」は在宅者を対象とした設問のため、総数は375人である。

2)「現在一緒に生活している人〔複数回答〕別」のうち、「その他」は母数が少数のため省略した。

4 日常生活の状況

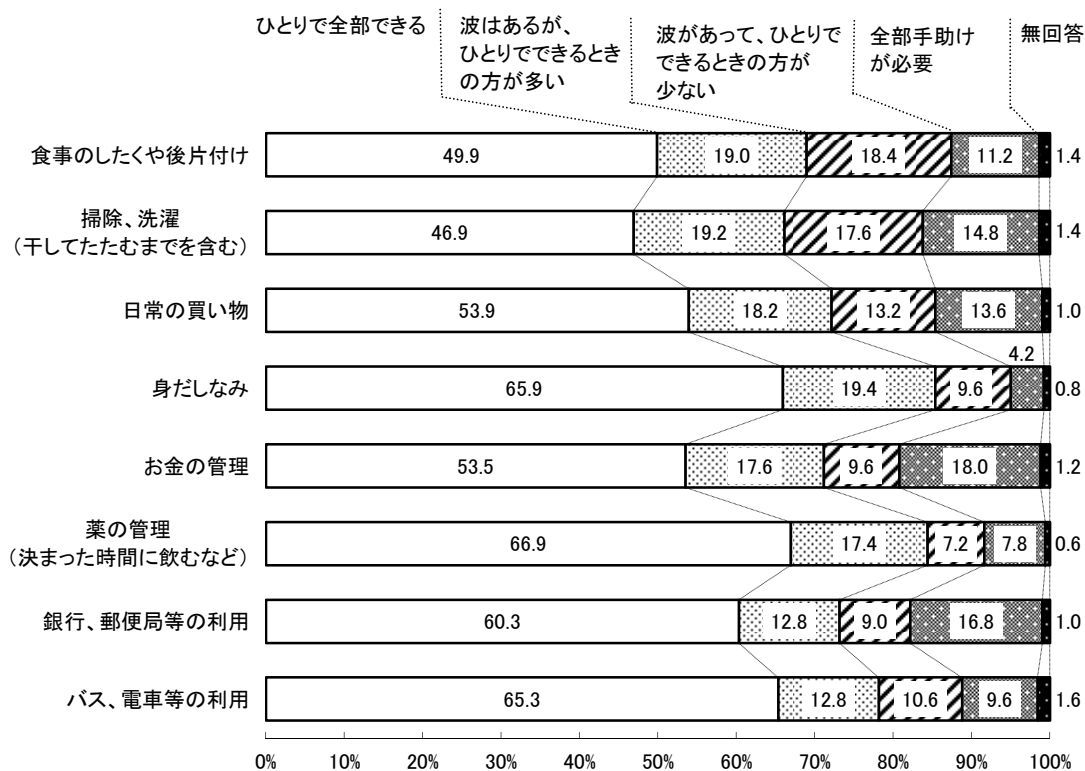
(1) 日常生活動作能力

「全部手助けが必要」の割合は「お金の管理」が 18.0%、「銀行、郵便局等の利用」が 16.8%

8項目の日常生活動作能力のうち、「ひとりで全部できる」と答えた割合は、「薬の管理（決まった時間に飲むなど）」が 66.9%、「身だしなみ」が 65.9%、「バス、電車等の利用」が 65.3%となっている。

一方、「全部手助けが必要」と答えた割合は、「お金の管理」が 18.0%、「銀行、郵便局等の利用」が 16.8%となっている。（図IV-4-1）

図IV-4-1 日常生活動作能力



注)総数は、8項目とも499人である。

(3) 日常生活動作能力 (d 身だしなみ e お金の管理 f 薬の管理 (決まった時間に飲むなど))

一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度、診断名〔複数回答〕別

日常生活動作能力の「e お金の管理」を年齢階級別にみると、60代では「全部手助けが必要」の割合が31.3%となっている。

「d 身だしなみ」、「e お金の管理」及び「f 薬の管理 (決まった時間に飲むなど)」を精神障害者保健福祉手帳の程度別にみると、1級では「全部手助けが必要」の割合がそれぞれ50.0%、61.1%、61.1%となっている。(表IV-4-2)

表IV-4-2 日常生活動作能力(d 身だしなみ e お金の管理 f 薬の管理(決まった時間に飲むなど))
一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度、診断名〔複数回答〕別

	d 身だしなみ							e お金の管理					f 薬の管理(決まった時間に飲むなど)									
	総数	ひとりで全部できる	できるがあるが、ひとりでできない方が多い	波はあるが、ひとりでできない方が少ない	波があつて、ひとりでできない方が少ない	全部手助けが必要	無回答	総数	ひとりで全部できる	できるがあるが、ひとりでできない方が多い	波はあるが、ひとりでできない方が少ない	波があつて、ひとりでできない方が少ない	全部手助けが必要	無回答	総数	ひとりで全部できる	できるがあるが、ひとりでできない方が多い	波はあるが、ひとりでできない方が少ない	波があつて、ひとりでできない方が少ない	全部手助けが必要	無回答	
総数	100.0 (499)	65.9	19.4	9.6	4.2	0.8	100.0 (499)	53.5	17.6	9.6	18.0	1.2	100.0 (499)	66.9	17.4	7.2	7.8	0.6				
年齢階級別	29歳以下	100.0 (40)	57.5	27.5	12.5	2.5	-	100.0 (40)	42.5	22.5	12.5	22.5	-	100.0 (40)	52.5	22.5	15.0	10.0	-			
	30~39歳	100.0 (96)	72.9	17.7	8.3	-	1.0	100.0 (96)	60.4	11.5	14.6	12.5	1.0	100.0 (96)	67.7	17.7	7.3	6.3	1.0			
	40~49歳	100.0 (136)	65.4	17.6	11.0	5.1	0.7	100.0 (136)	52.2	20.6	9.6	16.2	1.5	100.0 (136)	70.6	18.4	2.9	8.1	-			
	50~59歳	100.0 (123)	65.0	21.1	11.4	1.6	0.8	100.0 (123)	54.5	20.3	10.6	13.8	0.8	100.0 (123)	68.3	17.9	9.8	3.3	0.8			
	60~69歳	100.0 (67)	64.2	19.4	4.5	10.4	1.5	100.0 (67)	46.3	14.9	4.5	31.3	3.0	100.0 (67)	61.2	16.4	7.5	13.4	1.5			
	70歳以上	100.0 (37)	64.9	16.2	8.1	10.8	-	100.0 (37)	62.2	13.5	-	24.3	-	100.0 (37)	73.0	8.1	5.4	13.5	-			
	(再掲)65歳以上	100.0 (75)	66.7	13.3	6.7	12.0	1.3	100.0 (75)	57.3	13.3	1.3	28.0	-	100.0 (75)	66.7	12.0	4.0	16.0	1.3			
手帳の程度別	1級	100.0 (18)	38.9	5.6	5.6	50.0	-	100.0 (18)	27.8	11.1	-	61.1	-	100.0 (18)	27.8	11.1	-	61.1	-			
	2級	100.0 (234)	62.4	18.4	15.0	3.4	0.9	100.0 (234)	45.3	20.1	12.0	21.8	0.9	100.0 (234)	60.7	20.5	9.8	8.1	0.9			
	3級	100.0 (239)	71.1	21.8	5.0	1.3	0.8	100.0 (239)	63.2	16.3	7.9	10.9	1.7	100.0 (239)	76.2	15.5	5.4	2.5	0.4			
診断名〔複数回答〕別	アルコール・薬物依存症	100.0 (11)	63.6	27.3	-	9.1	-	100.0 (11)	27.3	27.3	9.1	36.4	-	100.0 (11)	54.5	18.2	-	27.3	-			
	統合失調症	100.0 (189)	69.3	13.2	11.1	4.8	1.6	100.0 (189)	53.4	16.9	9.0	20.1	0.5	100.0 (189)	68.3	15.3	7.9	7.9	0.5			
	そううつ病、うつ病	100.0 (217)	63.6	23.0	10.1	2.3	0.9	100.0 (217)	49.3	18.0	12.4	18.0	2.3	100.0 (217)	66.4	21.7	6.5	4.6	0.9			
	パーソナリティ障害	100.0 (10)	50.0	30.0	20.0	-	-	100.0 (10)	60.0	20.0	-	20.0	-	100.0 (10)	80.0	20.0	-	-	-			
	てんかん	100.0 (32)	84.4	6.3	-	9.4	-	100.0 (32)	56.3	25.0	3.1	15.6	-	100.0 (32)	56.3	18.8	6.3	18.8	-			
	発達障害 (自閉症、学習障害など)	100.0 (85)	61.2	27.1	9.4	2.4	-	100.0 (85)	50.6	17.6	11.8	20.0	-	100.0 (85)	58.8	22.4	8.2	10.6	-			
	高次脳機能障害	100.0 (19)	47.4	47.4	5.3	-	-	100.0 (19)	42.1	31.6	10.5	15.8	-	100.0 (19)	47.4	26.3	10.5	15.8	-			
	その他	100.0 (70)	61.4	27.1	7.1	4.3	-	100.0 (70)	52.9	14.3	10.0	22.9	-	100.0 (70)	65.7	22.9	7.1	4.3	-			

(4) 日常生活動作能力 (g 銀行、郵便局等の利用 h バス、電車等の利用)

一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度、診断名〔複数回答〕別日常生活動作能力の「g 銀行、郵便局等の利用」を年齢階級別にみると、60代では「全部手助けが必要」の割合が約3割となっている。

「g 銀行、郵便局等の利用」及び「h バス、電車等の利用」を精神障害者保健福祉手帳の程度別にみると、1級では「全部手助けが必要」の割合がそれぞれ 61.1%、55.6%で最も高くなっている。(表IV-4-3)

表IV-4-3 日常生活動作能力 (g 銀行、郵便局等の利用 h バス、電車等の利用)

一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度、診断名〔複数回答〕別

	g 銀行、郵便局等の利用							h バス、電車等の利用					
	総数	ひとり で全部 できる	波は ある が、 ひと りで	波 があ つて、 ひと りで ない	全部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総数	ひとり で全部 できる	波は ある が、 ひと りで	波 があ つて、 ひと りが 少 り で ない	全部 手 助 け が 必 要	無 回 答	
総数	100.0 (499)	60.3	12.8	9.0	16.8	1.0	100.0 (499)	65.3	12.8	10.6	9.6	1.6	
年齢階級別	29歳以下	100.0 (40)	62.5	10.0	7.5	20.0	-	100.0 (40)	67.5	10.0	12.5	10.0	-
	30～39歳	100.0 (96)	66.7	8.3	11.5	11.5	2.1	100.0 (96)	70.8	14.6	9.4	4.2	1.0
	40～49歳	100.0 (136)	60.3	16.2	10.3	13.2	-	100.0 (136)	66.9	11.0	13.2	8.1	0.7
	50～59歳	100.0 (123)	58.5	15.4	9.8	14.6	1.6	100.0 (123)	66.7	18.7	8.1	4.9	1.6
	60～69歳	100.0 (67)	52.2	10.4	6.0	29.9	1.5	100.0 (67)	52.2	9.0	11.9	22.4	4.5
	70歳以上	100.0 (37)	62.2	10.8	2.7	24.3	-	100.0 (37)	62.2	5.4	8.1	21.6	2.7
	(再掲)65歳以上	100.0 (75)	60.0	8.0	4.0	26.7	1.3	100.0 (75)	58.7	5.3	8.0	22.7	5.3
手帳の程度別	1級	100.0 (18)	16.7	11.1	11.1	61.1	-	100.0 (18)	22.2	11.1	5.6	55.6	5.6
	2級	100.0 (234)	49.1	17.1	12.4	20.5	0.9	100.0 (234)	58.1	15.4	14.1	11.5	0.9
	3級	100.0 (239)	74.9	9.2	5.4	9.6	0.8	100.0 (239)	76.6	10.5	7.1	4.2	1.7
診断名〔複数回答〕別	アルコール・薬物依存症	100.0 (11)	27.3	9.1	18.2	45.5	-	100.0 (11)	63.6	18.2	9.1	9.1	-
	統合失調症	100.0 (189)	57.7	13.8	8.5	20.1	-	100.0 (189)	66.1	10.6	11.6	10.6	1.1
	そううつ病、うつ病	100.0 (217)	57.6	14.7	9.7	16.6	1.4	100.0 (217)	61.8	15.2	12.4	8.8	1.8
	パーソナリティ障害	100.0 (10)	60.0	20.0	-	20.0	-	100.0 (10)	60.0	10.0	-	30.0	-
	てんかん	100.0 (32)	59.4	12.5	9.4	12.5	6.3	100.0 (32)	68.8	6.3	9.4	12.5	3.1
	発達障害 (自閉症、学習障害など)	100.0 (85)	64.7	10.6	10.6	14.1	-	100.0 (85)	75.3	12.9	7.1	4.7	-
	高次脳機能障害	100.0 (19)	47.4	15.8	15.8	21.1	-	100.0 (19)	42.1	26.3	10.5	15.8	5.3
	その他	100.0 (70)	60.0	11.4	8.6	20.0	-	100.0 (70)	57.1	15.7	8.6	17.1	1.4

5 就労の状況

(1) 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）一年齢階級別

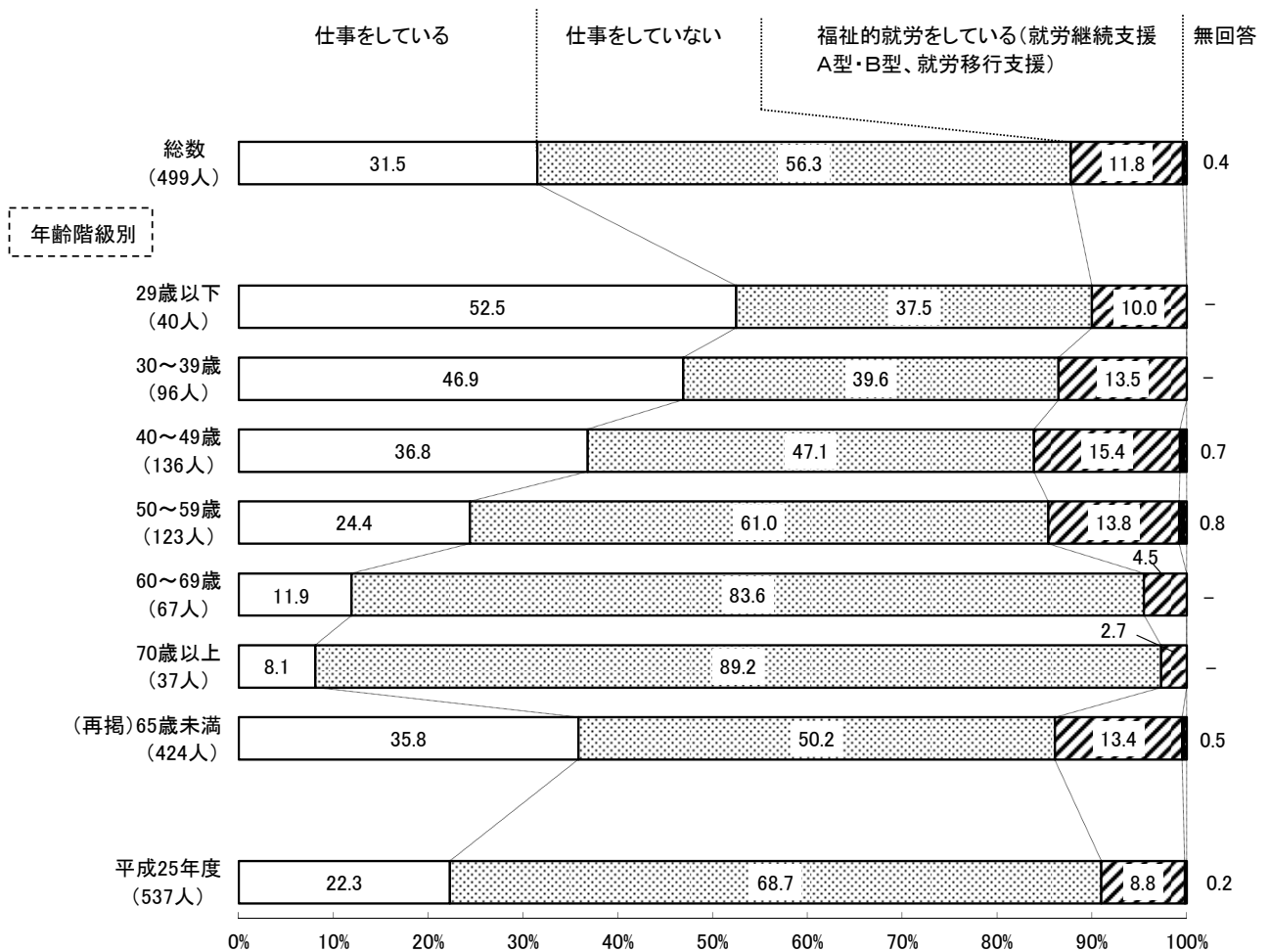
「^{しごと}仕事をしている」人の割合は、平成25年度調査よりも9.2ポイント増加し31.5%、「^{しごと}仕事をしていない」人は12.4ポイント減少し56.3%

収入を伴う仕事をしているか聞いたところ、「仕事をしている」の割合が31.5%、「仕事をしていない」が56.3%、「福祉的就労をしている」が11.8%となっている。

年齢階級別にみると、「仕事をしている」の割合は、29歳以下及び30代では、それぞれ52.5%、46.9%となっている。

平成25年度調査と比べて、「仕事をしている」の割合は、9.2ポイント増加し、「仕事をしていない」は、12.4ポイント減少している。（図IV-5-1）

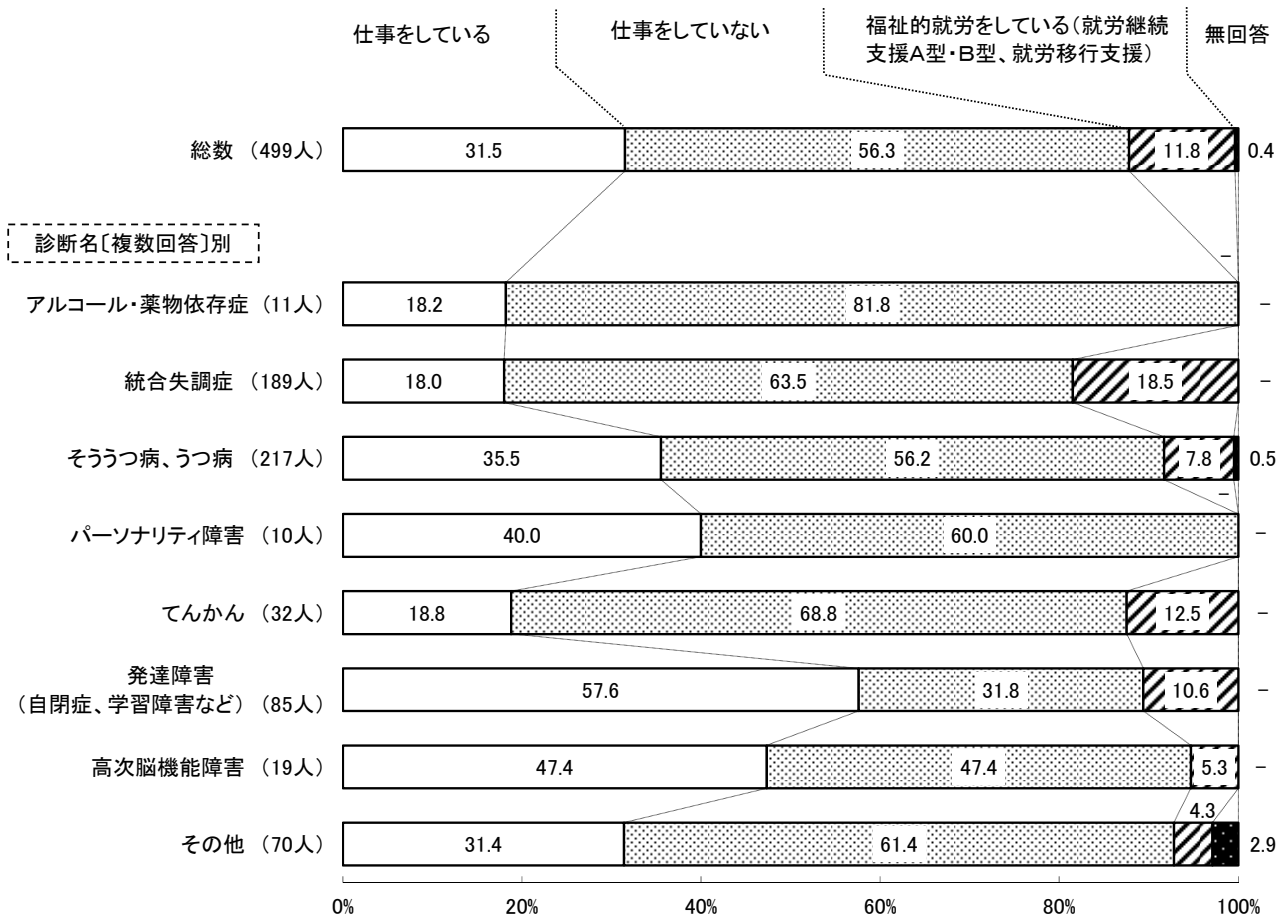
図IV-5-1 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）一年齢階級別



(2) 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－診断名〔複数回答〕別

収入を伴う仕事の有無を診断名別にみると、「仕事をしている」の割合が「発達障害（自閉症、学習障害など）」では57.6%となっている。「福祉的就労をしている（就労継続支援A型・B型、就労移行支援）」の割合が「統合失調症」では18.5%となっている。（図IV-5-2）

図IV-5-2 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－診断名〔複数回答〕別



(3) 仕事の種類〔複数回答〕一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

※調査基準日現在、「仕事をしている」と回答した157人が対象

「ひせいま非正規の職員・従業員しよくいん」の割合が最も高く66.9%、「せいま正規の職員・従業員しよくいん」の割合は21.0%

仕事の種類を聞いたところ、「非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・日雇等(契約職員、派遣職員を含む))」の割合が66.9%で最も高く、また、「正規の職員・従業員」が21.0%となっている。(表IV-5-1)

表IV-5-1 仕事の種類〔複数回答〕一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

		総数	正規の職員・従業員	会社等の役員	非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・日雇等(契約職員、派遣職員を含む))	自営業	家業の手伝い	内職	その他
総数		100.0 (157)	21.0	1.3	66.9	4.5	2.5	3.2	2.5
年齢階級別	29歳以下	100.0 (21)	23.8	-	76.2	-	-	-	-
	30～39歳	100.0 (45)	28.9	-	62.2	-	6.7	4.4	2.2
	40～49歳	100.0 (50)	16.0	4.0	72.0	6.0	-	-	4.0
	50～59歳	100.0 (30)	23.3	-	56.7	6.7	3.3	6.7	3.3
	60歳以上	100.0 (11)	-	-	72.7	18.2	-	9.1	-
程度帳別の	2級	100.0 (39)	10.3	2.6	69.2	7.7	2.6	5.1	5.1
	3級	100.0 (116)	25.0	0.9	65.5	3.4	2.6	2.6	1.7

注) 手帳の程度別のうち、1級は、該当者がいないため、省略した。

(4) 1週間の就労日数－仕事の種類〔複数回答〕、診断名〔複数回答〕別

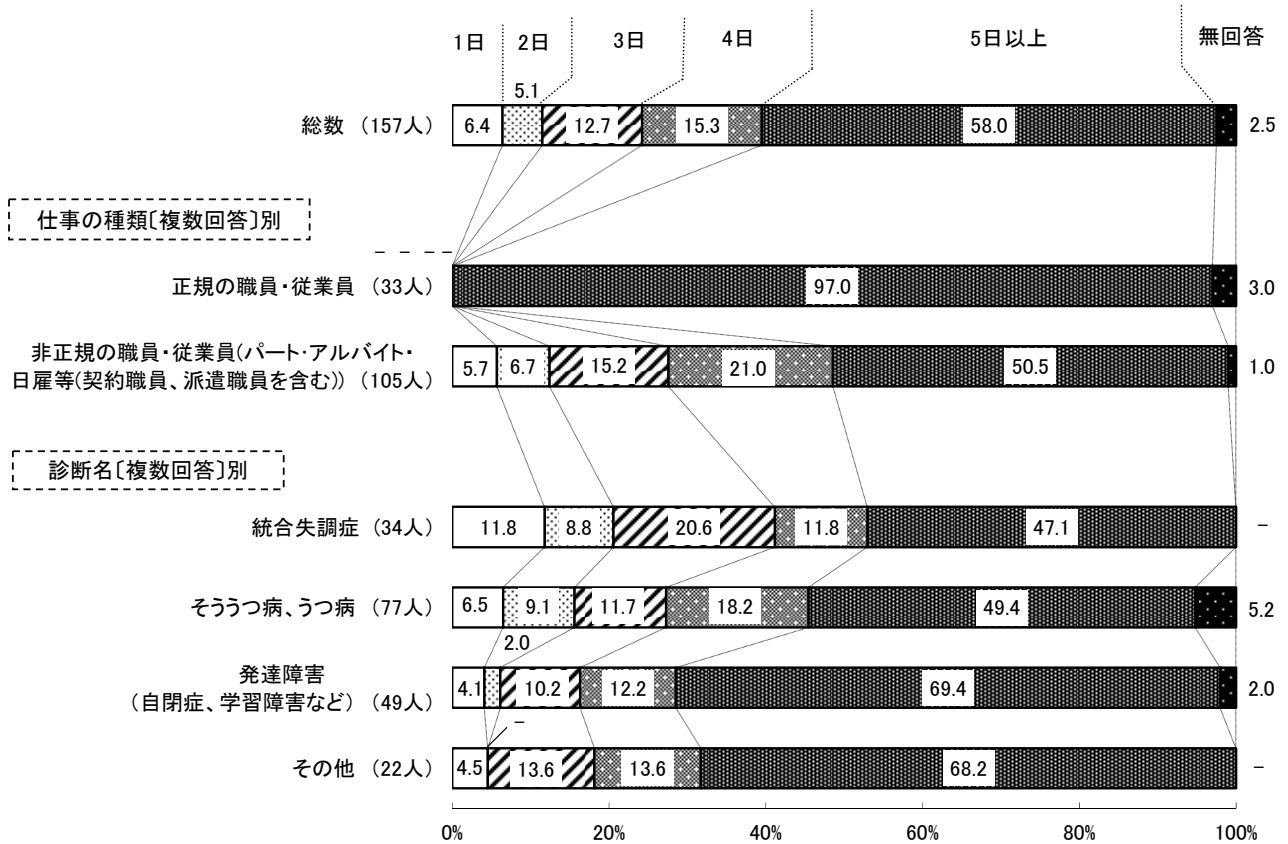
※調査基準日現在、「仕事をしている」と回答した157人が対象

しゅうかん しゅうろうにつう 1週間の就労日数は「5日以上」が58.0%

1週間の就労日数を聞いたところ、「5日以上」の割合が58.0%で最も高くなっている。
 仕事の種類別にみると、「5日以上」の割合は、正規の職員・従業員では97.0%、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））では50.5%となっている。

診断名別にみると、「5日以上」の割合は、発達障害（自閉症、学習障害など）が69.4%となっている。（図IV-5-3）

図IV-5-3 1週間の就労日数－仕事の種類〔複数回答〕、診断名〔複数回答〕別



注1) 「仕事の種類〔複数回答〕別」のうち、「会社等の役員」、「自営業」、「家業の手伝い」、「内職」及び「その他」は母数が少数のため、省略した。

注2) 「診断名〔複数回答〕別」のうち、「アルコール・薬物依存症」、「パーソナリティ障害」、「てんかん」及び「高次脳機能障害」は母数が少数のため、省略した。

(5) 1週間の労働時間—仕事の種類〔複数回答〕、診断名〔複数回答〕別

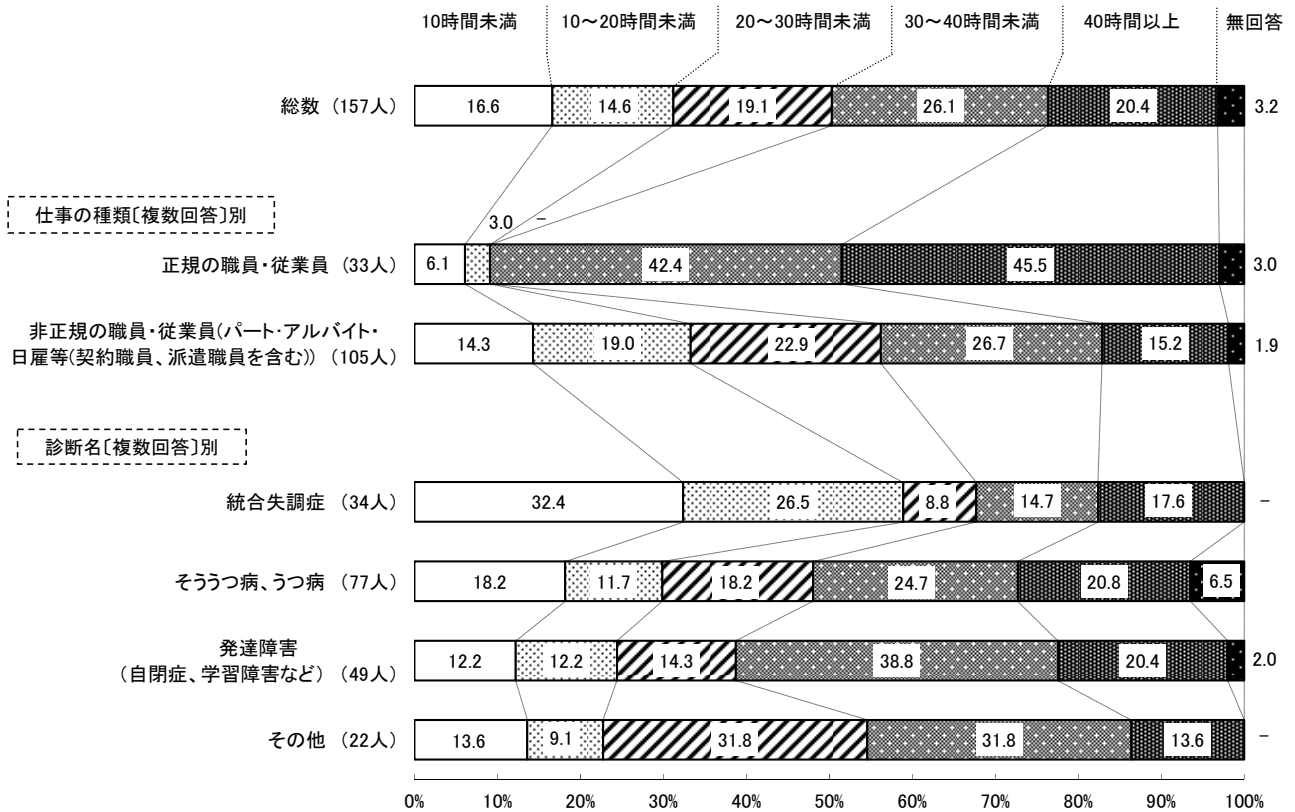
※調査基準日現在、「仕事をしている」と回答した157人が対象

しゅうかん ろうどうじかん じかんみまん わりあい
 1週間の労働時間は「30～40時間未満」の割合が26.1%

1週間の労働時間を聞いたところ、「30～40時間未満」の割合が26.1%、「40時間以上」が20.4%となっている。

仕事の種類別にみると、「30～40時間未満」及び「40時間以上」の割合は、正規の職員・従業員では4割を超えている（42.4%、45.5%）。（図IV-5-4）

図IV-5-4 1週間の労働時間—仕事の種類〔複数回答〕、診断名〔複数回答〕別



注1) 「仕事の種類〔複数回答〕別」のうち、「会社等の役員」、「自営業」、「家業の手伝い」、「内職」及び「その他」は母数が少数のため、省略した。

2) 「診断名〔複数回答〕別」のうち、「アルコール・薬物依存症」、「パーソナリティ障害」、「てんかん」及び「高次脳機能障害」は母数が少数のため、省略した。

(6) 就職した時期－性別、年齢階級、仕事の種類〔複数回答〕別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である139人が対象

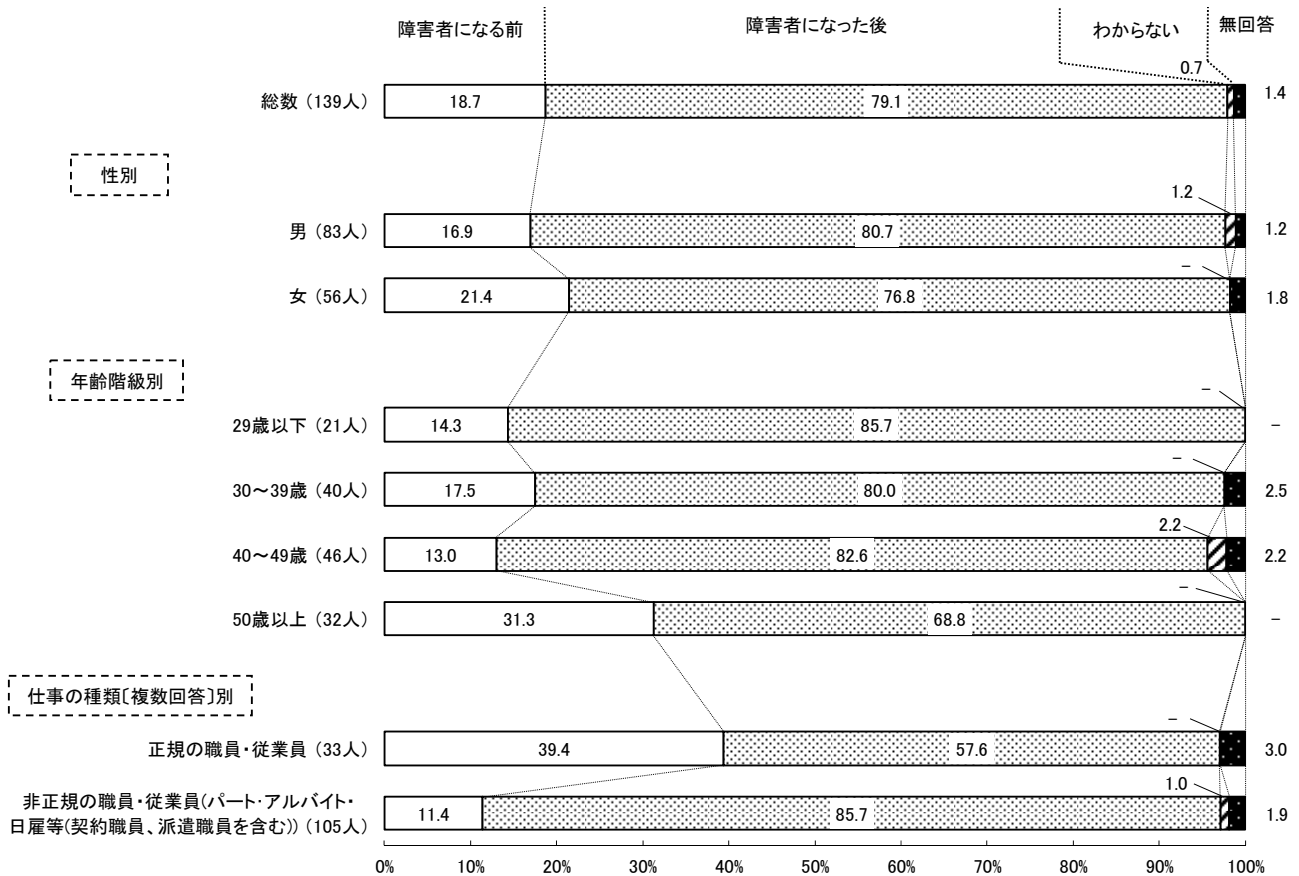
現在の就職先に就職した時期は「障害者になった後」が79.1%

現在の就職先に就職した時期は障害者になる前か、それともなった後か聞いたところ、「障害者になる前」の割合が18.7%、「障害者になった後」が79.1%となっている。

性別でみると、女性では「障害者になる前」の割合が21.4%となっている。

仕事の種類別にみると、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））では「障害者になった後」の割合が85.7%となっている。（図IV-5-5）

図IV-5-5 就職した時期－性別、年齢階級、仕事の種類〔複数回答〕別



注) 「仕事の種類〔複数回答〕別」のうち、「会社等の役員」は母数が少数のため、省略した。

(7) 就職をするために支援を受けたところ（人）〔複数回答〕－性別、年齢階級別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非常勤の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である 139 人のうち、障害者になった後に現在の就職先に就職した 110 人が対象

就職をするために支援を受けたところは、「ハローワーク」の割合が 30.9%

どこ（誰）の支援を受けて現在の仕事に就いたか聞いたところ、「ハローワーク」の割合が 30.9%、「就労移行支援事業所等」が 19.1%となっている。（表IV-5-2）

表IV-5-2 就職をするために支援を受けたところ（人）〔複数回答〕－性別、年齢階級別

		総数	ハローワーク	障害者 支援センター	就労 支援センター 生活、	区市 町村 障害者	学校	家族	知人	事業所 移行 支援	福祉 団体	その他	受け な か つ た	無 回 答
総数		100.0 (110)	30.9	16.4	5.5	6.4	11.8	19.1	1.8	11.8	25.5	0.9		
性別	男	100.0 (67)	35.8	16.4	6.0	7.5	13.4	19.4	3.0	14.9	17.9	1.5		
	女	100.0 (43)	23.3	16.3	4.7	4.7	9.3	18.6	-	7.0	37.2	-		
年齢階級別	29歳以下	100.0 (18)	16.7	5.6	22.2	11.1	5.6	38.9	-	11.1	27.8	-		
	30～39歳	100.0 (32)	40.6	21.9	3.1	9.4	15.6	18.8	-	6.3	18.8	3.1		
	40～49歳	100.0 (38)	39.5	21.1	-	5.3	5.3	15.8	5.3	5.3	34.2	-		
	50歳以上	100.0 (22)	13.6	9.1	4.5	-	22.7	9.1	-	31.8	18.2	-		

(8) 現在の仕事に就いてからの期間－性別、年齢階級、仕事の種類〔複数回答〕別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である139人が対象

現在の仕事に就いてからの期間は「1年以上3年未満」が28.1%

現在の仕事に就いてからの期間を聞いたところ、「1年以上3年未満」の割合が28.1%、「3年以上5年未満」が16.5%となっている。

性別で見ると、「3か月未満」の割合は、女性が23.2%、男性が9.6%となっている。

仕事の種類別にみると、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））では「3か月未満」の割合が19.0%、「10年以上」が3.8%となっている。

(表IV-5-3)

表IV-5-3 現在の仕事に就いてからの期間－性別、年齢階級、仕事の種類〔複数回答〕別

		総数	3か月未満	3か月以上6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上	無回答
総数		100.0 (139)	15.1	4.3	8.6	<u>28.1</u>	<u>16.5</u>	15.1	10.1	2.2
性別	男	100.0 (83)	<u>9.6</u>	3.6	9.6	31.3	16.9	15.7	10.8	2.4
	女	100.0 (56)	<u>23.2</u>	5.4	7.1	23.2	16.1	14.3	8.9	1.8
年齢階級別	29歳以下	100.0 (21)	19.0	-	14.3	47.6	14.3	4.8	-	-
	30～39歳	100.0 (40)	12.5	10.0	7.5	30.0	15.0	20.0	2.5	2.5
	40～49歳	100.0 (46)	21.7	2.2	8.7	23.9	21.7	4.3	13.0	4.3
	50歳以上	100.0 (32)	6.3	3.1	6.3	18.8	12.5	31.3	21.9	-
〔仕事の種類 複数回答〕	正規の職員・従業員	100.0 (33)	-	-	3.0	30.3	21.2	15.2	27.3	3.0
	非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・日雇等(契約職員、派遣職員を含む))	100.0 (105)	<u>19.0</u>	5.7	10.5	27.6	15.2	15.2	<u>3.8</u>	2.9

注)「仕事の種類〔複数回答〕別」のうち、「会社等の役員」は母数が少数のため、省略した。

(9) 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

－性別、年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である139人が対象

仕事をしていく上で困ることは、男性では「人間関係（職場内でのいじめなど）」の割合が27.7%、女性では「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」が28.6%

仕事をしていく上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」の割合が71.2%、「困ることは特にない」が23.7%となっている。

性別で見ると、男性では「人間関係（職場内でのいじめなど）」の割合が27.7%、女性では「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」が28.6%となっている。

年齢階級別にみると、29歳以下では「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」の割合が42.9%、50歳以上では「人間関係（職場内でのいじめなど）」が43.8%となっている。（表IV-5-4）

表IV-5-4 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

－性別、年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

	総数	困ることがある	困ることがある											困ることは特にない	無回答	
			仕事の内容	人間関係（職場内でのいじめなど）	相手に対して、言いたい内容が伝わらない	相手が言っていることが分からない	職場の（物理的な）バリアフリー化が不十分	勤務時間・日数	通勤距離・時間	通勤時の混雑	定期的な通院や健康管理との両立	急な体調の変化への配慮がない	その他			
総数	100.0 (139)	71.2	17.3	26.6	20.1	12.2	1.4	13.7	12.2	11.5	13.7	10.8	7.9	23.7	5.0	
性別	男	100.0 (83)	69.9	13.3	27.7	14.5	12.0	2.4	10.8	15.7	14.5	13.3	9.6	7.2	25.3	4.8
	女	100.0 (56)	73.2	23.2	25.0	28.6	12.5	-	17.9	7.1	7.1	14.3	12.5	8.9	21.4	5.4
年齢階級別	29歳以下	100.0 (21)	81.0	28.6	23.8	42.9	28.6	-	19.0	9.5	9.5	9.5	-	-	19.0	-
	30～39歳	100.0 (40)	72.5	17.5	25.0	27.5	10.0	2.5	17.5	10.0	17.5	17.5	5.0	5.0	20.0	7.5
	40～49歳	100.0 (46)	60.9	13.0	17.4	10.9	8.7	2.2	10.9	13.0	4.3	10.9	21.7	10.9	32.6	6.5
	50歳以上	100.0 (32)	78.1	15.6	43.8	9.4	9.4	-	9.4	15.6	15.6	15.6	9.4	12.5	18.8	3.1
程度別の	2級	100.0 (32)	71.9	9.4	15.6	15.6	12.5	-	18.8	9.4	12.5	21.9	18.8	3.1	25.0	3.1
	3級	100.0 (105)	71.4	19.0	30.5	21.0	11.4	1.9	12.4	13.3	11.4	11.4	8.6	9.5	22.9	5.7

注) 手帳の程度別のうち、1級は該当者がいないため、省略した。

(10) 仕事で困ったときの相談先〔複数回答〕

－性別、年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である 139 人が対象

しごと こま そうだんさき かいしゃ じょうし かぞく わりあい
仕事で困ったときの相談先は「会社の上司」、「家族」の割合がいずれも 42.4%

仕事で困ったときの相談先を聞いたところ、「会社の上司」及び「家族」の割合がいずれも 42.4%となっている。

性別でみると、「会社の上司」の割合は男性では 47.0%、女性では 35.7%となっている。また、「家族」の割合は男性では 37.3%、女性では 50.0%となっている。

年齢階級別にみると、29 歳以下では「会社の上司」及び「家族」の割合が 5 割を超えている（57.1%、52.4%）。また、50 歳以上では「相談する相手はいない」の割合が 18.8%となっている。（表IV-5-5）

表IV-5-5 仕事で困ったときの相談先〔複数回答〕

－性別、年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

		総数	会社の上司	会社の同僚	職場に派遣された ジョブコーチ	就労支援センター 等の職員	家族	会社 の同僚 以外の 友人	グ ル ー プ ホ ー ム の 世 話 人 等	施 設 の 職 員 、 出 身 校 の 教 員	そ の 他	相 談 す る 相 手 は い な い	今 ま で 特 に 困 っ た こ と は な い	無 回 答
総数		100.0 (139)	<u>42.4</u>	23.0	2.2	22.3	<u>42.4</u>	10.1	3.6	1.4	10.8	9.4	3.6	5.8
性別	男	100.0 (83)	<u>47.0</u>	21.7	2.4	25.3	<u>37.3</u>	7.2	4.8	2.4	12.0	8.4	3.6	4.8
	女	100.0 (56)	<u>35.7</u>	25.0	1.8	17.9	<u>50.0</u>	14.3	1.8	-	8.9	10.7	3.6	7.1
年齢階級別	29歳以下	100.0 (21)	<u>57.1</u>	33.3	4.8	28.6	<u>52.4</u>	23.8	4.8	9.5	9.5	4.8	-	9.5
	30～39歳	100.0 (40)	50.0	30.0	2.5	22.5	42.5	7.5	2.5	-	7.5	7.5	-	5.0
	40～49歳	100.0 (46)	43.5	19.6	2.2	23.9	45.7	8.7	-	-	13.0	6.5	4.3	6.5
	50歳以上	100.0 (32)	21.9	12.5	-	15.6	31.3	6.3	9.4	-	12.5	<u>18.8</u>	9.4	3.1
程度別	2級	100.0 (32)	37.5	18.8	-	21.9	43.8	6.3	9.4	3.1	12.5	9.4	6.3	3.1
	3級	100.0 (105)	44.8	24.8	2.9	22.9	41.9	11.4	1.9	1.0	10.5	9.5	2.9	5.7

注) 手帳の程度別のうち、1級は該当者がいないため、省略した。

(11) 福祉的就労経験の有無－性別、仕事の種類〔複数回答〕別

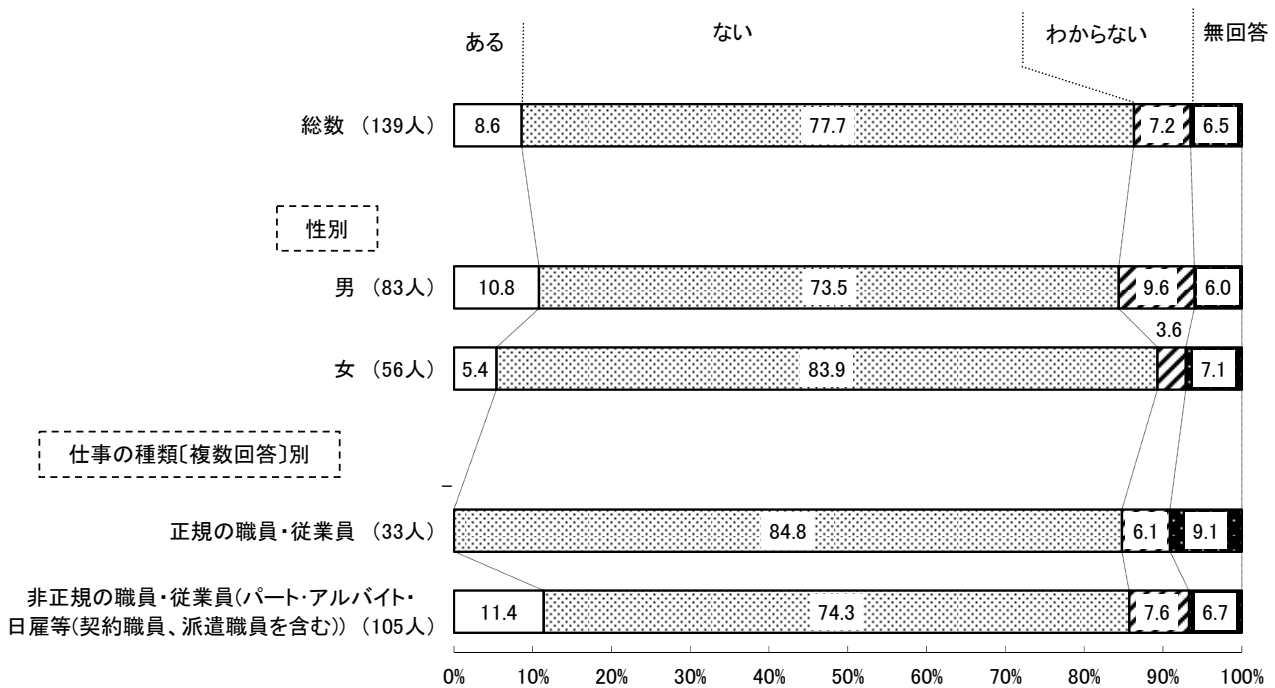
※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である139人が対象

これまでに^{ふくしてきしゅうろう}福祉的就労をしたことが「ある」^{わりあい}割合は8.6%

これまでに、福祉的就労をしたことがあるか聞いたところ、「ある」の割合が8.6%、「ない」が77.7%となっている。

仕事の種類別にみると、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））では、「ある」の割合が11.4%となっている。（図IV-5-6）

図IV-5-6 福祉的就労経験の有無－性別、仕事の種類〔複数回答〕別



注) 「仕事の種類〔複数回答〕別」のうち、「会社等の役員」は母数が少数のため、省略した。

(12) 現在、仕事をしていない理由、又は福祉的就労をしている理由〔複数回答〕

一年齢階級、収入を伴う仕事の有無別

※仕事をしていない、又は福祉的就労をしている（就労継続支援A型・B型、就労移行支援）

340人が対象

現在、仕事をしていない理由、又は福祉的就労をしている理由は「健康・体力上の理由（病気等を含む）」の割合が最も高く70.0%。また、「人間関係が難しいため」が25.6%

現在、仕事をしていない又は福祉的就労をしている理由を聞いたところ、「健康・体力上の理由（病気等を含む）」の割合が70.0%で最も高く、また、「人間関係が難しいため」が25.6%となっている。

年齢階級別にみると、「健康・体力上の理由（病気等を含む）」の割合は、40代が80.0%となっている。「人間関係が難しいため」の割合は、30代及び40代では3割を超えており、29歳以下では4割を超えている。（表IV-5-6）

表IV-5-6 現在、仕事をしていない理由、又は福祉的就労をしている理由〔複数回答〕

一年齢階級、収入を伴う仕事の有無別

		総数	自分に適した仕事がない	健康・体力上の理由 (病気等を含む)	会社倒産、人員整理など	家庭の都合 (結婚、育児、介護など)	高齢のため (定年を含む)	人間関係が難しいため	就学のため	受け入れてくれる職場がないため	働く必要がないため	働きたくないため	その他	無回答
総数		100.0 (340)	23.2	<u>70.0</u>	0.3	5.9	11.5	<u>25.6</u>	0.3	22.4	3.8	5.6	4.7	7.9
年齢階級別	29歳以下	100.0 (19)	31.6	63.2	-	5.3	-	<u>42.1</u>	5.3	31.6	5.3	10.5	10.5	5.3
	30～39歳	100.0 (51)	33.3	68.6	-	13.7	-	<u>35.3</u>	-	21.6	2.0	5.9	7.8	5.9
	40～49歳	100.0 (85)	28.2	<u>80.0</u>	-	4.7	-	<u>35.3</u>	-	25.9	-	8.2	2.4	5.9
	50～59歳	100.0 (92)	22.8	68.5	1.1	6.5	3.3	23.9	-	23.9	4.3	4.3	3.3	8.7
	60～69歳	100.0 (59)	18.6	67.8	-	1.7	30.5	11.9	-	20.3	5.1	3.4	3.4	13.6
	70歳以上	100.0 (34)	-	58.8	-	2.9	52.9	5.9	-	8.8	11.8	2.9	8.8	5.9
	(再掲)65歳以上	100.0 (70)	8.6	61.4	-	2.9	44.3	8.6	-	15.7	10.0	2.9	4.3	10.0
収入を伴う仕事の有無別	仕事をしていない	100.0 (281)	21.0	73.7	0.4	5.7	13.5	26.0	0.4	21.0	4.3	5.3	4.6	5.7
	福祉的就労をしている (就労継続支援A型・B型、 就労移行支援)	100.0 (59)	33.9	52.5	-	6.8	1.7	23.7	-	28.8	1.7	6.8	5.1	18.6

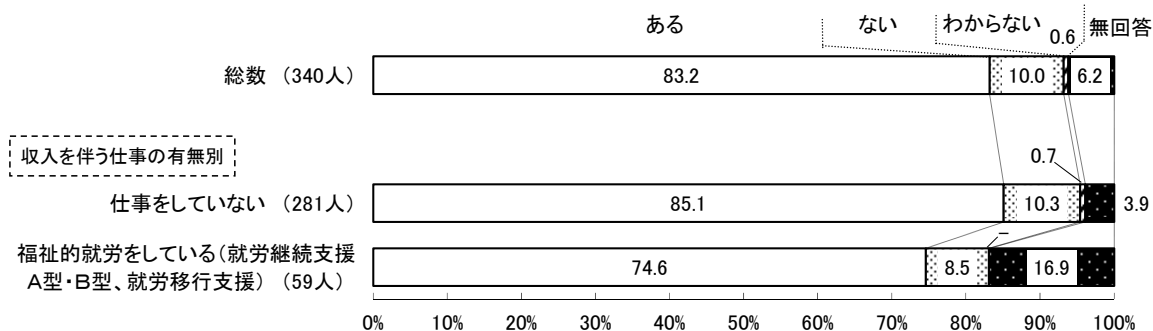
(13) 会社等での就労経験の有無－収入を伴う仕事の有無別

※仕事をしていない、又は福祉的就労をしている（就労継続支援A型・B型、就労移行支援）340人が対象

過去、会社等で働いたこと（パート、アルバイト等を含む）が「ある」割合は83.2%

過去に会社等で働いたこと（パート、アルバイト等を含む）があるか聞いたところ、「ある」の割合が83.2%、「ない」が10.0%となっている。（図IV-5-7）

図IV-5-7 会社等での就労経験の有無－収入を伴う仕事の有無別



(14) 会社等での就労意向の有無－年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

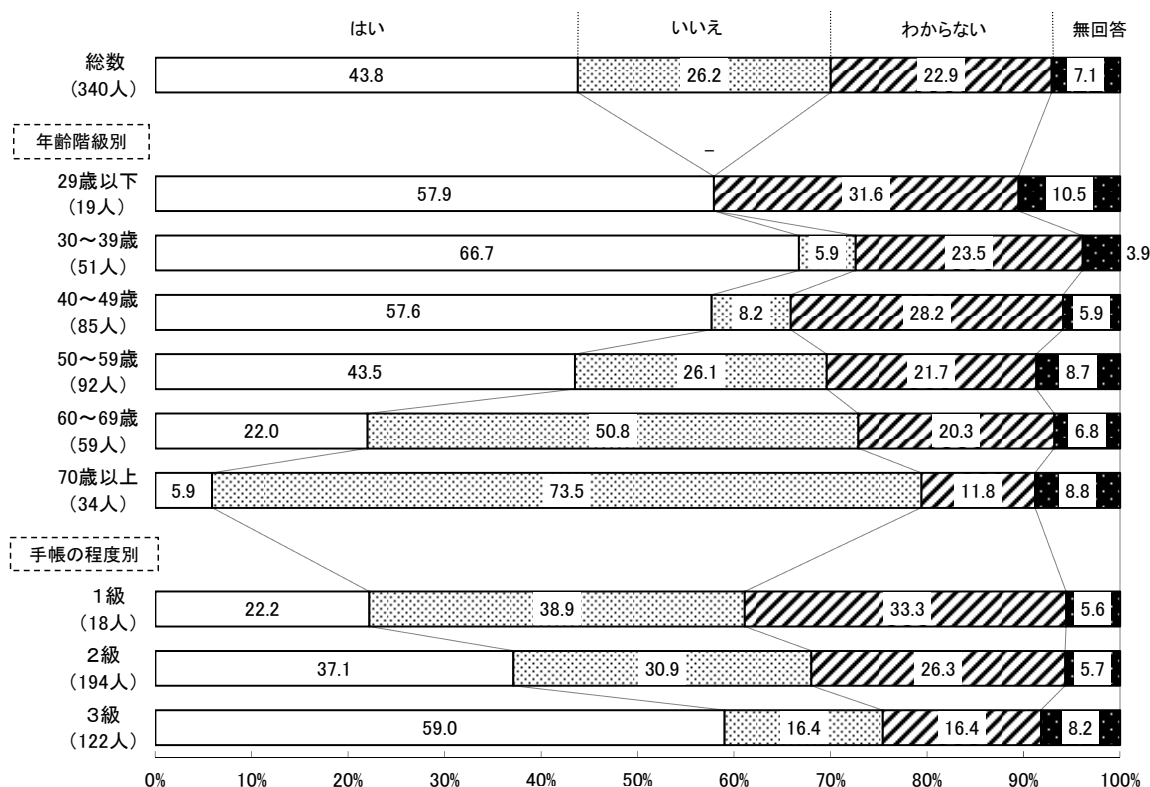
※仕事をしていない、又は福祉的就労をしている（就労継続支援A型・B型、就労移行支援）340人が対象

今後、会社等で働きたい（パート、アルバイト等を含む）割合は43.8%

今後、会社等で働きたいか（パート、アルバイト等を含む）聞いたところ、「はい」の割合が43.8%、「いいえ」が26.2%、「わからない」が22.9%となっている。

年齢階級別にみると、「はい」の割合は、30代が66.7%となっている。（図IV-5-8）

図IV-5-8 会社等での就労意向の有無－年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別



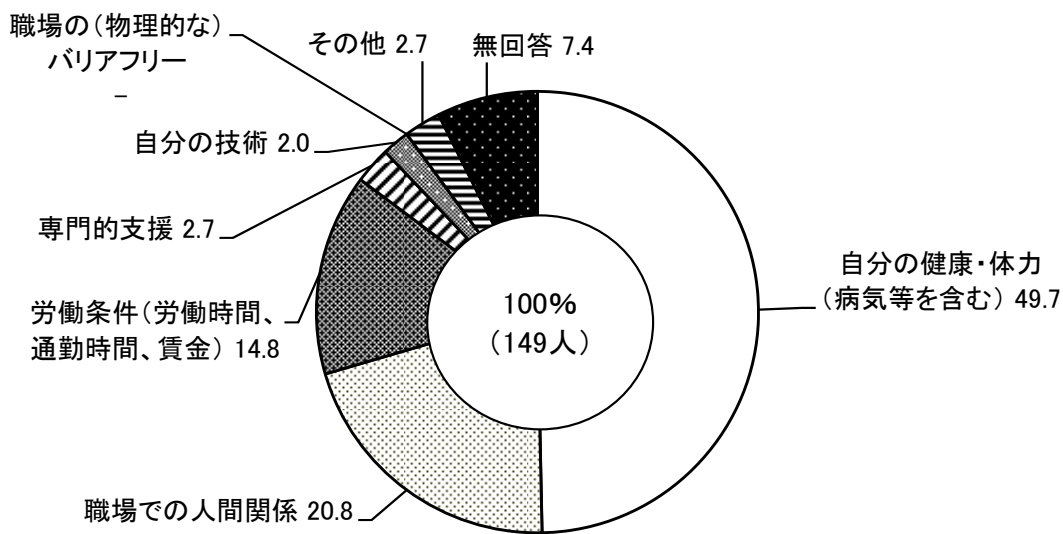
(15) 会社等で働くにあたって心配なこと（課題）

※仕事をしていない、又は福祉的就労をしている（就労継続支援A型・B型、就労移行支援）人の中で、今後、会社等で働きたい（パート、アルバイト等を含む）と答えた149人が対象

会社等^{かいしゃとう}で働く^{はたら}にあたって心配^{しんぱい}なこと（課題）は「自分の健康・体力^{じぶん けんこう たいりょく}（病気等^{びょうきとう}を含む）」の割合^{わりあい}が49.7%

会社等で働くにあたって心配なこと（課題）を聞いたところ、「自分の健康・体力（病気等を含む）」の割合が49.7%、「職場での人間関係」が20.8%となっている。（図IV-5-9）

図IV-5-9 会社等で働くにあたって心配なこと（課題）



6 経済基盤

(1) 収入の種類〔3つまでの複数回答〕

一年齢階級、年間収入額（生活保護費を除く）、診断名〔複数回答〕別

収入の種類は「年金・恩給」の割合が47.3%、「賃金・給料」が31.5%

平成29年中の収入の種類を聞いたところ、「年金・恩給」の割合が47.3%、「賃金・給料」が31.5%となっている。

平成25年度調査と比べて、「賃金・給料」の割合が11.9ポイント増加している。（表IV-6-1）

表IV-6-1 収入の種類〔3つまでの複数回答〕

一年齢階級、年間収入額（生活保護費を除く）、診断名〔複数回答〕別

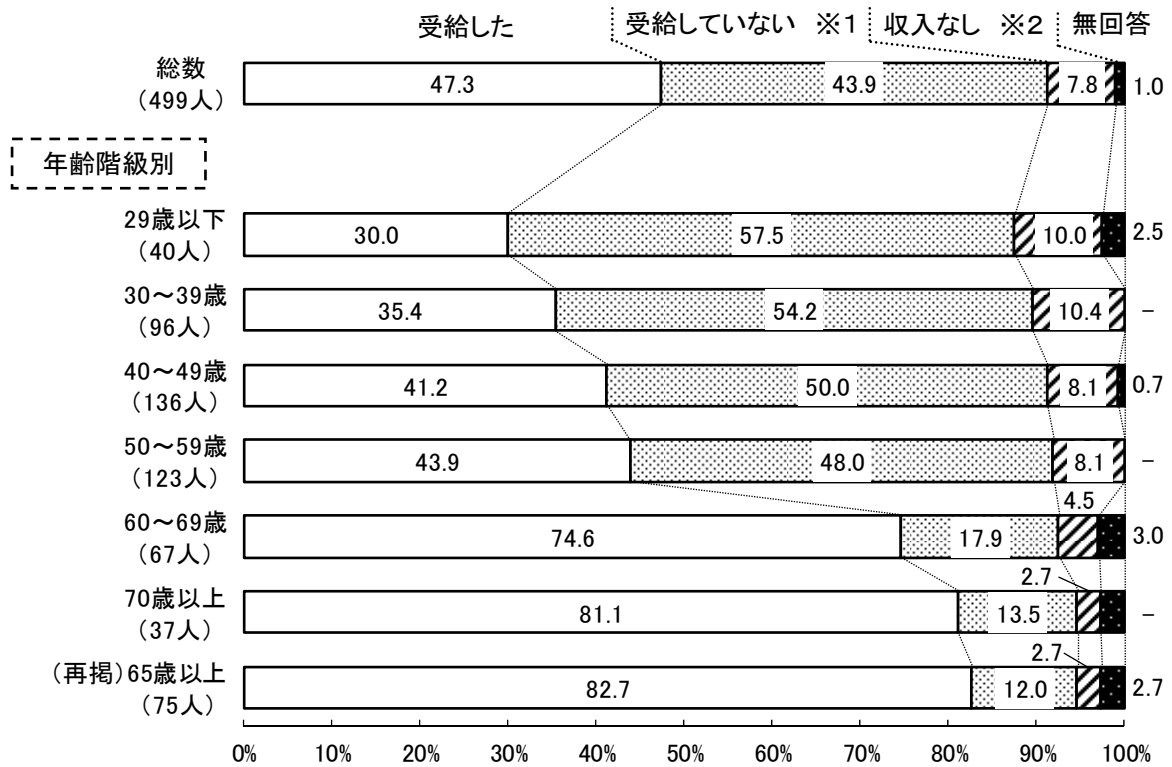
	総数	賃金・給料	事業所得	内職収入	家賃・地代	利子・配当	仕送り・小遣い	養育費・慰謝料	年金・恩給	生活保護費	手当	雇用保険	保険金・補償金	作業所等の工賃	その他の収入	収入はなかった	無回答	
総数	100.0 (499)	31.5	1.0	0.6	2.8	1.2	8.6	0.6	47.3	25.1	3.6	1.8	0.2	7.0	4.0	7.8	1.0	
年齢階級別	29歳以下	100.0 (40)	50.0	-	-	-	2.5	27.5	-	30.0	5.0	2.5	-	2.5	7.5	10.0	2.5	
	30～39歳	100.0 (96)	43.8	1.0	1.0	1.0	2.1	11.5	1.0	35.4	17.7	3.1	2.1	-	10.4	2.1	10.4	-
	40～49歳	100.0 (136)	36.8	2.2	-	2.9	0.7	9.6	0.7	41.2	22.1	4.4	5.1	-	8.1	2.2	8.1	0.7
	50～59歳	100.0 (123)	26.8	-	1.6	2.4	1.6	6.5	0.8	43.9	37.4	4.1	-	0.8	7.3	5.7	8.1	-
	60～69歳	100.0 (67)	16.4	-	-	4.5	-	-	-	74.6	28.4	3.0	-	-	4.5	7.5	4.5	3.0
	70歳以上	100.0 (37)	2.7	2.7	-	8.1	-	-	-	81.1	29.7	2.7	-	-	2.7	-	2.7	2.7
	(再掲)65歳以上	100.0 (75)	4.0	1.3	-	6.7	-	-	-	82.7	28.0	4.0	-	-	2.7	4.0	2.7	2.7
年間収入額（生活保護費を除く）別	収入なし	100.0 (90)	-	-	-	-	-	-	-	58.9	-	-	-	-	-	40.0	1.1	
	50万円未満	100.0 (73)	23.3	1.4	1.4	-	-	26.0	-	38.4	27.4	4.1	-	-	21.9	6.8	-	
	50～100万円未満	100.0 (134)	24.6	-	-	2.2	0.7	6.7	1.5	75.4	26.1	6.0	1.5	-	7.5	3.7	-	
	100～150万円未満	100.0 (75)	45.3	1.3	-	4.0	2.7	12.0	-	66.7	12.0	2.7	6.7	-	8.0	5.3	-	
	150～200万円未満	100.0 (27)	63.0	3.7	-	7.4	7.4	11.1	-	55.6	7.4	11.1	-	-	3.7	-	-	
	200～250万円未満	100.0 (25)	76.0	-	-	8.0	-	4.0	4.0	40.0	-	-	8.0	-	4.0	4.0	-	
	250～300万円未満	100.0 (14)	71.4	-	-	14.3	-	-	-	35.7	-	-	-	-	-	-	-	
	300～400万円未満	100.0 (10)	80.0	-	-	-	-	-	-	40.0	-	-	-	-	-	-	-	
400万円以上	100.0 (19)	73.7	5.3	5.3	10.5	5.3	5.3	-	31.6	-	5.3	-	5.3	-	21.1	-		
診断名（複数回答）別	アルコール・薬物依存症	100.0 (11)	18.2	-	-	-	-	9.1	-	36.4	45.5	-	-	-	-	18.2	-	
	統合失調症	100.0 (189)	19.6	-	-	3.7	0.5	8.5	0.5	59.8	28.0	5.3	2.1	-	11.6	2.6	5.3	
	そううつ病、うつ病	100.0 (217)	32.3	1.8	0.9	2.3	1.8	8.3	0.5	43.3	25.3	0.5	2.3	0.5	4.1	4.6	9.2	
	パーソナリティ障害	100.0 (10)	20.0	-	-	-	10.0	20.0	-	30.0	20.0	-	-	-	20.0	10.0	-	
	てんかん	100.0 (32)	25.0	-	3.1	3.1	-	6.3	-	46.9	18.8	12.5	-	-	6.3	3.1	15.6	
	発達障害（自閉症、学習障害など）	100.0 (85)	58.8	-	-	1.2	3.5	14.1	2.4	32.9	12.9	2.4	2.4	-	5.9	5.9	5.9	
	高次脳機能障害	100.0 (19)	42.1	5.3	-	-	-	10.5	-	63.2	5.3	21.1	-	-	5.3	-	-	
	その他	100.0 (70)	32.9	-	-	-	1.4	5.7	-	40.0	17.1	1.4	1.4	-	2.9	5.7	15.7	
平成25年度	100.0 (537)	19.6	0.7	0.4	0.7	0.6	10.1	0.2	46.6	32.6	6.1	0.6	0.6	7.6	2.4	9.5		

(2) 年金・恩給の受給の有無一年齢階級別

平成29年中に年金・恩給を受給したか聞いたところ、「受給した」の割合が47.3%、「受給していない」が43.9%となっている。

年齢階級別にみると、「受給した」の割合は、65歳以上が8割を超えている。(図IV-6-1)

図IV-6-1 年金・恩給の受給の有無一年齢階級別



注1) ※1は、年金・恩給を受給していないが、その他の収入があったものを表している。

2) ※2は、年金・恩給を含め、収入が何もなかったものを表している。

(3) 年金・恩給の収入額一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

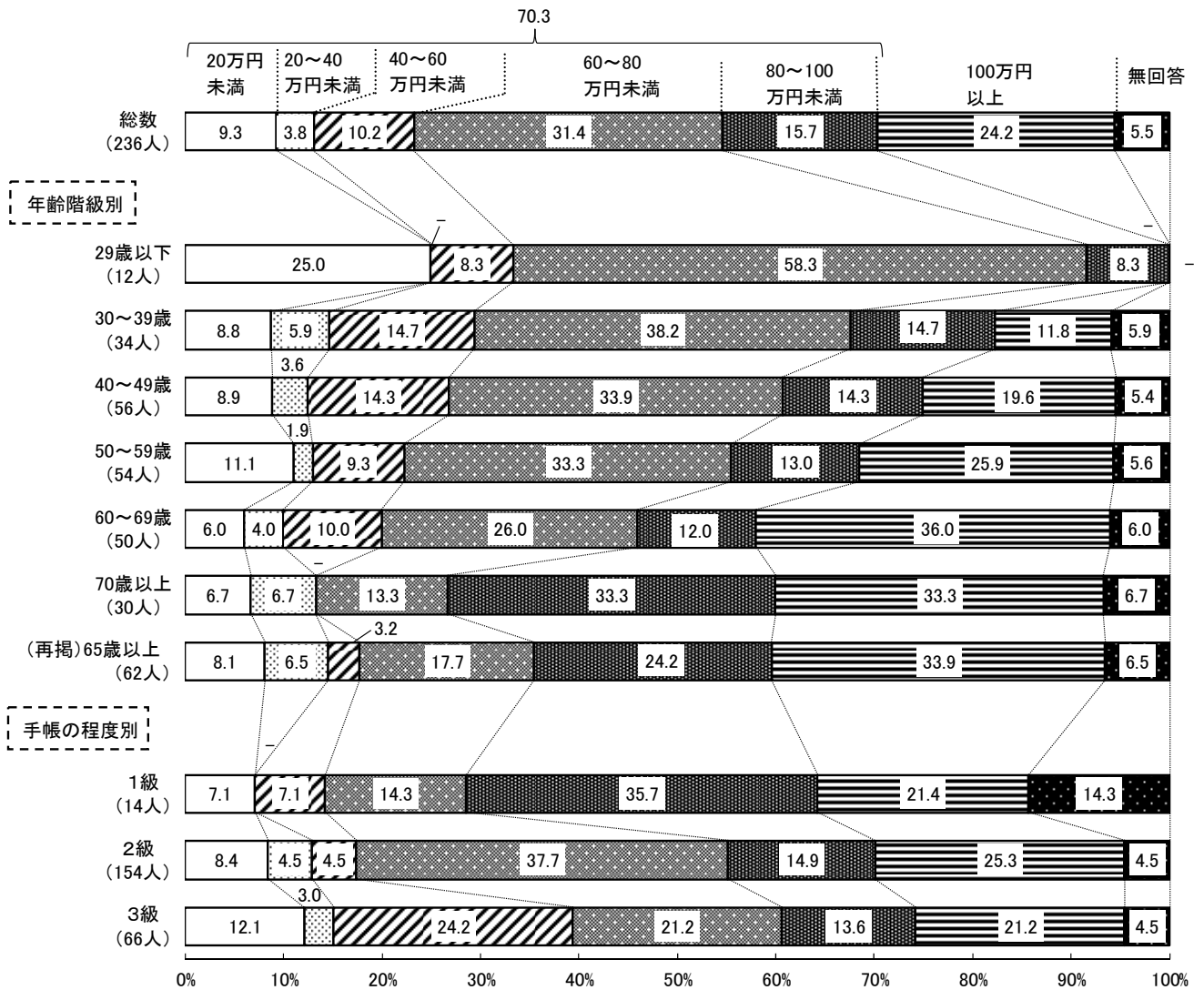
※年金・恩給を受給している 236 人が対象

ねんきん おんきゆう しゅうにゆうがく まんえんみまん わりあい
年金・恩給の収入額は「100万円未満」の割合が 70.3%

平成 29 年中における年金・恩給の収入額を聞いたところ、「60～80 万円未満」の割合が 31.4%、「100 万円以上」が 24.2%で、100 万円未満の割合は 70.3%となっている。

年齢階級別にみると、「100 万円以上」の割合は、60 代及び 70 歳以上が 3 割を超えている(36.0%、33.3%)。(図IV-6-2)

図IV-6-2 年金・恩給の収入額一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別



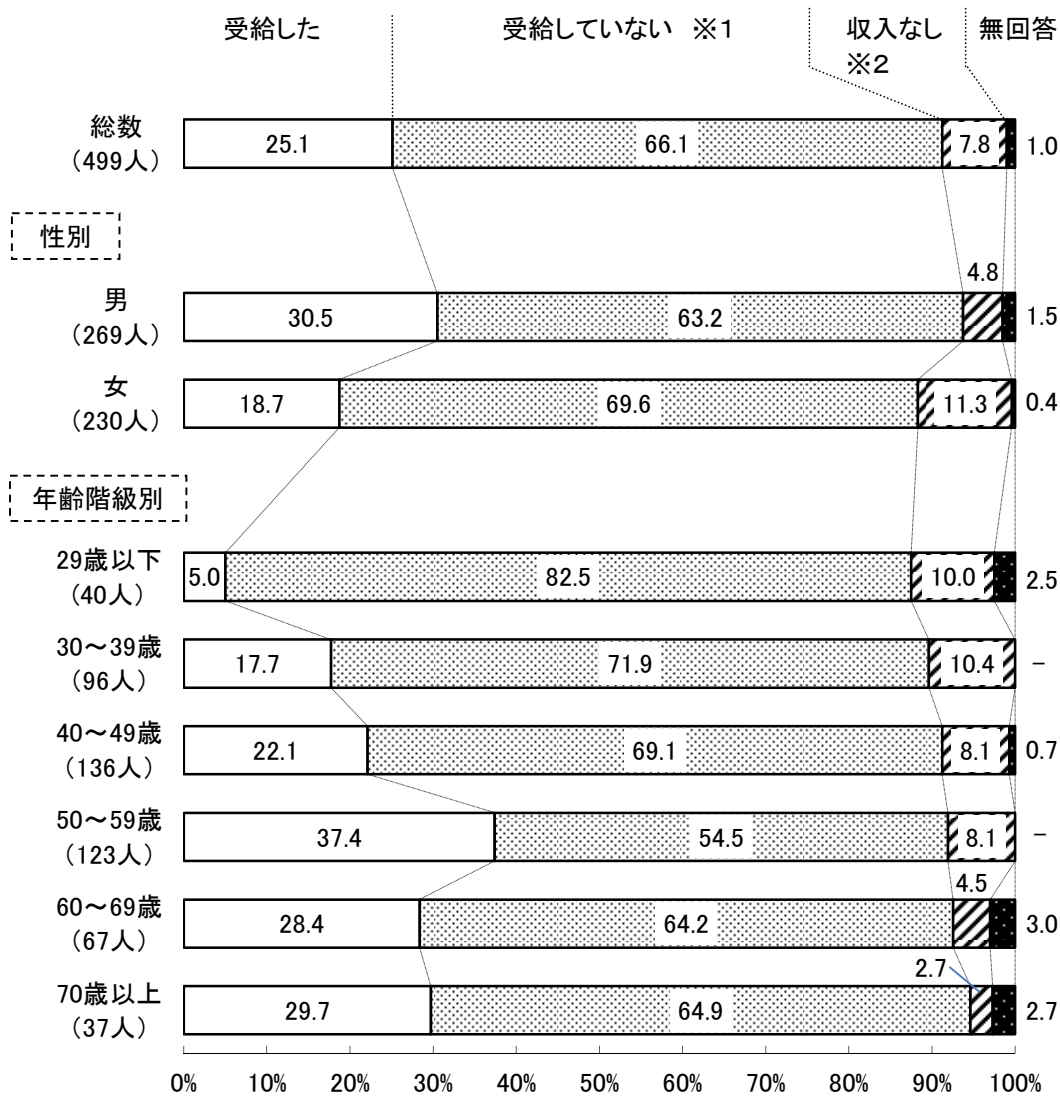
(4) 生活保護の受給の有無－性別、年齢階級別

平成29年中に生活保護を受給したか聞いたところ、「受給した」割合が25.1%、「受給していない」が66.1%となっている。

性別で見ると、「受給した」割合は、男性が30.5%、女性が18.7%となっている。

年齢階級別にみると、「受給した」割合は、50代が37.4%となっている。(図IV-6-3)

図IV-6-3 生活保護の受給の有無－性別、年齢階級別



注1) ※1は、生活保護を受給していないが、その他の収入があったものを表している。

2) ※2は、生活保護を含め、収入が何もなかったものを表している。

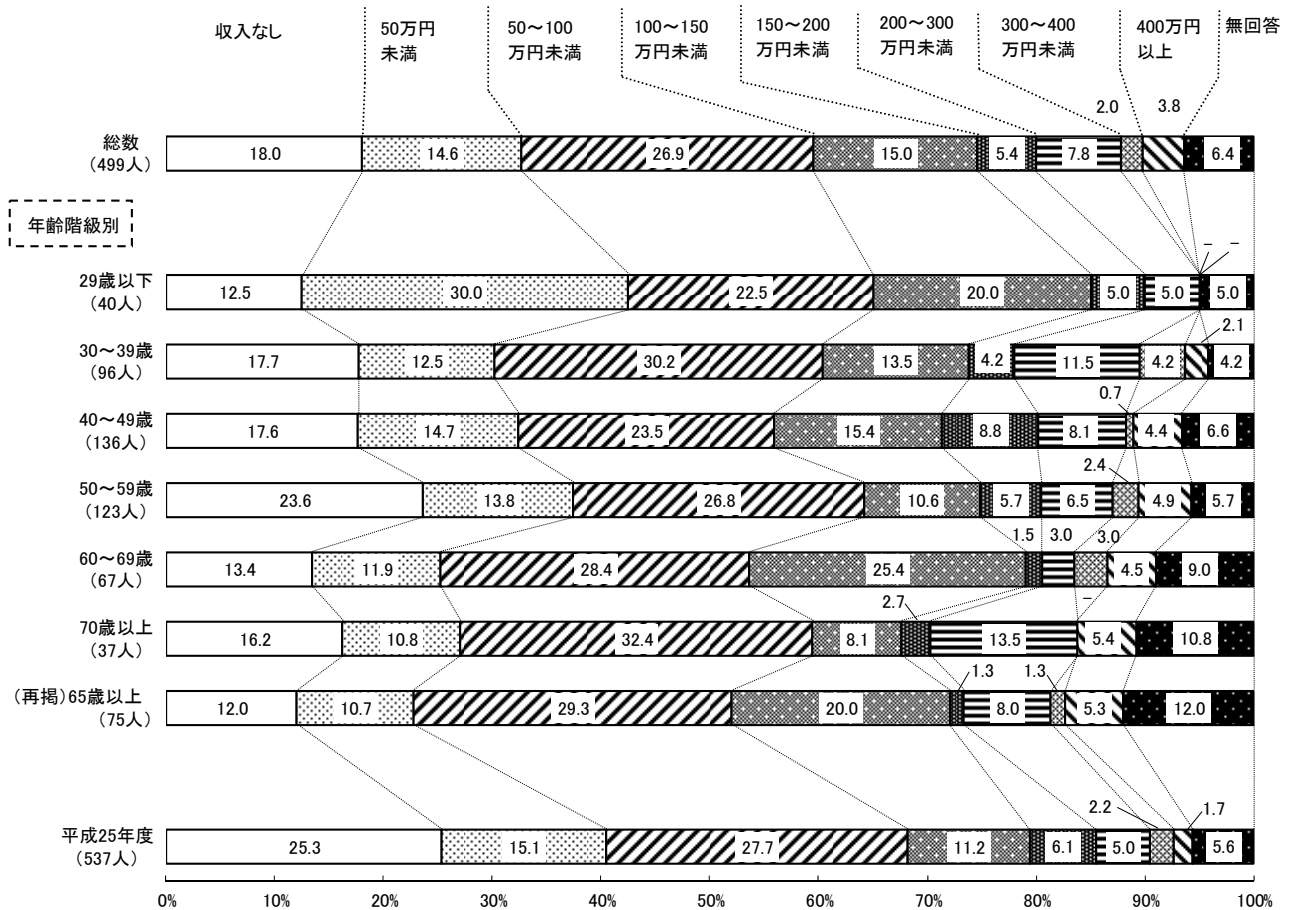
(5) 年間収入額（生活保護費を除く）一年齢階級別

ねんしゅう
年収は「50～100万円未満」の割合が 26.9%

平成 29 年中の収入額を聞いたところ、「50～100 万円未満」の割合が 26.9%、「収入なし」が 18.0%となっている。

平成 25 年度調査と比べて、「収入なし」の割合は、7.3 ポイント減少している。（図IV-6-4）

図IV-6-4 年間収入額（生活保護費を除く）一年齢階級別



(6) 年間収入額（生活保護費を除く）－精神障害者保健福祉手帳の程度、診断名〔複数回答〕別
 平成 29 年中の収入額を精神障害者保健福祉手帳の程度別で見ると、1 級及び 2 級では「50
 ～100 万円未満」の割合がそれぞれ 44.4%、33.8%、3 級では「収入なし」が 21.3%となっ
 ている。（表IV-6-2）

表IV-6-2 年間収入額（生活保護費を除く）

－精神障害者保健福祉手帳の程度、診断名〔複数回答〕別

		総 数	収 入 な し	5 0 万 円 未 満	5 0 万 円 未 満	1 0 万 円 未 満	1 5 万 円 未 満	2 0 万 円 未 満	2 5 万 円 未 満	3 0 万 円 未 満	4 0 万 円 未 満	5 0 万 円 未 満	6 0 万 円 未 満	7 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 5 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満	2 5 0 万 円 未 満	3 0 万 円 未 満	無 回 答	
総数		100.0 (499)	18.0	14.6	26.9	15.0	5.4	5.0	2.8	2.0	2.2	1.0	-	-	0.2	0.4	6.4				
手 帳 の 程 度 別	1級	100.0 (18)	16.7	11.1	44.4	11.1	-	-	5.6	5.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.6	
	2級	100.0 (234)	14.5	17.1	33.8	16.7	3.8	3.8	0.9	0.9	0.4	-	-	-	-	-	0.4			7.7	
	3級	100.0 (239)	21.3	13.0	19.7	13.8	7.1	6.3	4.6	2.9	4.2	2.1	-	-	0.4	0.4				4.2	
診 断 名 〔 複 数 回 答 〕 別	アルコール・薬物依存症	100.0 (11)	45.5	36.4	-	-	9.1	-	9.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	統合失調症	100.0 (189)	14.3	18.0	36.0	12.7	3.7	4.8	1.6	0.5	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	7.9	
	そううつ病、うつ病	100.0 (217)	21.7	12.9	25.3	12.9	6.0	4.1	3.7	2.3	1.8	2.3	-	-	0.5	0.5				6.0	
	パーソナリティ障害	100.0 (10)	20.0	40.0	20.0	-	-	-	-	10.0	-	10.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	てんかん	100.0 (32)	18.8	9.4	25.0	12.5	3.1	6.3	-	-	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12.5
	発達障害 (自閉症、学習障害など)	100.0 (85)	10.6	10.6	30.6	20.0	7.1	8.2	3.5	2.4	2.4	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-	3.5
	高次脳機能障害	100.0 (19)	-	5.3	21.1	21.1	15.8	15.8	5.3	-	10.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.3
	その他	100.0 (70)	25.7	11.4	21.4	17.1	2.9	-	4.3	5.7	-	-	-	-	-	-	1.4				10.0

7 社会参加等

(1) 平日の日中主に過ごしたところ一年齢階級、診断名〔複数回答〕別

平日の日中主に過ごしたところは「**自分の家**」の割合が最も高く59.5%

平日の日中主に過ごしたところについて聞いたところ、「自分の家」の割合が59.5%で最も高く、また、「職場（福祉的就労の施設を除く）」が17.6%となっている。

診断名別にみると、発達障害（自閉症、学習障害など）では、「職場（福祉的就労の施設を除く）」の割合が36.5%となっている。（表IV-7-1）

表IV-7-1 平日の日中主に過ごしたところ一年齢階級、診断名〔複数回答〕別

	総数	自分の家	職場（福祉的就労の施設を除く）	職場（福祉的就労の施設）	学校	自立訓練事業所など（生活介護・通所施設）	地域活動支援センター	デイケア等	入所施設	その他	無回答
総数	100.0 (499)	59.5	17.6	7.8	1.4	3.0	1.4	2.8	1.8	1.0	3.6
年齢階級別	29歳以下 (40)	37.5	27.5	10.0	10.0	7.5	-	-	-	-	7.5
	30～39歳 (96)	46.9	33.3	7.3	2.1	4.2	1.0	1.0	1.0	-	3.1
	40～49歳 (136)	62.5	19.9	11.0	-	2.9	-	2.2	-	-	1.5
	50～59歳 (123)	61.8	12.2	8.9	0.8	2.4	3.3	3.3	1.6	1.6	4.1
	60～69歳 (67)	74.6	3.0	3.0	-	1.5	1.5	4.5	3.0	3.0	6.0
	70歳以上 (37)	70.3	2.7	-	-	-	2.7	8.1	10.8	2.7	2.7
	（再掲）65歳以上 (75)	72.0	1.3	1.3	-	1.3	2.7	6.7	6.7	4.0	4.0
診断名（複数回答）別	アルコール・薬物依存症 (11)	63.6	9.1	-	-	-	-	9.1	9.1	9.1	-
	統合失調症 (189)	59.8	9.0	13.8	2.6	3.2	2.1	3.7	1.1	1.1	3.7
	そううつ病、うつ病 (217)	69.1	16.6	3.7	0.9	1.4	0.9	3.2	0.5	0.9	2.8
	パーソナリティ障害 (10)	70.0	20.0	-	-	-	-	10.0	-	-	-
	てんかん (32)	65.6	12.5	3.1	-	-	3.1	3.1	9.4	-	3.1
	発達障害（自閉症、学習障害など） (85)	37.6	36.5	8.2	3.5	5.9	-	-	1.2	-	7.1
	高次脳機能障害 (19)	52.6	31.6	-	-	5.3	-	5.3	-	-	5.3
	その他 (70)	72.9	15.7	1.4	-	2.9	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4

(2) 現在利用している施設に満足しているかー性別、年齢階級、

精神障害者保健福祉手帳の程度、平日の日中主に過ごしたところ別

※平日の日中主に職場（福祉的就労の施設）、通所施設（生活介護・自立訓練事業所など）、地域活動支援センター又はデイケア等で過ごしている75人が対象

現在利用している施設に満足している（「とても満足している」＋「満足している」＋「だいたい満足している」）割合は61.3%。そのうち、「とても満足している」割合は21.3%

現在利用している施設に満足しているか聞いたところ、「とても満足している」と答えた割合は21.3%で、「満足している」（24.0%）及び「だいたい満足している」（16.0%）を合わせると、61.3%となっている。

一方で、不満である（「やや不満である」（12.0%）、「不満である」（1.3%）及び「とても不満である」（回答者なし）の合計）と答えた割合は13.3%となっている。（表IV-7-2）

表IV-7-2 現在利用している施設に満足しているかー性別、年齢階級、

精神障害者保健福祉手帳の程度、平日の日中主に過ごしたところ別

		総数	とても満足	満足している	だいたい満足	ふつう	やや不満	不満である	とても不満	無回答
総数		100.0 (75)	21.3	24.0	16.0	18.7	12.0	1.3	=	6.7
			61.3				13.3			
性別	男	100.0 (46)	17.4	19.6	21.7	17.4	13.0	2.2	-	8.7
	女	100.0 (29)	27.6	31.0	6.9	20.7	10.3	-	-	3.4
年齢階級別	39歳以下	100.0 (20)	15.0	40.0	20.0	10.0	5.0	-	-	10.0
	40～49歳	100.0 (22)	22.7	27.3	13.6	9.1	22.7	-	-	4.5
	50～59歳	100.0 (22)	18.2	18.2	22.7	13.6	13.6	4.5	-	9.1
	60歳以上	100.0 (11)	36.4	-	-	63.6	-	-	-	-
程度帳別の	2級	100.0 (49)	26.5	26.5	10.2	20.4	8.2	-	-	8.2
	3級	100.0 (24)	8.3	20.8	29.2	12.5	20.8	4.2	-	4.2
平日の日中主に	職場（福祉的就労の施設）	100.0 (39)	17.9	30.8	20.5	15.4	10.3	-	-	5.1
	通所施設（生活介護・自立訓練事業所など）	100.0 (15)	20.0	20.0	13.3	6.7	20.0	-	-	20.0
	デイケア等	100.0 (14)	21.4	14.3	14.3	35.7	14.3	-	-	-

注1) 「手帳の程度別」のうち、1級は、母数が少数のため、省略した。

2) 「平日の日中主に過ごしたところ別」のうち、地域活動支援センターは、母数が少数のため、省略した。

(3) 趣味や社会活動への参加〔複数回答〕一年齢階級、診断名〔複数回答〕別

平成25年度調査よりも「活動したいと思うができない」の割合が7.9ポイント減少

この1年間に行った趣味、学習、スポーツ、社会活動などについて聞いたところ、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞、見物」の割合が35.1%、「趣味の活動（スポーツ、文化的）」が31.5%となっている。

平成25年度調査と比べて、「活動したいと思うができない」の割合が7.9ポイント減少し18.4%となっている。（表IV-7-3）

表IV-7-3 趣味や社会活動への参加〔複数回答〕一年齢階級、診断名〔複数回答〕別

		総数	鑑賞、見物	コンサートや映画、	レジャー活動	学習活動	（趣味の活動、文化的）	NPO活動	ボランティア活動や	活動	自助グループなどの	ない	参加できる活動場所が	活動したいと思うが	活動したいと思わない	その他	無回答
総数		100.0 (499)	35.1	15.0	14.4	31.5	6.2	3.4	4.6	18.4	15.4	6.0	3.0				
年齢階級別	29歳以下	100.0 (40)	60.0	30.0	30.0	60.0	7.5	7.5	2.5	12.5	10.0	-	-				
	30～39歳	100.0 (96)	51.0	26.0	20.8	44.8	4.2	2.1	5.2	12.5	8.3	4.2	-				
	40～49歳	100.0 (136)	36.0	14.7	10.3	27.2	8.1	2.2	4.4	22.8	14.7	0.7	2.9				
	50～59歳	100.0 (123)	26.8	8.9	13.0	26.0	4.9	6.5	4.1	17.9	17.9	9.8	3.3				
	60～69歳	100.0 (67)	20.9	9.0	10.4	20.9	6.0	1.5	7.5	17.9	23.9	11.9	7.5				
	70歳以上	100.0 (37)	16.2	2.7	8.1	18.9	8.1	-	2.7	27.0	18.9	13.5	5.4				
診断名〔複数回答〕別	アルコール・薬物依存症	100.0 (11)	36.4	9.1	18.2	9.1	-	9.1	-	27.3	18.2	9.1	-				
	統合失調症	100.0 (189)	22.8	12.7	15.9	26.5	6.9	2.1	5.3	23.3	17.5	5.8	3.2				
	そううつ病、うつ病	100.0 (217)	39.2	12.4	14.3	31.3	5.1	3.7	4.1	19.4	13.4	5.5	2.3				
	パーソナリティ障害	100.0 (10)	70.0	40.0	30.0	60.0	20.0	-	-	30.0	-	10.0	-				
	てんかん	100.0 (32)	40.6	15.6	15.6	18.8	12.5	3.1	3.1	15.6	31.3	3.1	-				
	発達障害（自閉症、学習障害など）	100.0 (85)	54.1	24.7	22.4	49.4	9.4	5.9	7.1	9.4	7.1	2.4	1.2				
	高次脳機能障害	100.0 (19)	21.1	26.3	5.3	10.5	5.3	15.8	10.5	36.8	10.5	-	-				
	その他	100.0 (70)	42.9	17.1	17.1	32.9	4.3	4.3	2.9	14.3	14.3	8.6	5.7				
平成25年度		100.0 (537)	38.0	15.5	13.0	30.4	4.5	3.5	5.0	26.3	16.2	5.6	3.4				

(4) 社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

一年齢階級、診断名〔複数回答〕別

しゃかいさんか うえ きまた けいざいてき りゆう わりあい
社会参加をする上で妨げになっていることは、「経済的な理由」の割合が 35.7%

社会参加をする上で妨げになっていることがあるか聞いたところ、「経済的な理由」の割合が 35.7%、「まわりの人の障害者に対する理解不足」が 21.8%となっている。一方で、「特にない」の割合は 26.3%となっている。

年齢階級別にみると、29歳以下では「まわりの人の障害者に対する理解不足」の割合が 35.0%、「一緒に行く仲間がいない」が 32.5%となっている。

診断名別にみると、発達障害（自閉症、学習障害など）では「まわりの人の障害者に対する理解不足」の割合が 34.1%となっている。（表IV-7-4）

表IV-7-4 社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

一年齢階級、診断名〔複数回答〕別

		総数	経済的な理由	介助者がいない	情報がない	理解不足 障害者に対する	拒否される 施設等の利用を	障害を理由に 適切な相談相手が	一緒に 行く仲間が	配慮されているが、 ヘルプマークを ※	その他	特にない	無回答
総数		100.0 (499)	35.7	3.8	17.0	21.8	2.8	16.0	18.8	3.4	13.4	26.3	3.2
年齢階級別	29歳以下	100.0 (40)	30.0	2.5	15.0	35.0	7.5	12.5	32.5	5.0	12.5	15.0	5.0
	30～39歳	100.0 (96)	41.7	5.2	18.8	24.0	4.2	17.7	22.9	5.2	11.5	20.8	-
	40～49歳	100.0 (136)	43.4	-	15.4	26.5	2.2	16.2	16.2	2.9	11.8	25.7	1.5
	50～59歳	100.0 (123)	36.6	4.1	22.0	19.5	0.8	19.5	19.5	3.3	10.6	27.6	4.1
	60～69歳	100.0 (67)	19.4	6.0	13.4	17.9	4.5	14.9	11.9	3.0	16.4	35.8	6.0
	70歳以上	100.0 (37)	24.3	10.8	10.8	-	-	5.4	13.5	-	29.7	32.4	8.1
	(再掲)65歳以上	100.0 (75)	21.3	8.0	13.3	10.7	4.0	10.7	14.7	1.3	21.3	36.0	5.3
診断名〔複数回答〕別	アルコール・薬物依存症	100.0 (11)	36.4	-	27.3	9.1	-	27.3	9.1	-	18.2	18.2	9.1
	統合失調症	100.0 (189)	32.3	1.6	19.0	20.6	3.7	16.4	20.1	2.6	10.6	27.0	3.7
	そううつ病、うつ病	100.0 (217)	41.9	4.6	17.5	21.2	1.4	17.1	18.4	4.1	15.7	22.1	3.7
	パーソナリティ障害	100.0 (10)	40.0	-	20.0	10.0	-	30.0	20.0	-	10.0	20.0	10.0
	てんかん	100.0 (32)	37.5	6.3	18.8	31.3	15.6	25.0	18.8	6.3	12.5	21.9	3.1
	発達障害（自閉症、学習障害など）	100.0 (85)	37.6	1.2	18.8	34.1	-	16.5	24.7	4.7	15.3	18.8	1.2
	高次脳機能障害	100.0 (19)	10.5	10.5	15.8	31.6	5.3	15.8	10.5	10.5	26.3	21.1	5.3
	その他	100.0 (70)	38.6	2.9	21.4	22.9	4.3	21.4	20.0	8.6	7.1	25.7	5.7
平成25年度		100.0 (537)	31.8	5.0	15.3	21.4	1.7	13.8	18.6	...	17.3	27.6	3.2

注) ※は、平成 25 年度調査では選択肢を設けていなかった。

(5) 障害のためにあきらめたり妥協したこと〔複数回答〕一年齢階級、診断名〔複数回答〕別

障害のためにあきらめたり妥協したことは、「就職」が40.1%、「旅行や遠距離の外出」が37.3%、「人付き合い」が34.5%

障害のためにあきらめたり、妥協せざるを得なかったことを聞いたところ、「就職」の割合が40.1%、「旅行や遠距離の外出」が37.3%、「人付き合い」が34.5%となっている。

年齢階級別にみると、29歳以下、30代及び40代では「就職」の割合がそれぞれ45.0%、47.9%、47.8%、「人付き合い」がそれぞれ42.5%、42.7%、41.2%となっている。（表IV-7-5）

表IV-7-5 障害のためにあきらめたり妥協したこと〔複数回答〕

一年齢階級、診断名〔複数回答〕別

		総数	進学	就職	異性との付き合い	結婚	出産・育児	人付き合い	近距離の外出	旅行や遠距離の外出	ファッションなど	スポーツ・文化	その他	特にない	無回答
総数		100.0 (499)	11.2	40.1	23.2	25.1	14.6	34.5	17.2	37.3	14.0	19.6	2.8	22.6	1.6
年齢階級別	29歳以下	100.0 (40)	27.5	45.0	35.0	25.0	15.0	42.5	12.5	32.5	12.5	17.5	2.5	15.0	-
	30～39歳	100.0 (96)	16.7	47.9	32.3	35.4	30.2	42.7	17.7	33.3	15.6	24.0	2.1	14.6	-
	40～49歳	100.0 (136)	9.6	47.8	30.1	31.6	19.9	41.2	19.1	43.4	19.9	21.3	2.9	18.4	0.7
	50～59歳	100.0 (123)	8.9	38.2	18.7	25.2	7.3	23.6	13.8	37.4	8.9	16.3	2.4	26.0	1.6
	60～69歳	100.0 (67)	3.0	25.4	9.0	7.5	3.0	34.3	20.9	40.3	13.4	20.9	4.5	28.4	4.5
	70歳以上	100.0 (37)	8.1	18.9	2.7	5.4	-	16.2	18.9	24.3	8.1	13.5	2.7	45.9	5.4
	(再掲)65歳以上	100.0 (75)	5.3	25.3	6.7	6.7	-	20.0	18.7	30.7	8.0	16.0	2.7	38.7	5.3
診断名〔複数回答〕別	アルコール・薬物依存症	100.0 (11)	18.2	36.4	9.1	9.1	-	36.4	18.2	36.4	9.1	9.1	9.1	27.3	-
	統合失調症	100.0 (189)	12.2	41.8	21.7	28.6	13.2	35.4	16.4	41.3	15.3	19.0	1.1	22.2	1.6
	そううつ病、うつ病	100.0 (217)	11.5	44.2	26.3	25.8	17.1	38.2	19.8	41.5	17.1	20.3	2.8	18.4	0.9
	パーソナリティ障害	100.0 (10)	40.0	60.0	30.0	30.0	30.0	80.0	50.0	40.0	30.0	20.0	10.0	10.0	-
	てんかん	100.0 (32)	9.4	34.4	18.8	28.1	28.1	31.3	21.9	43.8	9.4	28.1	6.3	12.5	6.3
	発達障害 (自閉症、学習障害など)	100.0 (85)	21.2	43.5	45.9	34.1	18.8	49.4	14.1	28.2	15.3	24.7	1.2	21.2	-
	高次脳機能障害	100.0 (19)	5.3	42.1	15.8	15.8	10.5	15.8	15.8	21.1	5.3	42.1	5.3	31.6	-
	その他	100.0 (70)	11.4	35.7	17.1	22.9	22.9	30.0	24.3	47.1	17.1	20.0	5.7	24.3	4.3
平成25年度		100.0 (537)	11.5	39.7	22.3	26.1	13.6	32.2	19.0	38.7	15.8	20.3	4.5	21.4	1.9

8 情報の入手やコミュニケーションの手段

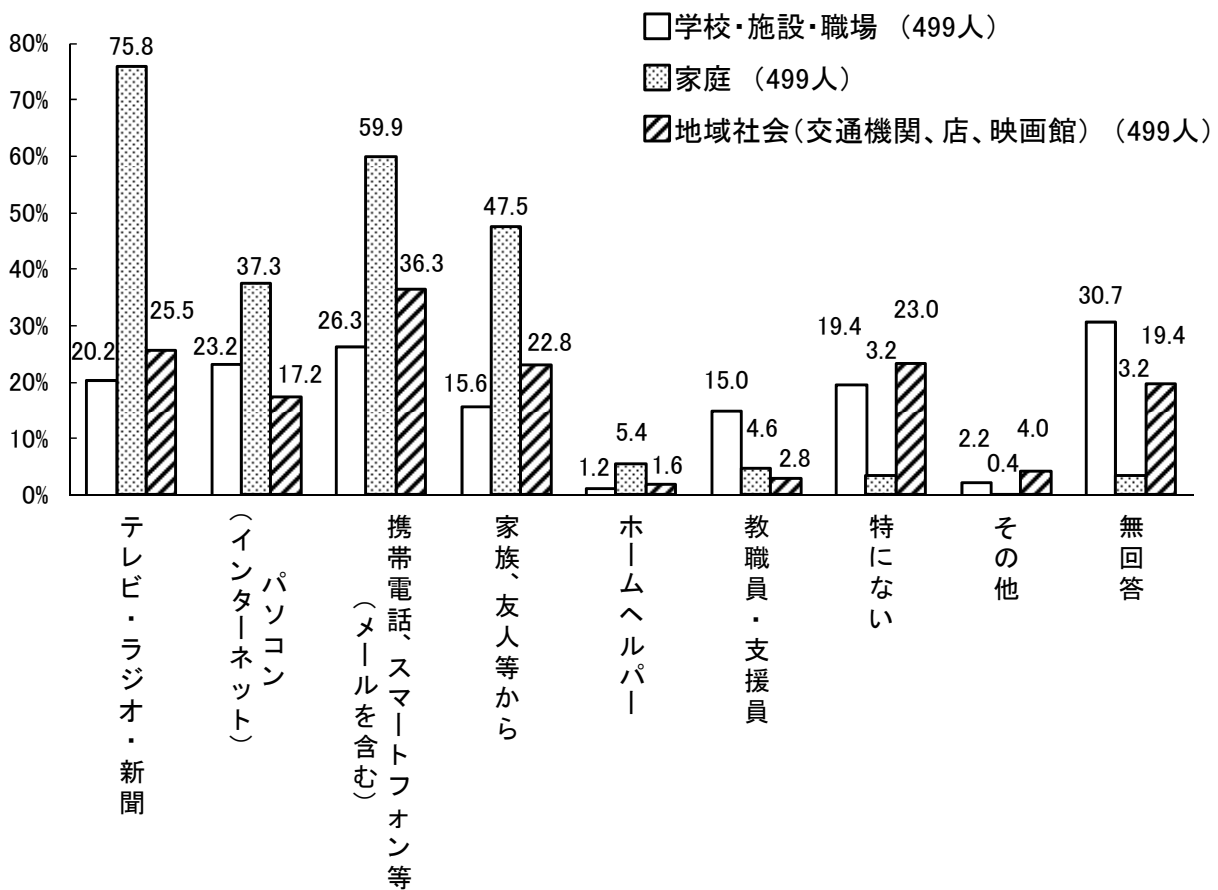
(1) 情報の入手やコミュニケーションの手段〔複数回答〕

情報の入手やコミュニケーションの手段は、「学校・施設・職場」及び「地域社会（交通機関、店、映画館）」では「携帯電話、スマートフォン等（メールを含む）」の割合がそれぞれ26.3%、36.3%、「家庭」では「テレビ・ラジオ・新聞」の割合が75.8%

「学校・施設・職場」、「家庭」、「地域社会（交通機関、店、映画館）」のそれぞれの場所における情報の入手やコミュニケーションの手段について聞いた。「学校・施設・職場」及び「地域社会（交通機関、店、映画館）」では「携帯電話、スマートフォン等（メールを含む）」の割合がそれぞれ26.3%、36.3%、「家庭」では「テレビ・ラジオ・新聞」が75.8%となっている。

(図IV-8-1)

図IV-8-1 情報の入手やコミュニケーションの手段〔複数回答〕



(2) 情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ること〔2つまでの複数回答〕

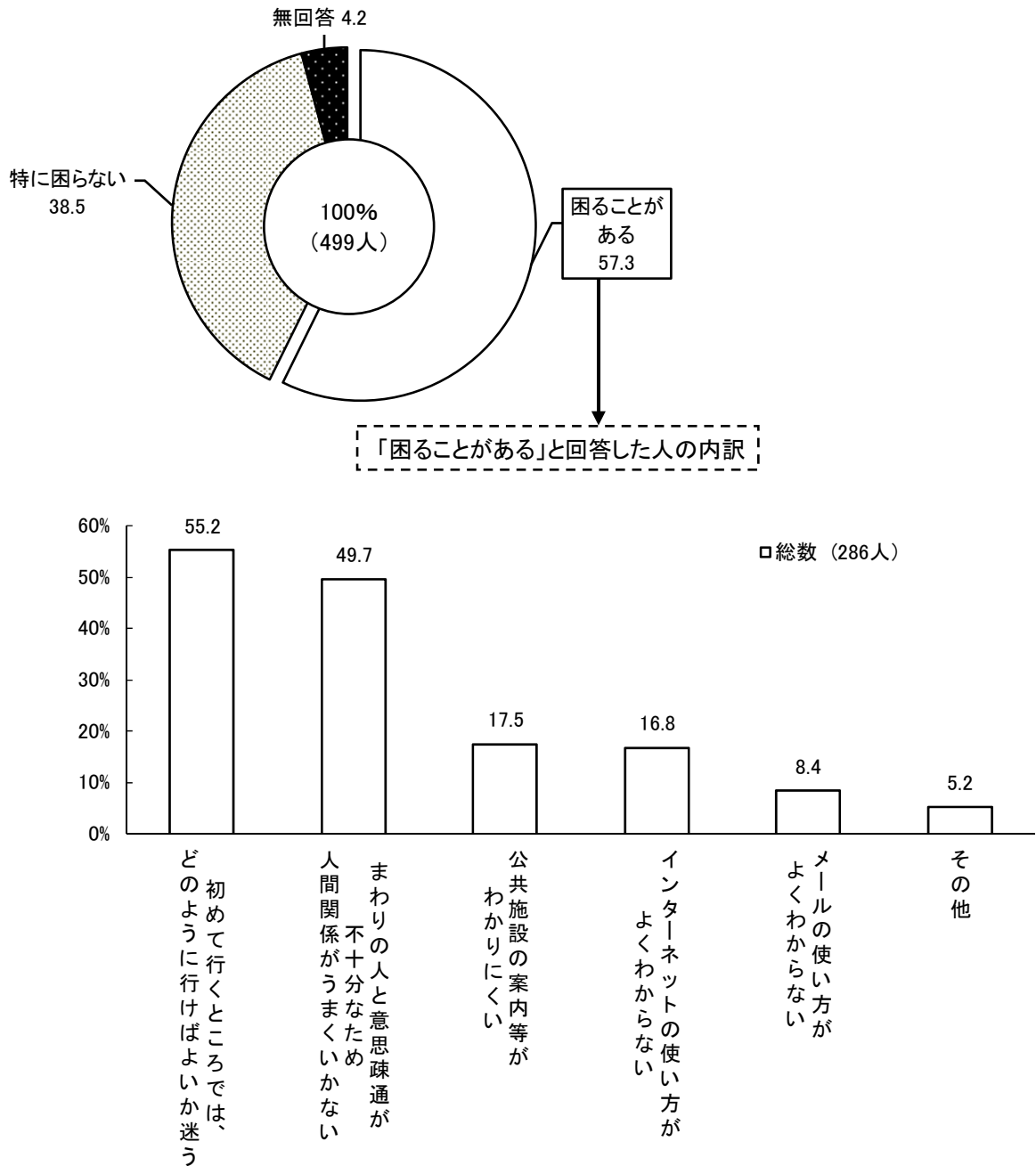
情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ることは、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」の割合が55.2%

情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」と答えた割合が57.3%となっている。

困ることの内容では、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」の割合が55.2%、「まわりの人と意思疎通が不十分なため人間関係がうまくいかない」が49.7%となっている。

(図IV-8-2)

図IV-8-2 情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ること〔2つまでの複数回答〕



(3) 要求や意思を相手に伝えることができるか一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

自分の要求や意思などを相手に伝えることが「問題なくできる」割合が43.7%、「いくらか困難」が34.3%

自分の要求や意思などを相手に伝え、理解させることができるか（会話に限らず、筆談、手話も含む）聞いたところ、「問題なくできる」の割合が43.7%、「いくらか困難」が34.3%となっている。

年齢階級別にみると、「いくらか困難」の割合は、29歳以下、30代及び40代ではいずれも4割を超えている（42.5%、40.6%、41.2%）。

精神障害者保健福祉手帳の程度別にみると、「伝えられない」の割合は、1級が27.8%となっている。（表IV-8-1）

表IV-8-1 要求や意思を相手に伝えることができるか

一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

		総数	問題なくできる	いくらか困難	具体的要求に限られる	伝えられない	その他	無回答
総数		100.0 (499)	43.7	34.3	9.2	7.8	2.8	2.2
年齢階級別	29歳以下	100.0 (40)	27.5	42.5	15.0	10.0	2.5	2.5
	30～39歳	100.0 (96)	40.6	40.6	9.4	6.3	3.1	-
	40～49歳	100.0 (136)	44.1	41.2	5.9	8.1	0.7	-
	50～59歳	100.0 (123)	51.2	26.0	9.8	6.5	4.1	2.4
	60～69歳	100.0 (67)	34.3	28.4	13.4	13.4	4.5	6.0
	70歳以上	100.0 (37)	59.5	21.6	5.4	2.7	2.7	8.1
	(再掲)65歳以上	100.0 (75)	48.0	22.7	9.3	6.7	4.0	9.3
手帳の程度別	1級	100.0 (18)	38.9	22.2	-	27.8	-	11.1
	2級	100.0 (234)	39.7	34.2	12.0	9.0	3.0	2.1
	3級	100.0 (239)	49.0	35.1	7.1	5.0	2.9	0.8

9 障害者総合支援法による障害福祉サービス等

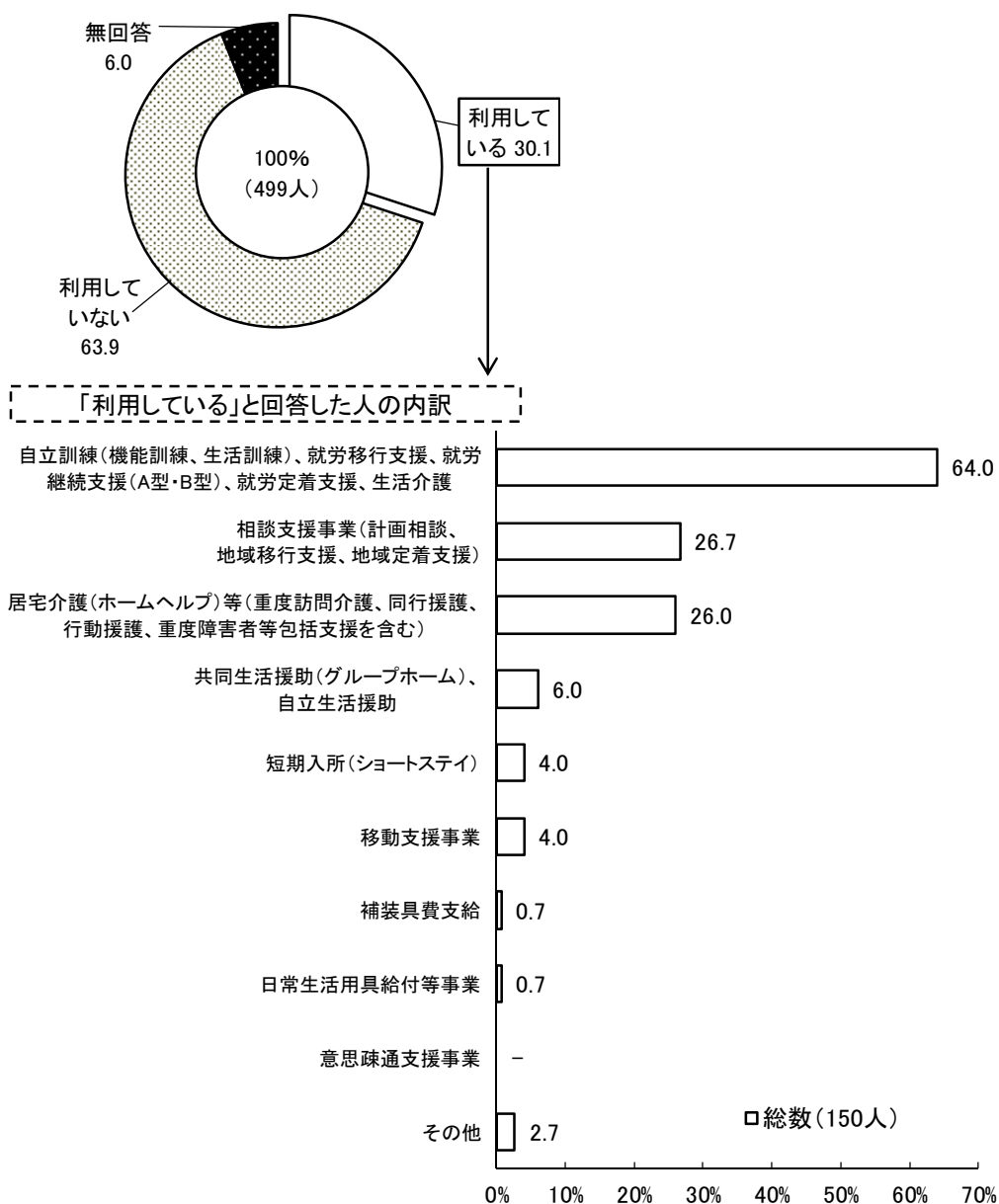
(1) 障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕

障害者総合支援法による障害福祉サービスを「利用している」割合は30.1%で、「自立訓練（機能訓練、生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援（A型・B型）、就労定着支援、生活介護」の割合が最も高い

過去1年間に障害者総合支援法による障害福祉サービスを利用したか聞いたところ、「利用している」の割合が30.1%、「利用していない」が63.9%となっている。

利用した内容では、「自立訓練（機能訓練、生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援（A型・B型）、就労定着支援、生活介護」が64.0%で最も高くなっている。（図IV-9-1）

図IV-9-1 障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕



(2) 障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕

一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）を年齢階級別にみると、「利用している」割合は、29歳以下、30代及び40代がいずれも3割を超えている（35.0%、35.4%、33.8%）。利用した内容では、「自立訓練（機能訓練、生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援（A型・B型）、就労定着支援、生活介護」の割合は、29歳以下が32.5%となっている。

精神障害者保健福祉手帳の程度別にみると、「利用している」割合は、1級及び2級が3割を超えている（33.3%、33.8%）。（表IV-9-1）

表IV-9-1 障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕

一年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

	総数	利用している											利用していない	無回答	
		重度障害者等包括支援を含む	居宅介護（ホームヘルプ）等	短期入所（ショートステイ）	就労移行支援、就労定着支援、生活介護（A型・B型）	自立訓練（機能訓練、生活訓練）	共同生活援助（グループホーム）	補装具費支給	移行支援、地域定着支援	相談支援事業（計画相談、地域）	意思疎通支援事業	日常生活用具給付等事業			移動支援事業
総数	100.0 (499)	30.1	7.8	1.2	19.2	1.8	0.2	8.0	-	0.2	1.2	0.8	63.9	6.0	
年齢階級別	29歳以下	100.0 (40)	35.0	-	2.5	32.5	-	-	7.5	-	-	2.5	-	60.0	5.0
	30～39歳	100.0 (96)	35.4	3.1	2.1	28.1	2.1	-	12.5	-	-	1.0	1.0	58.3	6.3
	40～49歳	100.0 (136)	33.8	11.0	1.5	20.6	2.2	-	6.6	-	0.7	2.2	0.7	64.0	2.2
	50～59歳	100.0 (123)	29.3	8.1	-	18.7	1.6	-	10.6	-	-	0.8	0.8	65.9	4.9
	60～69歳	100.0 (67)	20.9	11.9	-	6.0	3.0	-	1.5	-	-	-	1.5	67.2	11.9
	70歳以上	100.0 (37)	16.2	8.1	2.7	2.7	-	2.7	5.4	-	-	-	-	70.3	13.5
(再掲) 65歳以上	100.0 (75)	21.3	13.3	1.3	4.0	1.3	1.3	4.0	-	-	-	1.3	62.7	16.0	
手帳の程度別	1級	100.0 (18)	33.3	5.6	5.6	11.1	5.6	5.6	11.1	-	-	5.6	-	55.6	11.1
	2級	100.0 (234)	33.8	12.4	1.3	19.7	2.6	-	8.1	-	-	0.9	0.9	58.5	7.7
	3級	100.0 (239)	26.8	3.8	0.4	19.7	0.8	-	7.5	-	0.4	1.3	0.8	69.5	3.8

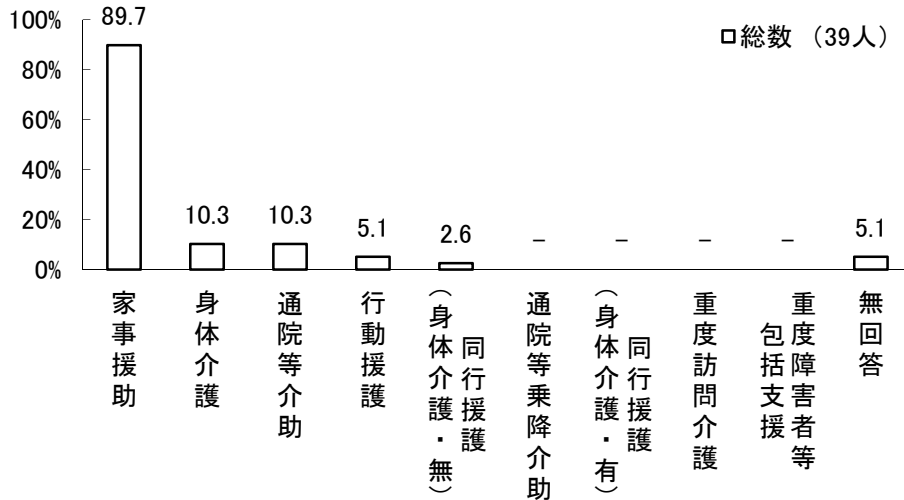
(3) 居宅介護等のサービスの種類〔複数回答〕

※居宅介護（ホームヘルプ）等（重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援を含む）を利用している 39 人が対象

利用した居宅介護等のサービスの種類は「家事援助」の割合が最も高く 89.7%

障害者総合支援法による障害福祉サービスで居宅介護等を利用した人に、利用したサービスの種類を聞いたところ、「家事援助」の割合が 89.7%で最も高くなっている。（図IV-9-2）

図IV-9-2 居宅介護等のサービスの種類〔複数回答〕



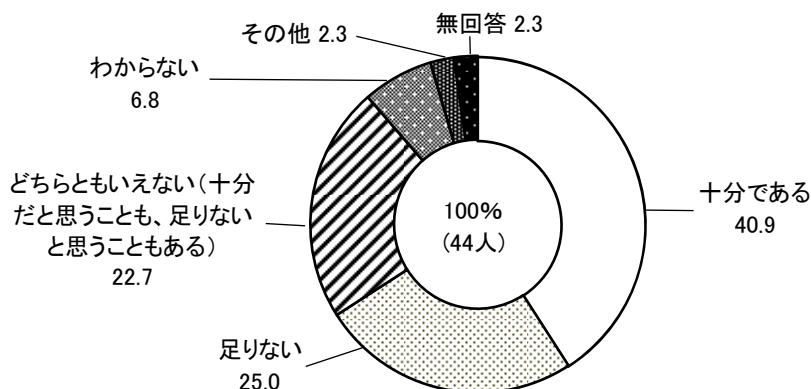
(4) サービス支給量は十分か（居宅介護等、短期入所）

※居宅介護（ホームヘルプ）等（重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援を含む）、短期入所（ショートステイ）を利用している 44 人が対象

サービス支給量が「十分である」と思っている人の割合が 40.9%

障害者総合支援法による障害福祉サービスで居宅介護（ホームヘルプ）等及び短期入所（ショートステイ）を利用した人に支給量は十分か聞いたところ、「十分である」の割合が 40.9%、「足りない」が 25.0%、「どちらともいえない（十分だと思うことも、足りないと思うこともある）」が 22.7%となっている。（図IV-9-3）

図IV-9-3 サービス支給量は十分か（居宅介護等、短期入所）



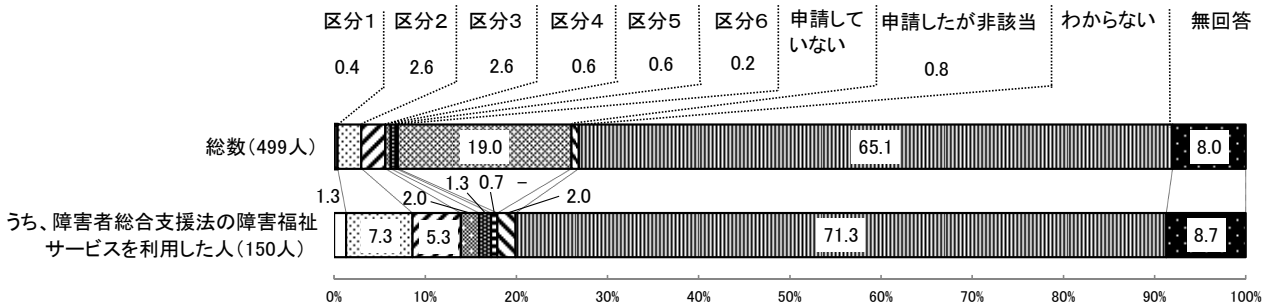
(5) 障害者総合支援法における障害支援区分

しょうがいしえんくぶん 障害支援区分は「区分2」及び「区分3」の割合がいずれも2.6%
くぶん くぶん わりあい

障害支援区分を聞いたところ、「区分2」及び「区分3」の割合がいずれも2.6%となっている。一方で、「申請していない」が19.0%、「わからない」が65.1%となっている。

(図IV-9-4)

図IV-9-4 障害者総合支援法における障害程度区分



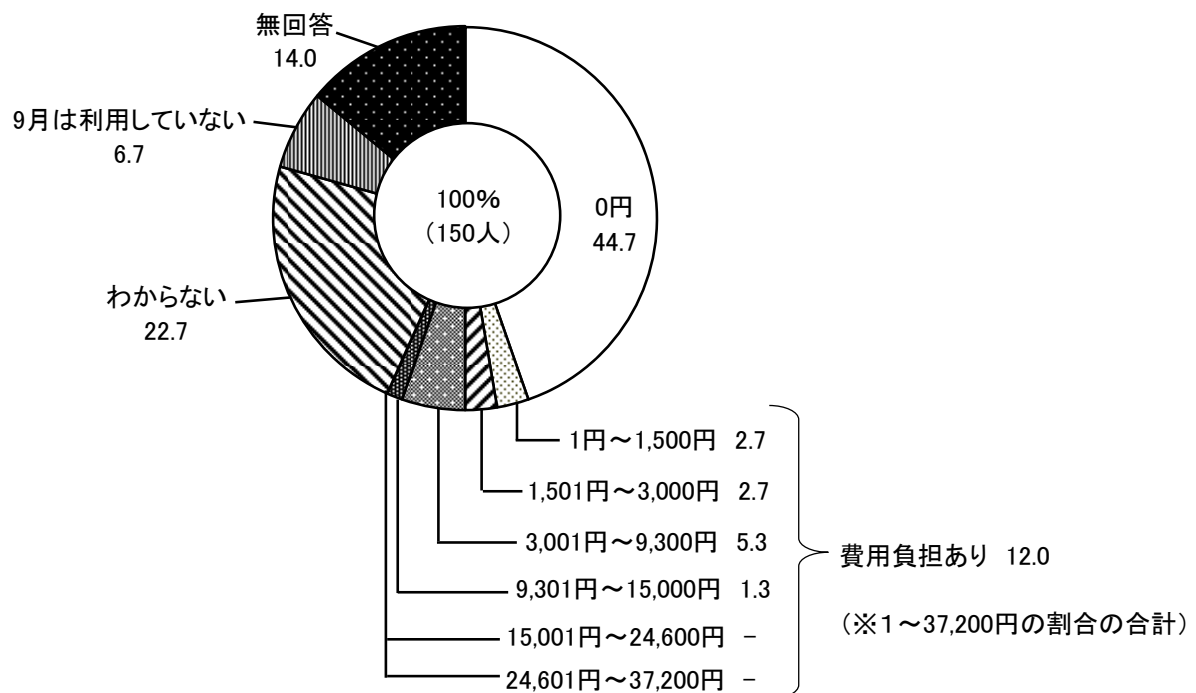
(6) 障害者総合支援法における障害福祉サービスの費用負担

※過去1年間に障害者総合支援法のサービスを利用した150人が対象

しょうがいしやそうごうしえんほう 障害者総合支援法における障害福祉サービスの費用負担額は「0円」の割合が44.7%
しょうがいふくし ひょうふたんがく えん わりあい

障害者総合支援法による障害福祉サービスの平成30年9月の費用負担額（食費等実費負担は除く）を聞いたところ、「0円」が44.7%となっている。一方で、「費用負担がある人（1円～37,200円）」の割合が12.0%となっている。（図IV-9-5）

図IV-9-5 障害者総合支援法における障害福祉サービスの費用負担



(7) 日常生活自立支援事業の利用意向

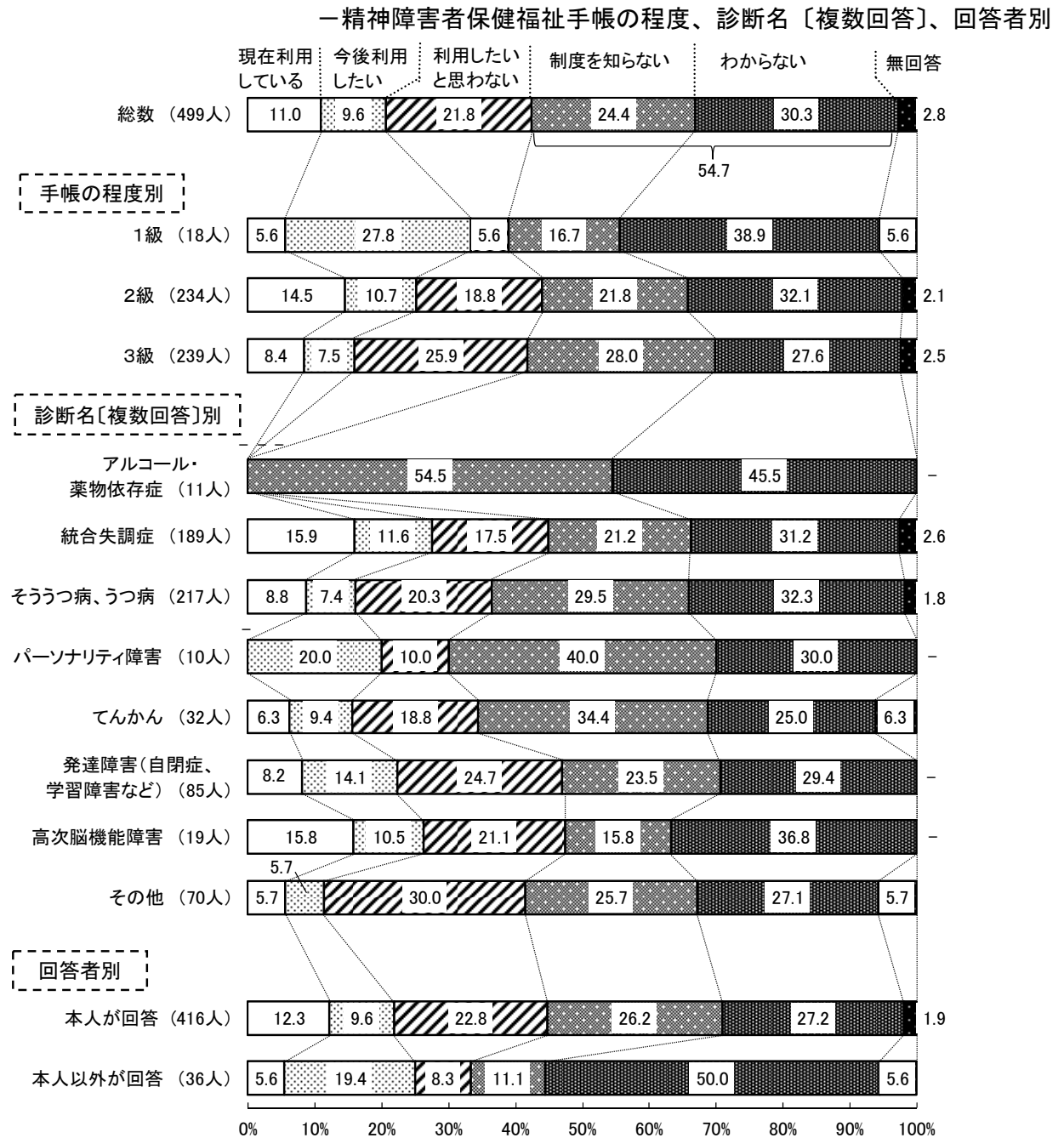
—精神障害者保健福祉手帳の程度、診断名〔複数回答〕、回答者別

日常生活自立支援事業を「今後利用したい」人の割合は9.6%

日常生活自立支援事業を利用するつもりがあるか聞いたところ、「わからない」の割合が30.3%で、「制度を知らない」(24.4%)と合わせると5割を超えている。一方で、「今後利用したい」の割合が9.6%となっている。

精神障害者保健福祉手帳の程度別にみると、「今後利用したい」の割合は、1級が27.8%となっている。(図IV-9-6)

図IV-9-6 日常生活自立支援事業の利用意向



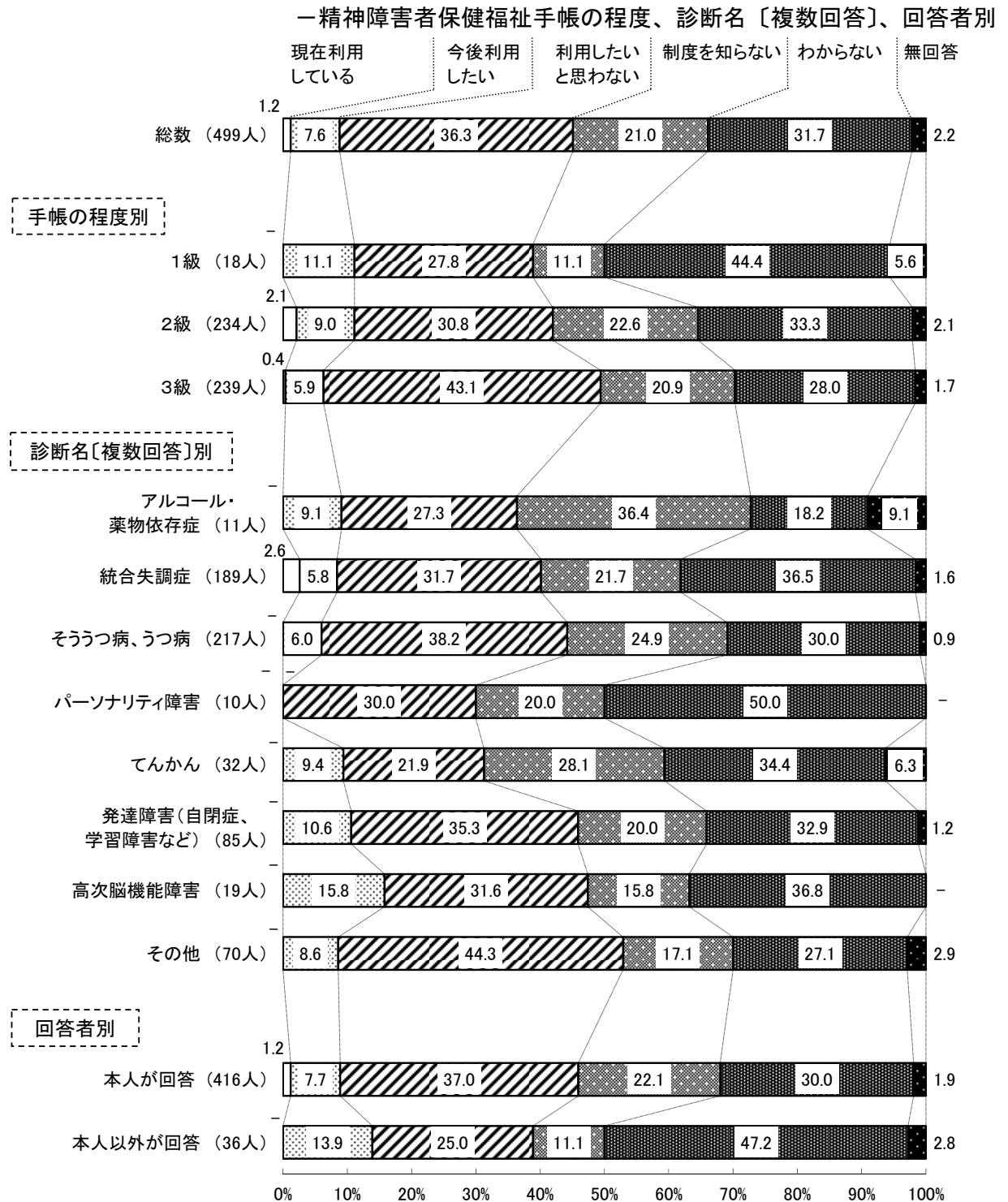
注) 回答者別については、回答者が不明のものは省略した。

(8) 成年後見制度の利用意向—精神障害者保健福祉手帳の程度、診断名〔複数回答〕、回答者別

成年後見制度を「今後利用したい」と答えた人の割合は7.6%

成年後見制度を利用するつもりがあるが聞いたところ、「利用したいと思わない」の割合が36.3%、「わからない」が31.7%となっている。一方で、「今後利用したい」の割合が7.6%となっている。(図IV-9-7)

図IV-9-7 成年後見制度の利用意向



注)回答者別については、回答者が不明のものは省略した。

(9) 介護保険制度の利用の有無一年齢階級別

※調査基準日現在 40 歳以上の 363 人が対象

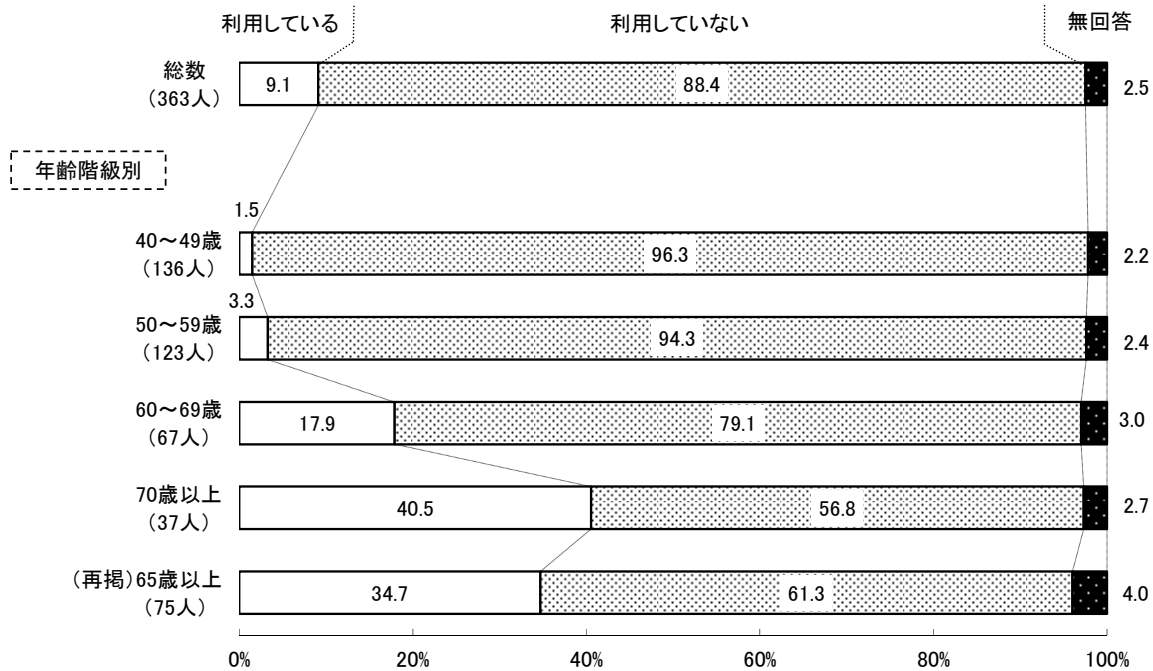
介護保険制度を「利用している」人の割合は 9.1%

介護保険制度の利用状況を聞いたところ、「利用している」の割合は 9.1%、「利用していない」が 88.4%となっている。

年齢階級別にみると、「利用している」の割合は、70 歳以上が 40.5%となっている。

(図IV-9-8)

図IV-9-8 介護保険制度の利用の有無一年齢階級別



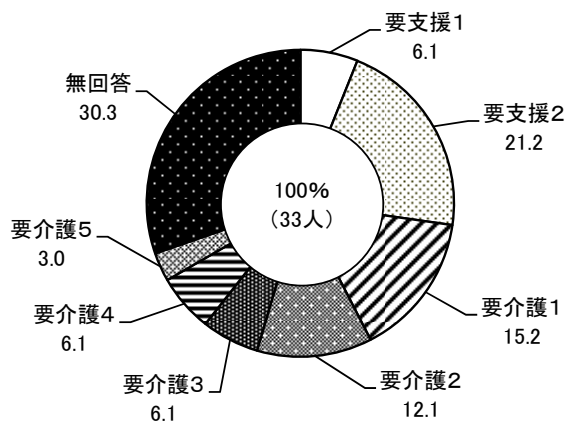
(10) 介護保険制度の要介護度

※介護保険制度を利用している 33 人が対象

介護保険制度を利用している人の要介護度は「要支援2」の割合が 21.2%

介護保険制度を利用している人の要介護度を聞いたところ、「要支援2」の割合が 21.2%、「要介護1」が 15.2%、「要介護2」が 12.1%となっている。(図IV-9-9)

図IV-9-9 介護保険制度の要介護度



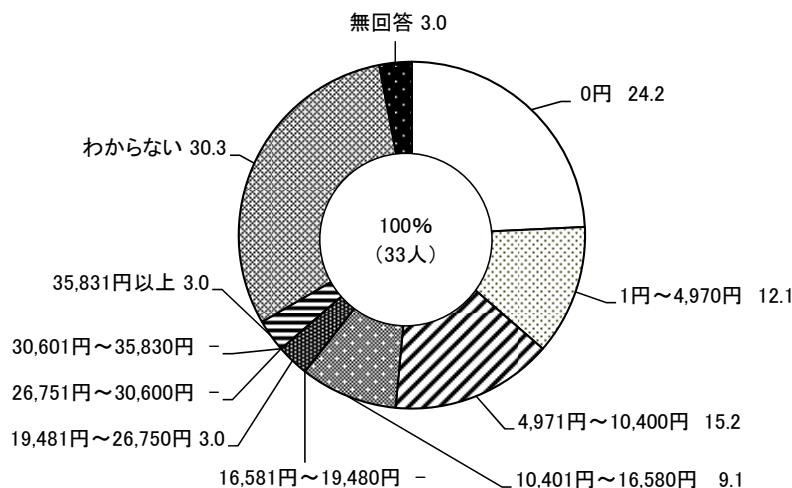
(11) 介護保険法におけるサービスの費用負担

※介護保険制度を利用している 33 人が対象

介護保険法におけるサービスの費用負担は「0円」の割合が 24.2%

介護保険法におけるサービスの費用負担額は「0円」の割合が 24.2%、「4,971円～10,400円」が 15.2%、「1円～4,970円」が 12.1%となっている。(図IV-9-10)

図IV-9-10 介護保険法におけるサービスの費用負担



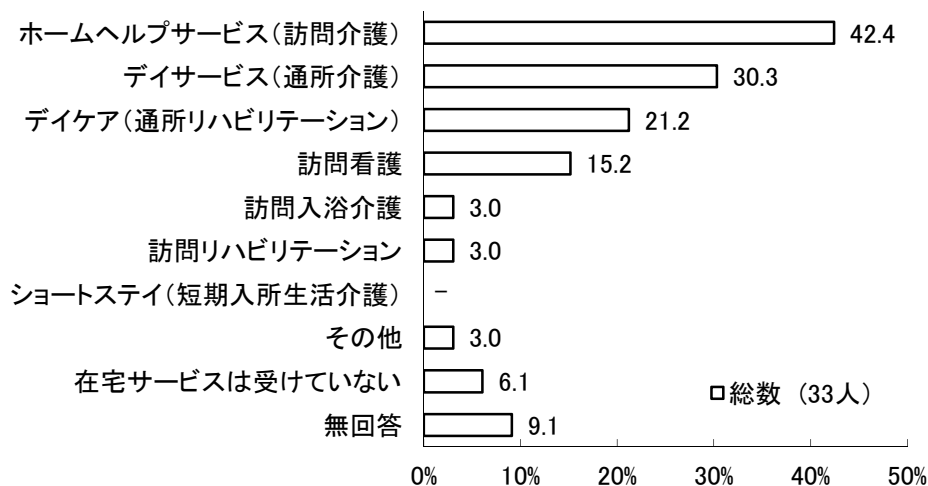
(12) 介護保険で受けている在宅サービス〔複数回答〕

※介護保険制度を利用している 33 人が対象

介護保険で受けている在宅サービスは、「ホームヘルプサービス」の割合が 42.4%

介護保険制度を利用している人に、どのような内容の在宅サービスを受けているか聞いたところ、「ホームヘルプサービス（訪問介護）」の割合が 42.4%、「デイサービス（通所介護）」が 30.3%となっている。(図IV-9-11)

図IV-9-11 介護保険で受けている在宅サービス〔複数回答〕



(13) 介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容

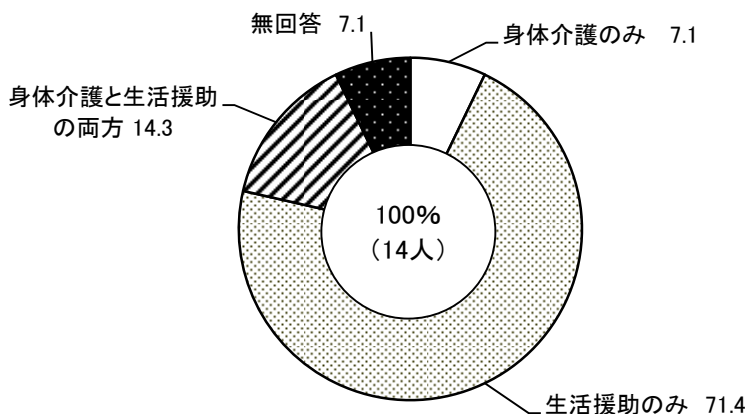
※介護保険でホームヘルプサービスを受けている 14 人が対象

介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容は「生活援助のみ」の割合が最も高く 71.4%

介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容を聞いたところ、「生活援助のみ」の割合が 71.4%で最も高く、また、「身体介護と生活援助の両方」が 14.3%となっている。

(図IV-9-12)

図IV-9-12 介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容



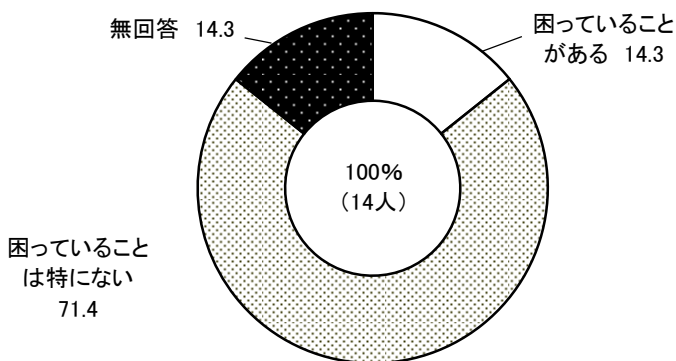
(14) 介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容で困っていること

※介護保険でホームヘルプサービスを受けている 14 人が対象

介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容で「困っていることがある」の割合は 14.3%、「困っていることは特にない」は 71.4%

介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容で困っていることがあるか聞いたところ、「困っていることがある」の割合が 14.3%、「困っていることは特にない」が 71.4%となっている。(図IV-9-13)

図IV-9-13 介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容で困っていること



10 その他の福祉サービス等

(1) 精神障害者保健福祉手帳を取得して良かったこと

—精神障害者保健福祉手帳の程度、診断名〔複数回答〕別

精神障害者保健福祉手帳を取得して良かったことは「都営交通乗車証が取得できたこと」の割合が20.6%

精神障害者保健福祉手帳を取得して良かったと思うことがあるか聞いたところ、「都営交通乗車証が取得できたこと」の割合が20.6%で、平成25年度調査と比べて、4.6ポイント増加している。

診断名別にみると、「就労しやすくなったこと」の割合は、発達障害（自閉症、学習障害など）が18.8%となっている。（表IV-10-1）

表IV-10-1 精神障害者保健福祉手帳を取得して良かったこと

—精神障害者保健福祉手帳の程度、診断名〔複数回答〕別

		総数	税金が安くなったこと	就労しやすくなったこと	都立公園、都立美術館などの利用料が無料になったこと	休養ホームが利用できるようになったこと	生活保護の加算が増えたこと	都営交通乗車証が取得できたこと	都内路線バスの運賃の割引があること	その他	特にない	無回答
総数		100.0 (499)	7.2	7.0	11.6	-	3.4	20.6	15.2	6.6	16.2	12.0
手帳の程度別	1級	100.0 (18)	11.1	-	5.6	-	-	5.6	16.7	5.6	38.9	16.7
	2級	100.0 (234)	9.4	2.6	13.2	-	5.6	16.2	17.1	6.4	19.2	10.3
	3級	100.0 (239)	5.0	12.1	10.5	-	1.7	26.4	13.4	6.7	11.3	13.0
診断名〔複数回答〕別	アルコール・薬物依存症	100.0 (11)	9.1	-	9.1	-	9.1	18.2	36.4	9.1	9.1	-
	統合失調症	100.0 (189)	10.1	2.6	13.2	-	5.3	16.4	18.0	4.8	17.5	12.2
	そううつ病、うつ病	100.0 (217)	5.5	6.0	9.7	-	1.8	26.3	16.1	7.4	14.3	12.9
	パーソナリティ障害	100.0 (10)	10.0	-	-	-	-	10.0	30.0	10.0	10.0	30.0
	てんかん	100.0 (32)	3.1	-	18.8	-	9.4	21.9	9.4	9.4	12.5	15.6
	発達障害（自閉症、学習障害など）	100.0 (85)	5.9	18.8	9.4	-	2.4	23.5	8.2	5.9	14.1	11.8
	高次脳機能障害	100.0 (19)	15.8	-	15.8	-	-	10.5	15.8	10.5	10.5	21.1
その他	100.0 (70)	4.3	11.4	8.6	-	1.4	22.9	15.7	4.3	17.1	14.3	
平成25年度		100.0 (537)	8.8	3.0	8.0	0.7	6.7	16.0	17.7	5.6	21.0	12.5

(2) 将来暮らしたいところ一年齢階級、住居の種類、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

将来暮らしたいところは「家族が住んでいる家」の割合が42.1%

将来どこで暮らしたいか聞いたところ、「家族が住んでいる家」の割合が42.1%、「家族から独立して生活（グループホーム等での生活を除く）」が25.1%となっている。

年齢階級別にみると、「家族から独立して生活（グループホーム等での生活を除く）」の割合は、29歳以下が55.0%で最も高くなっている。

現在一緒に生活している人別にみると、「配偶者」と生活している人及び「子供」と生活している人では、「家族が住んでいる家」の割合がいずれも7割を超えている（75.9%、72.2%）。

（表IV-10-2）

表IV-10-2 将来暮らしたいところ

一年齢階級、住居の種類、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

		総数	家族が住んでいる家	グループホーム	等生活の（グループホームを除外）	家族から独立して生活する	その他	わからない	無回答
総数		100.0 (499)	42.1	3.6	25.1	5.4	22.2	1.6	
年齢階級別	29歳以下	100.0 (40)	25.0	5.0	55.0	-	15.0	-	
	30～39歳	100.0 (96)	41.7	3.1	27.1	3.1	24.0	1.0	
	40～49歳	100.0 (136)	47.1	1.5	19.1	2.9	29.4	-	
	50～59歳	100.0 (123)	41.5	4.1	26.8	8.1	18.7	0.8	
	60～69歳	100.0 (67)	47.8	6.0	14.9	7.5	17.9	6.0	
	70歳以上	100.0 (37)	35.1	5.4	21.6	13.5	18.9	5.4	
	(再掲)65歳以上	100.0 (75)	36.0	5.3	21.3	13.3	17.3	6.7	
住居別	持家	100.0 (193)	53.9	2.1	18.7	5.7	18.1	1.6	
	借家・賃貸住宅等	100.0 (281)	36.3	3.9	29.5	5.0	24.6	0.7	
現在一緒に生活している人〔複数回答〕別	親	100.0 (170)	49.4	2.4	27.1	2.9	17.6	0.6	
	配偶者	100.0 (116)	75.9	4.3	6.0	3.4	8.6	1.7	
	子供	100.0 (72)	72.2	4.2	4.2	4.2	12.5	2.8	
	兄弟姉妹	100.0 (56)	46.4	3.6	25.0	1.8	21.4	1.8	
	その他の親族	100.0 (13)	53.8	-	38.5	7.7	-	-	
	一人で暮らしている	100.0 (166)	13.3	4.8	38.0	7.8	36.1	-	

注1) 「住居の種類」及び「現在一緒に生活している人」は在宅者を対象とした設問のため、総数は488人である。

2) 「住居の種類別」のうち、「福祉ホーム、グループホーム」及び「その他」、「現在一緒に生活している人〔複数回答〕別」のうち、「その他」は、母数が少数のため、省略した。

(3) 今後利用したい福祉サービス等〔複数回答〕

一年齢階級、診断名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

今後利用したい福祉サービス等は、「相談サービス（地域活動支援センターなど）」の割合が22.2%

今後利用したい福祉サービス等は何か聞いたところ、「相談サービス」の割合が22.2%、「就労支援サービス」が21.0%、「ホームヘルプサービス」が15.6%となっている。

年齢階級別にみると、「就労支援サービス」の割合は、29歳以下では40.0%となっている。
(表IV-10-3)

表IV-10-3 今後利用したい福祉サービス等〔複数回答〕

一年齢階級、診断名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

		総数	ホームヘルプ	事業所など	通所サービス	ショートステイ	地域活動支援センター	相談サービス	生活支援センター	就労支援サービス	外出の充実	情報提供の充実	訪問看護	デイケア	苦情処理	自助グループ活動	その他	特にない	無回答
総数		100.0 (499)	15.6	9.0	4.0	22.2	21.0	9.4	15.2	9.2	7.4	2.8	3.2	3.8	35.7	2.8			
年齢階級別	29歳以下	100.0 (40)	7.5	10.0	5.0	20.0	40.0	7.5	15.0	-	10.0	-	-	2.5	35.0	2.5			
	30～39歳	100.0 (96)	11.5	14.6	3.1	25.0	30.2	8.3	16.7	3.1	7.3	2.1	4.2	5.2	31.3	1.0			
	40～49歳	100.0 (136)	19.9	8.1	0.7	23.5	23.5	10.3	14.7	9.6	5.1	2.2	5.9	4.4	37.5	1.5			
	50～59歳	100.0 (123)	9.8	5.7	2.4	24.4	20.3	6.5	20.3	13.0	5.7	5.7	3.3	3.3	37.4	3.3			
	60～69歳	100.0 (67)	20.9	6.0	10.4	19.4	4.5	11.9	9.0	16.4	11.9	1.5	-	4.5	34.3	6.0			
	70歳以上	100.0 (37)	29.7	13.5	10.8	10.8	-	16.2	8.1	8.1	10.8	2.7	-	-	37.8	5.4			
	(再掲) 65歳以上	100.0 (75)	26.7	10.7	9.3	13.3	4.0	13.3	8.0	14.7	13.3	2.7	-	4.0	32.0	6.7			
診断名〔複数回答〕別	アルコール・薬物依存症	100.0 (11)	-	-	9.1	36.4	18.2	9.1	18.2	-	18.2	-	9.1	-	27.3	-			
	統合失調症	100.0 (189)	21.7	12.2	3.7	24.9	16.4	9.0	15.3	14.8	11.1	2.6	3.7	2.6	28.0	3.7			
	そううつ病、うつ病	100.0 (217)	13.4	6.0	3.7	20.7	21.7	9.7	16.1	8.3	5.5	2.8	3.7	4.6	38.2	2.3			
	パーソナリティ障害	100.0 (10)	20.0	-	-	30.0	30.0	-	20.0	-	20.0	10.0	10.0	10.0	20.0	-			
	てんかん	100.0 (32)	18.8	3.1	6.3	25.0	18.8	18.8	21.9	6.3	-	-	-	-	40.6	6.3			
	発達障害(自閉症、学習障害など)	100.0 (85)	11.8	11.8	3.5	25.9	32.9	9.4	24.7	3.5	7.1	4.7	4.7	5.9	29.4	1.2			
	高次脳機能障害	100.0 (19)	15.8	21.1	21.1	15.8	21.1	-	15.8	5.3	21.1	-	-	5.3	36.8	-			
	その他	100.0 (70)	11.4	8.6	4.3	17.1	20.0	5.7	15.7	7.1	1.4	4.3	2.9	7.1	44.3	2.9			
主に過ごしたところ別	自分の家	100.0 (297)	18.2	7.7	4.4	23.2	17.5	12.1	15.2	10.4	7.7	3.0	1.7	4.4	35.7	2.7			
	職場(福祉的就労の施設を除く)	100.0 (88)	4.5	5.7	1.1	25.0	29.5	4.5	17.0	3.4	2.3	2.3	5.7	3.4	47.7	-			
	職場(福祉的就労の施設)	100.0 (39)	17.9	20.5	2.6	20.5	38.5	7.7	17.9	17.9	2.6	5.1	5.1	2.6	23.1	-			
	通所施設(生活介護・自立訓練事業所など)	100.0 (15)	26.7	6.7	6.7	6.7	20.0	-	20.0	20.0	6.7	-	13.3	13.3	26.7	-			
	デイケア等	100.0 (14)	28.6	14.3	21.4	7.1	7.1	-	14.3	-	57.1	-	-	-	14.3	-			
平成25年度	100.0 (537)	14.7	5.8	6.3	22.0	20.5	...	17.9	8.4	10.8	4.7	4.1	4.1	33.9	5.6				

注1) 「平日の日中主に過ごしたところ別」のうち、「学校」、「地域活動支援センター」、「入所施設」及び「その他」は、母数が少数のため、省略した。

2) ※は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。

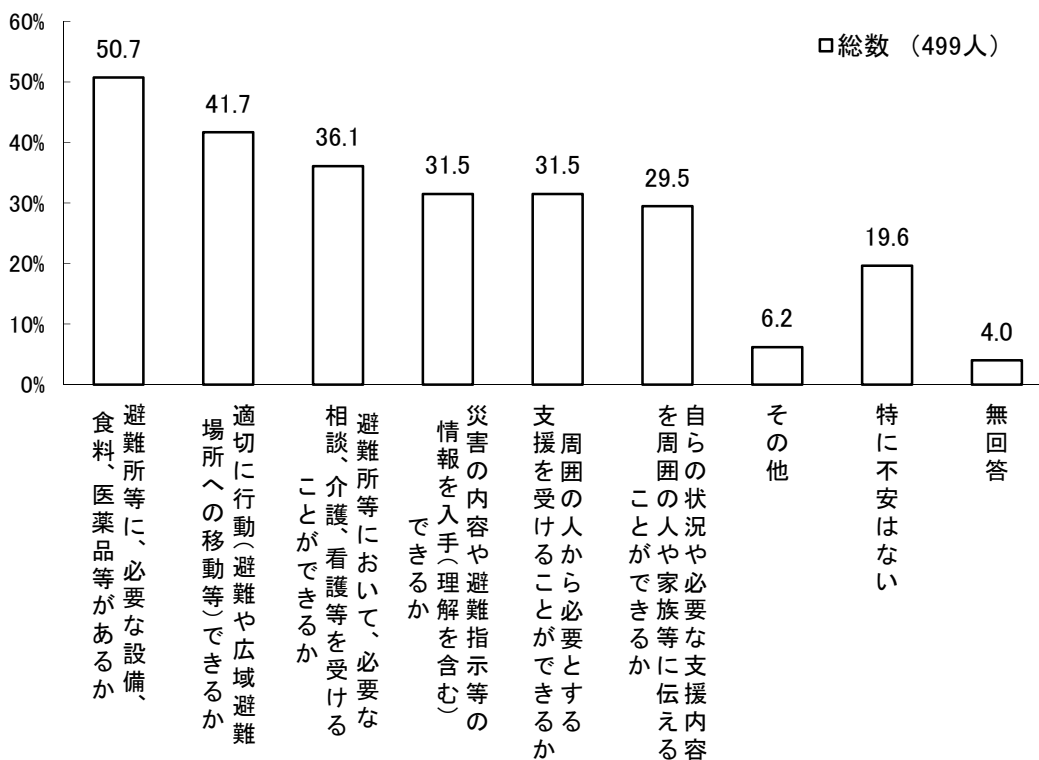
11 災害関係

(1) 災害時に不安を感じる事〔複数回答〕

災害時に不安を感じることは、「避難所等に、必要な設備、食料、医薬品等があるか」が50.7%

災害時に不安を感じることを聞いたところ、「避難所等に、必要な設備、食料、医薬品等があるか」の割合が50.7%、「適切に行動（避難や広域避難場所への移動等）できるか」が41.7%となっている。（図IV-11-1）

図IV-11-1 災害時に不安を感じる事〔複数回答〕



(2) 災害時に不安を感じる事〔複数回答〕－精神障害者保健福祉手帳の程度、年齢階級別

災害時に不安を感じることを精神障害者保健福祉手帳の程度別にみると、1級では「適切に行動（避難や広域避難場所への移動等）できるか」の割合が50.0%となっている。

(表IV-11-1)

表IV-11-1 災害時に不安を感じる事〔複数回答〕－精神障害者保健福祉手帳の程度、年齢階級別

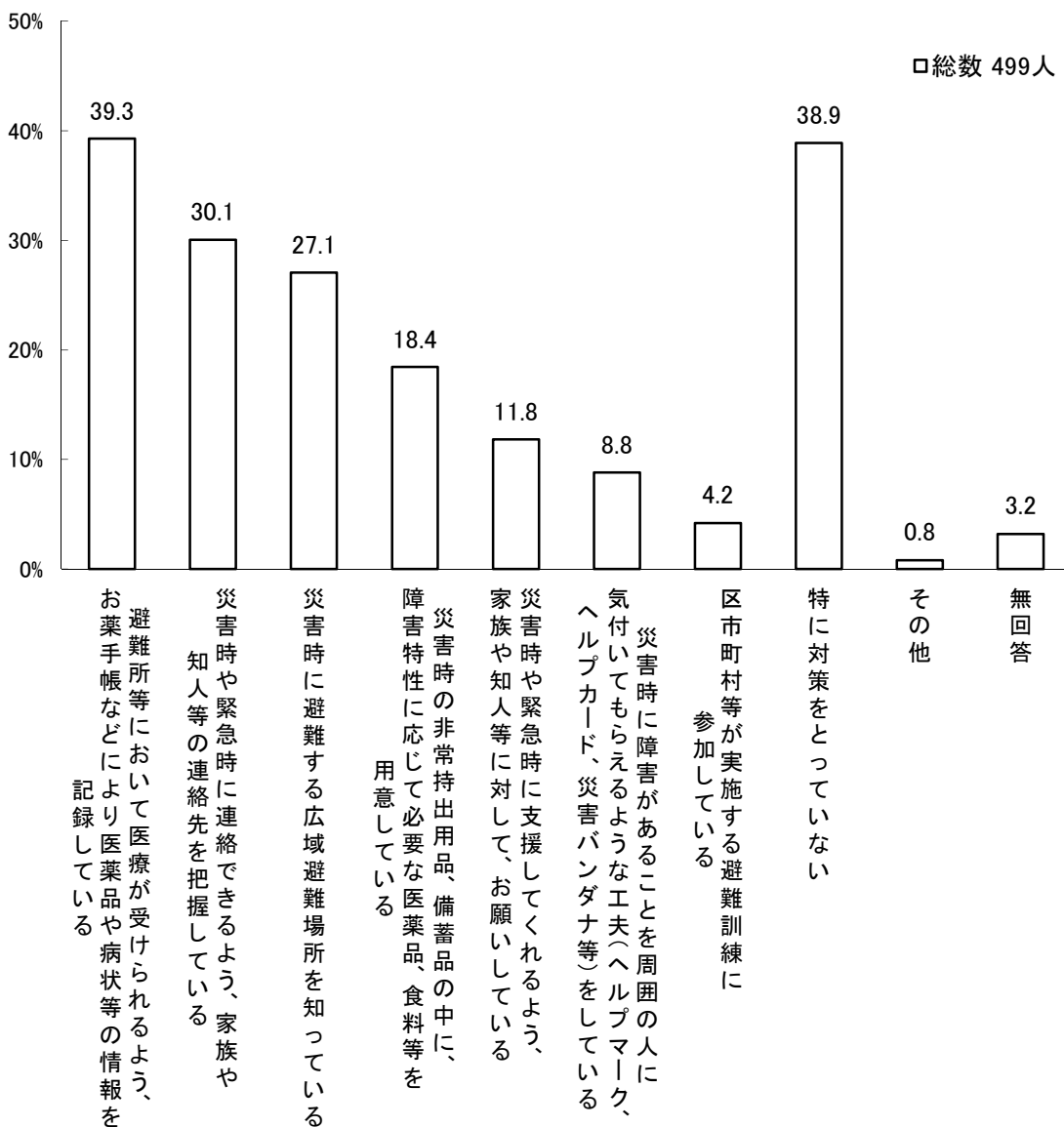
		総数	災害の内容や避難指示等の情報を入手（理解を含む）できるか	適切に行動（避難や広域避難場所への移動等）できるか	周囲の人や家族等に伝えることができるか	自らの状況や必要な支援内容がわかるか	周囲の人が必要とする支援を受けられるか	避難所等において、必要な相談、介護、看護等を受けることができるか	避難所等があるか	その他	特に不安はない	無回答
総数		100.0 (499)	31.5	41.7	29.5	31.5	36.1	50.7	6.2	19.6	4.0	
手帳の程度別	1級	100.0 (18)	22.2	50.0	27.8	38.9	27.8	44.4	-	11.1	11.1	
	2級	100.0 (234)	38.0	47.4	33.3	36.3	42.3	51.7	3.8	19.7	2.6	
	3級	100.0 (239)	26.8	36.0	26.4	27.2	31.4	51.5	9.2	20.1	3.8	
年齢階級別	29歳以下	100.0 (40)	37.5	42.5	35.0	40.0	35.0	52.5	5.0	10.0	2.5	
	30～39歳	100.0 (96)	25.0	44.8	36.5	26.0	30.2	50.0	9.4	18.8	1.0	
	40～49歳	100.0 (136)	33.1	41.2	30.1	36.8	39.7	56.6	9.6	22.1	0.7	
	50～59歳	100.0 (123)	31.7	38.2	29.3	30.9	33.3	52.8	4.1	17.1	6.5	
	60～69歳	100.0 (67)	34.3	43.3	23.9	31.3	43.3	41.8	1.5	20.9	10.4	
	70歳以上	100.0 (37)	29.7	43.2	13.5	18.9	35.1	37.8	2.7	29.7	5.4	
	(再掲) 65歳以上	100.0 (75)	32.0	42.7	18.7	24.0	44.0	40.0	2.7	21.3	9.3	

(3) 災害に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕

「避難所等において医療が受けられるよう、お薬手帳などにより医薬品や病状等の情報を記録している」の割合が39.3%。一方で、「特に対策をとっていない」の割合は38.9%

災害に備えて、障害特性に応じて特別な対策をとっているか聞いたところ、対策をしている内容では「避難所等において医療が受けられるよう、お薬手帳などにより医薬品や病状等の情報を記録している」の割合が39.3%、「災害時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人等の連絡先を把握している」の割合が30.1%となっている。一方で、「特に対策をとっていない」の割合が38.9%となっている。(図IV-11-2)

図IV-11-2 災害に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕



(4) 災害に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕

－精神障害者保健福祉手帳の程度、年齢階級別

災害に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているかを精神障害者保健福祉手帳の程度別にみると、1級では「避難所等において医療が受けられるよう、お薬手帳などにより医薬品や病状等の情報を記録している」の割合が50.0%、「災害時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人等の連絡先を把握している」が44.4%となっている。（表IV-11-2）

表IV-11-2 災害に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕

－精神障害者保健福祉手帳の程度、年齢階級別

	総数	災害時に非常時に必要な医薬品、食料等を	災害時の非常に必要な医薬品、食料等を	記録している	お薬手帳などにより医療が受けられるよう、病状等の情報を	避難所等において医療が受けられるよう、病状等の情報を	避難所等において医療が受けられるよう、病状等の情報を	災害時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人等の連絡先を把握している	災害時や緊急時に支援してくれよう、お願いしている	家族や知人等に対して、お願いしている	災害時や緊急時に避難する広域避難場所を知っている	区市町村等が実施する避難訓練に参加している	カード、災害パンダナ等）をしている	災害時に障害があることを周囲の人に気付いてもらえるよう工夫（ヘルプマーク、ヘルプカード、災害パンダナ等）をしている	その他	特に対策をとっていない	無回答
総数	100.0 (499)	18.4	39.3	30.1	11.8	27.1	4.2	8.8	0.8	38.9	3.2						
手帳の程度別	1級	100.0 (18)	11.1	<u>50.0</u>	<u>44.4</u>	16.7	27.8	-	11.1	-	27.8	11.1					
	2級	100.0 (234)	19.7	41.0	29.9	12.0	27.4	5.6	10.3	1.7	35.5	3.0					
	3級	100.0 (239)	18.4	36.8	28.9	11.3	26.4	3.3	7.1	-	43.1	2.5					
年齢階級別	29歳以下	100.0 (40)	10.0	40.0	32.5	7.5	32.5	2.5	12.5	-	35.0	2.5					
	30～39歳	100.0 (96)	13.5	35.4	31.3	15.6	26.0	3.1	9.4	-	39.6	2.1					
	40～49歳	100.0 (136)	24.3	38.2	28.7	11.0	25.0	4.4	8.1	0.7	41.2	0.7					
	50～59歳	100.0 (123)	18.7	40.7	27.6	10.6	28.5	2.4	9.8	-	38.2	4.9					
	60～69歳	100.0 (67)	13.4	40.3	37.3	13.4	28.4	9.0	9.0	3.0	35.8	6.0					
	70歳以上	100.0 (37)	27.0	45.9	24.3	10.8	24.3	5.4	2.7	2.7	40.5	5.4					
	(再掲) 65歳以上	100.0 (75)	18.7	41.3	22.7	9.3	22.7	6.7	6.7	2.7	40.0	8.0					